

平成27年度のモニタリング結果（全体）

【目次】

- | | | |
|----------------------|-------|-----|
| 1. モニタリング調査の枠組み | | P2 |
| 2. 平成27年度のモニタリング計画 | | P4 |
| 3. 太郎右衛門地区全体の調査 | | P9 |
| 4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査 | | P85 |

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

1. モニタリング調査の枠組み

- 生態系モニタリング専門委員会では、2つの枠組みでモニタリング調査を考えて行くことが合意されました。
- **太郎右衛門地区全体の調査** → 地区全体の環境を良好な状態で管理していくために必要な情報の収集
- **自然再生事業の実施計画に関わる調査(整備の効果を見る調査)** → 目標種の生態に応じた情報の収集

●太郎右衛門地区全体の調査

(1段階)網羅的な調査

- 地区全体でどこにどのような生物が生息・生育するかという情報は現時点で不十分なため、これを把握します。



(2段階)①貴重な種および良好な環境に対する調査

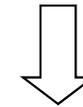
- 保全管理が必要となる貴重な種や良好な環境の実態を把握します。

(2段階)②外来種などの問題生物に対する調査

- 抑制管理が必要となる外来種などの問題生物の実態を把握します。

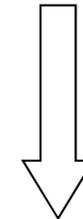
●自然再生事業の実施計画に関わる調査

(1段階)目標種の出現の有無を確認する調査



(2段階)目標種の生息・生育実態を確認する調査

- 繁殖や採餌など、整備地の利用実態を把握します。



(3段階)目標種の定着状況を確認する調査

- 整備地での定着状況を把握します。

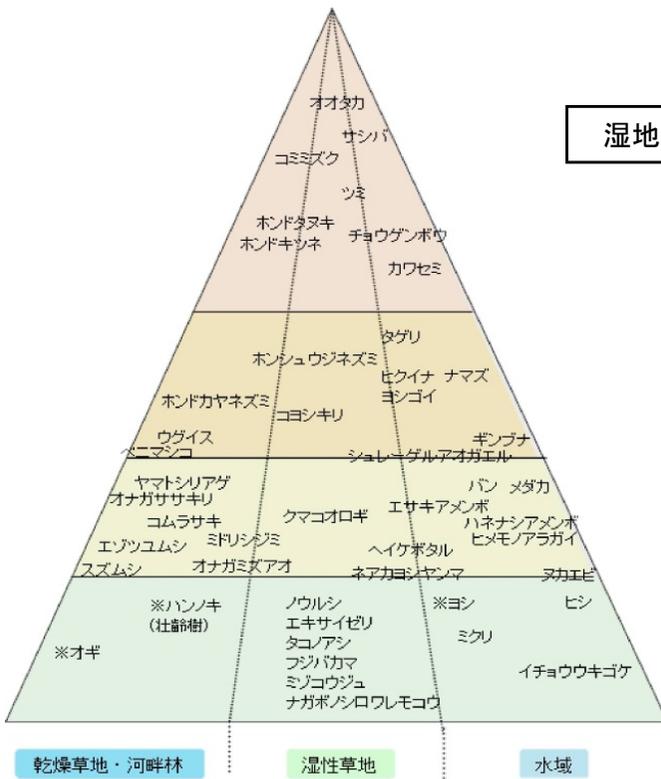
参考：目標種

●再生によって期待する生態系(全体構想書より)

- ・太郎右衛門自然再生地では、現状よりも豊かな湿地環境があったとされている。特に現在乾燥化著しい上池でも、かつては湧水によって開放水面が形成されていたとされる。
- ・過去に確認された近年確認記録のないタマシギ、クイナ、サクラソウなどが普通に見られる様な湿地環境の再生が望まれる。

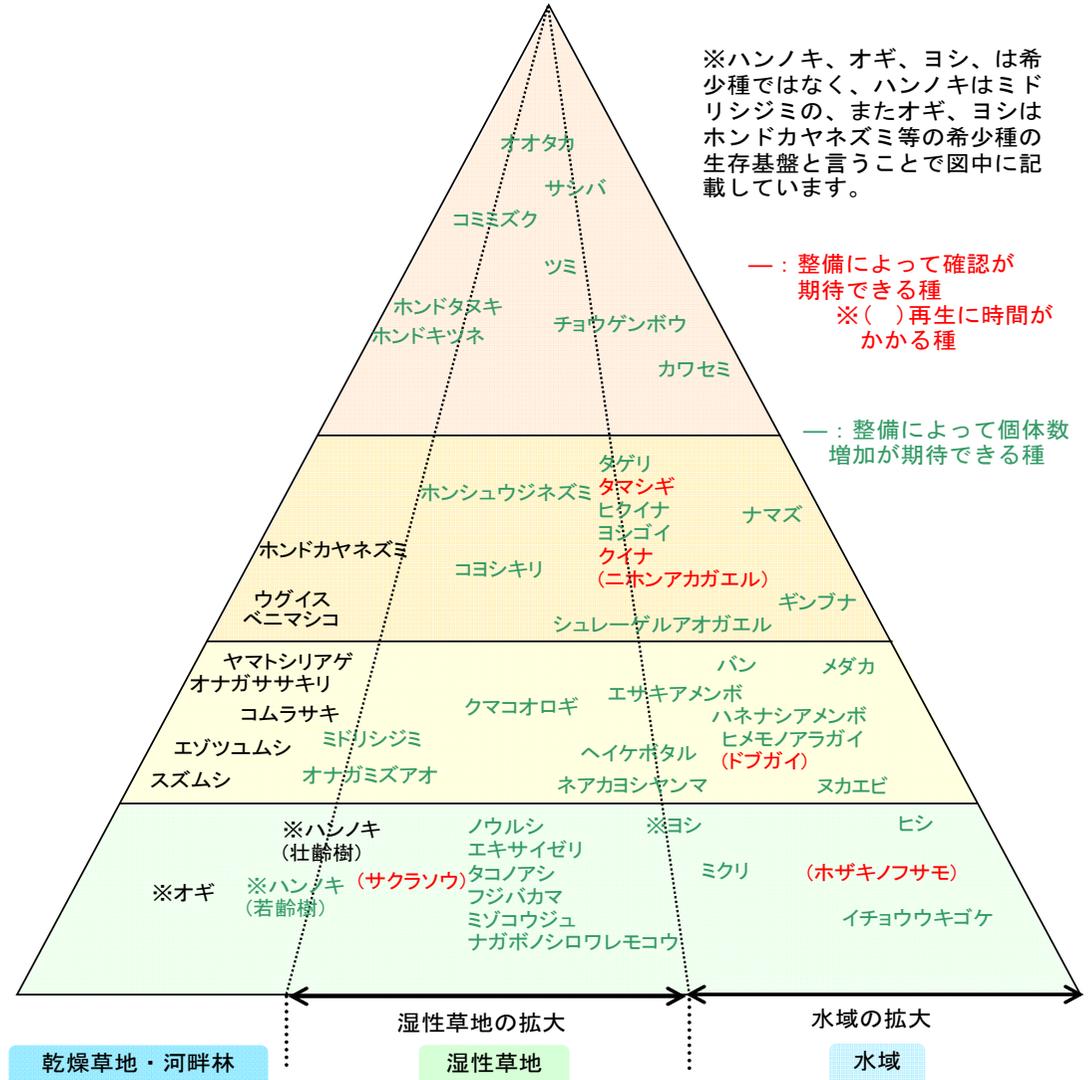
記載種：確認された希少種の内、代表種のみ

現状の生態系



湿地環境の整備

整備後に期待される生態系



※ハンノキ、オギ、ヨシ、は希少種ではなく、ハンノキはミドリシジミの、またオギ、ヨシはホンドカヤネズミ等の希少種の生存基盤と言うことで図中に記載しています。

—：整備によって確認が期待できる種
※()再生に時間がかかる種

—：整備によって個体数増加が期待できる種

2. H27モニタリング計画

: 報告部分

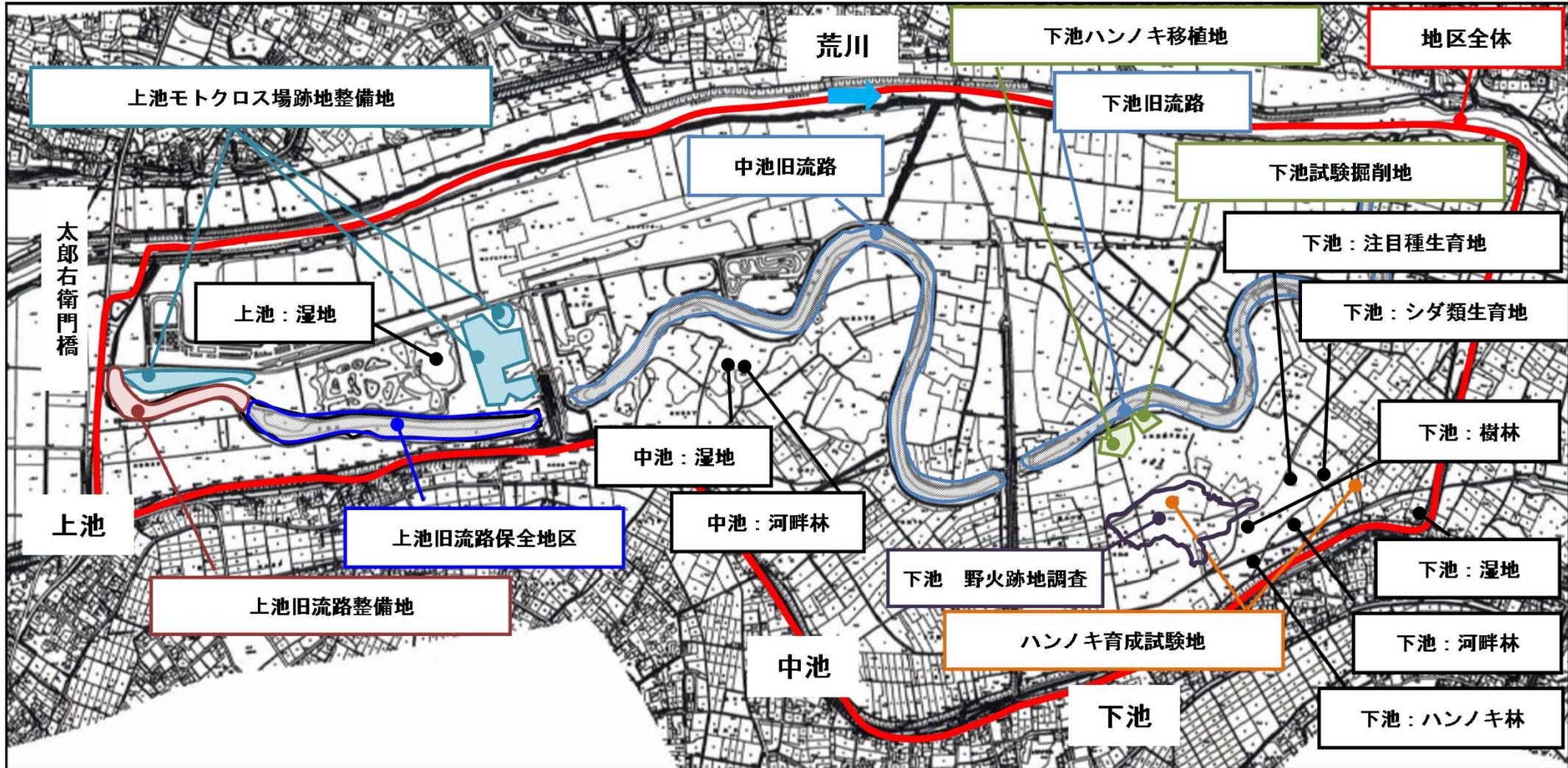
区分	場所	テーマ	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考	
太郎右衛門地区全体の調査	旧流路・全域	水位・地下水位													・連続観測	
	旧流路	水質	●		●		●		●		●		●		・6回調査	
	特定の場所	植物	写真	●		●		●		●		●		●		・2ヶ月に1回
			植物相		●					●						・5月・10月
			植生図							●						・夏～秋季：群落成立期
		群落組成							●						・夏～秋季：群落成立期（下池樹林のみ実施）	
	全域	鳥類			●											・6月：多くの鳥類の繁殖期
		陸上昆虫類			●		●									・6月：ミドリシジミ・トンボ類等の出現期 ・8月：多種の確認適期
		両生類・爬虫類・哺乳類 試行調査			●									●		・H28本格実施に向け目標種の一部を実施 タヌキ・キツネ：自動撮影カメラ ニホンアカガエル：早春季に卵塊調査 シュレーゲルアオガエル：繁殖期鳴声調査
		下池野火跡地植物		●					●						・火入れによる植生管理効果を検証 春：植物相、秋：植物相・植生・群落組成	
自然再生事業の実施計画に関わる調査	上池旧流路 保全範囲	植物 (植物相)		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：オナモミの確認適期（冠水で中止）	
	上池旧流路 整備地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・毎月	
		植物	植物相		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：一般的な水生・湿生植物の確認適期
			植生図							●						・夏～秋季：群落成立期
			群落組成							●						・6月：繁殖期
		鳥類			●										・6月：コイ科魚種の産卵期（当初5月を予定したが水位が低いため延期）	
		魚類			●										・2月：ニホンアカガエルの産卵期	
		両生類											●		・毎月	
	上池 モトクロス場 跡地整備地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・毎月
		植物	植物相		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：一般的な水生・湿生植物の確認適期
			植生図							●						・夏～秋季：群落成立期
			群落組成							●						・6月：繁殖期
		鳥類			●										・2月：ニホンアカガエルの産卵期	
	両生類											●		・毎月		
ハンノキ育成 試験地 下池ハンノキ 移植地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・毎月	
	ミドリシジミ					○									・7月：ミドリシジミの確認適期	
	ハンノキ (高さ・幹径・生育状態) (試験地は群落高のみ)			○							○				・6月：生育初期 ・11月：生育末期	
下池試験掘削地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・毎月	
	植物	植物相・土壌水分		●			●								・5月：整備初期 ・8月：多くの草本類の確認適期	
		植生図					●		●						・夏～秋季：群落成立期	

※初夏のハンノキ・ミドリシジミの合同調査は雨天のため中止しました。（荒上が別日程で調査しました）
 ※旧流路の保全範囲の夏季調査は冠水により中止しました。

● 荒川上流河川事務所調査、○ 協議会委員との合同調査

2. H27モニタリング計画

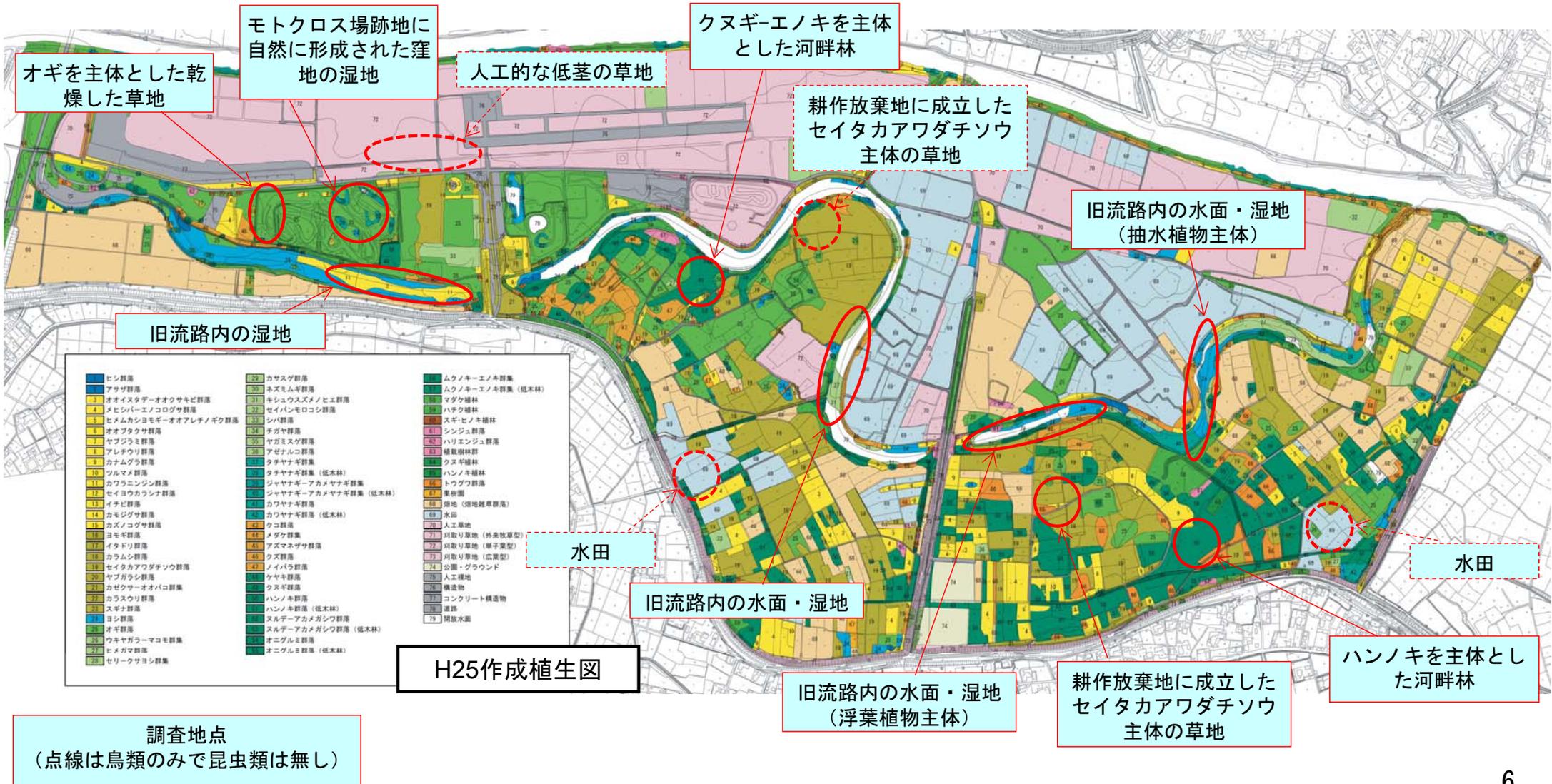
2) モニタリング調査の地点



2. H27モニタリング計画

太郎右衛門地区全体の調査の
鳥類・陸上昆虫類のモニタリング地点

- 代表的な植生の地点で実施します。(H24と同じ地点とします)
- 陸上昆虫類については、採集作業を伴うため、実施計画範囲内の地点のみとします。



2. H27モニタリング計画

生物調査の方法と実施日

1. 植物調査

調査対象		方法
植物	植物相	調査範囲内を踏査し、出現した種を記録する。
	植生図	調査範囲内を踏査し、出現した群落を記録し植生図を作成する。
	群落組成	調査範囲内の代表的な群落を対象にコドラート(2m×2m程度を想定)を設置し、階層別の分布種と被度・群度を記録し断面模式図を作成する。



2. 鳥類調査

調査対象	方法
鳥類	調査範囲を見通せる定点において、出現する種を記録する。



3. 陸上昆虫類調査

調査対象	方法
陸上昆虫類	調査範囲内を踏査し、目撃・任意採集により確認した種を記録する。



4. 両生類・爬虫類・哺乳類試行調査

調査対象	方法	
両生類・爬虫類・哺乳類 試行調査	シュレーゲルアオガエル	調査範囲内を踏査し、姿・鳴き声により生息の有無を確認・記録する。
	自動撮影	調査範囲内に自動撮影カメラを設置する。(下池に5箇所)
	アカガエル類	調査範囲内を踏査し、卵塊の有無を確認・記録する。



2. H27モニタリング計画

5. 魚類調査

調査対象	方法
魚類	調査範囲内において、タモ網・投網・セルビン等を使用し、生息する種を採捕する。



6. ミドリシジミ調査

調査対象	方法
ミドリシジミ	移植したハンノキを対象に、ミドリシジミの飛来状況を目視で確認する。



7. ハンノキ調査

調査対象	方法
ハンノキ	移植したハンノキを対象に、移植地では毎木の樹高・樹径を計測、移植地と試験地では毎木の生育状況(良否、生存・枯死など)を確認・記録する。



【調査日】

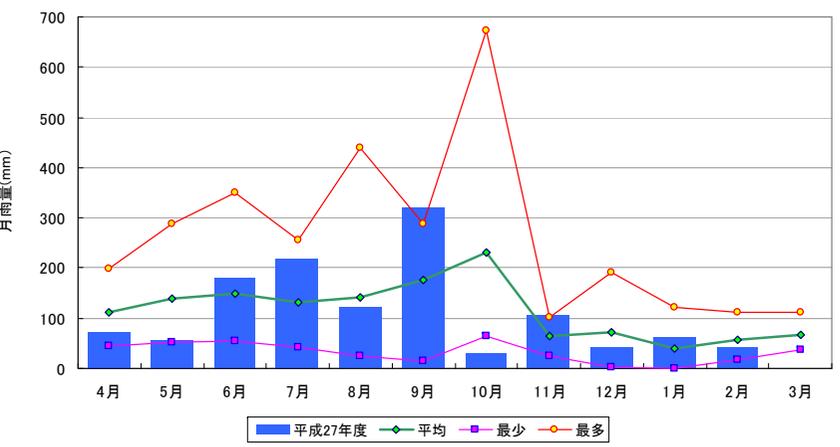
調査対象		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
植物	植物相		11-14日			3-5日		5-9日					
	植生図							5-9日					
	群落組成							5-9日					
鳥類				17-19日									
陸上昆虫類				22-24日		10-12日							
両生類・爬虫類・哺乳類 試行調査	シュレーゲルアオガエル			17-19日 22-24日									
	自動撮影			6/17~8/12									
	アカガエル類											22日	
魚類				24-25日									
ミドリシジミ				18-19日									
ハンノキ (高さ・幹径・生育状態) (試験地は群落高のみ)				15-16日					17-18日				

3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ①荒川本川水位と降雨量

- 降雨量は、6、7、9、11月に多雨でしたが、その他は平年より少ない月が多い状況でした。
- 荒川本川水位は、7月と9月に大きく上昇しました。春と秋以降は平均から最低値付近を示していました。

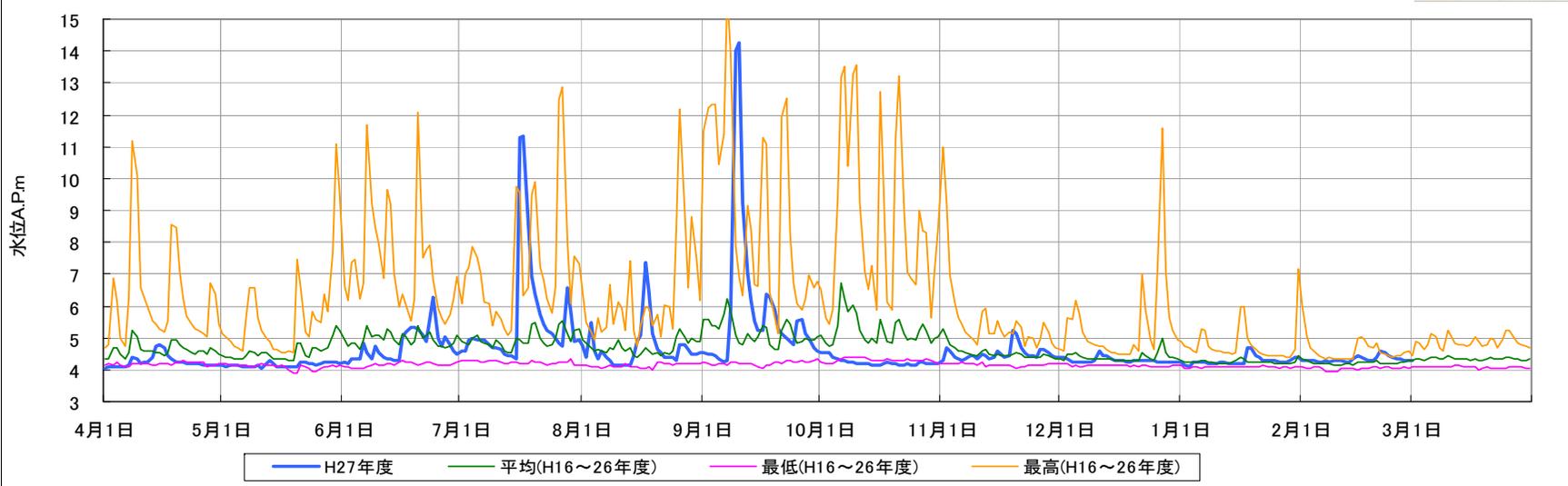
雨量(さいたまアメダス)



観測場所



荒川本川水位



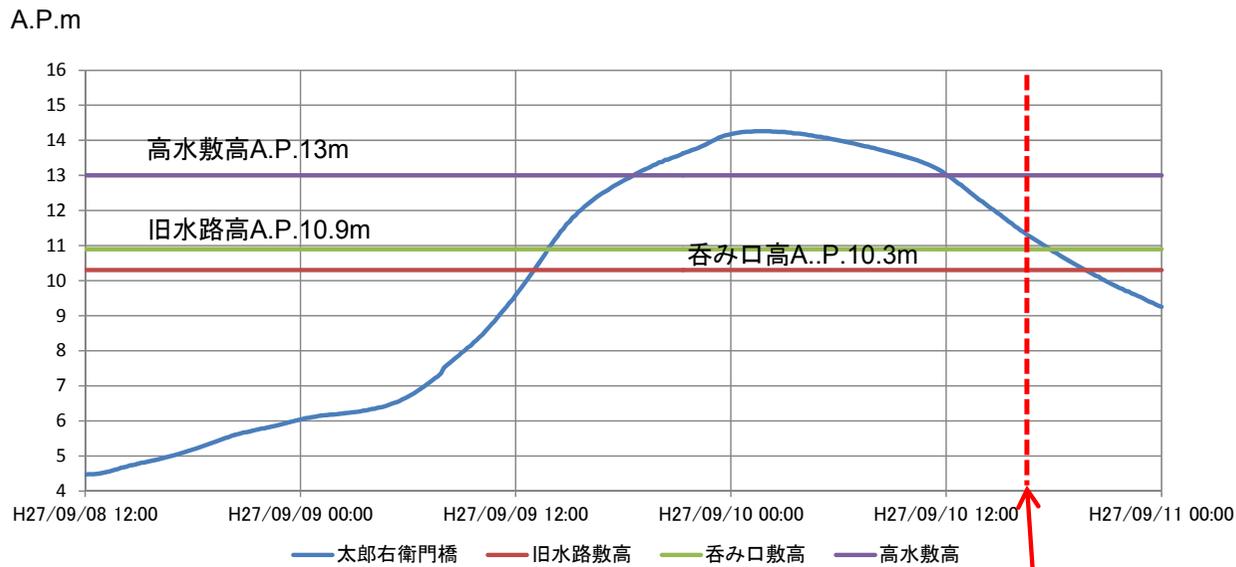
・グラフ中の平均、最低、最高は、H16～26年度の11ヶ年の1日ごとに求めたものです。

・「1日」ごとのデータは、荒川本川はその日の時間最高水位、地下水位は日平均水位です。

1) 水位・地下水位 ①荒川本川水位と降雨量

○9月10日の出水で、長い時間、旧流路への流入が発生しました。

○太郎右衛門橋水位の状況



○太郎右衛門橋から撮影(9.14)



次頁以降の空撮の時刻

台風17号・18号に伴う荒川の出水状況



台風17号・18号に伴う荒川の出水状況



台風17号・18号に伴う荒川の出水状況



台風17号・18号に伴う荒川の出水状況

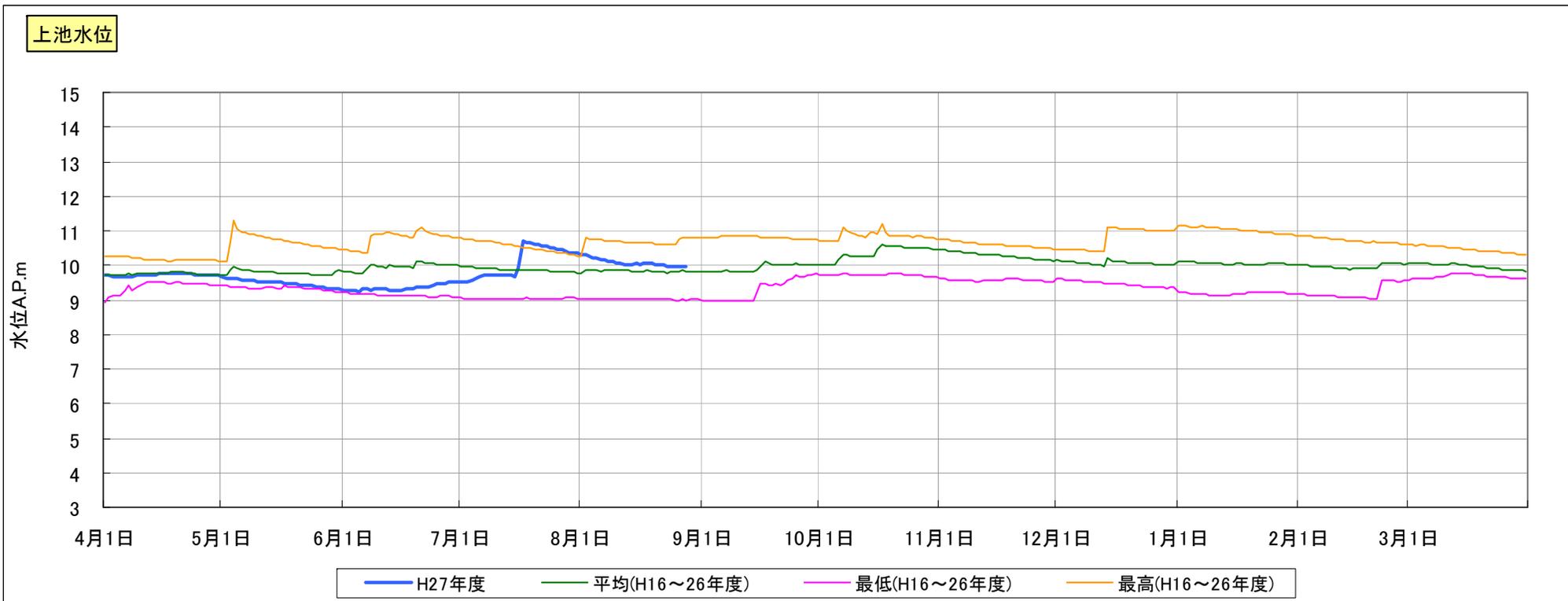
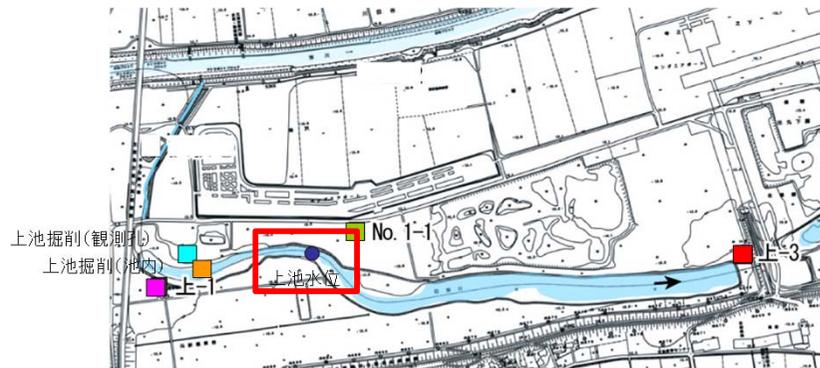


3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ②旧流路水位 上池

●4月、5月、6月まではおおむね平均値から最低値付近を、7月以降は最大から平均値付近を推移しています。

* 最新データは、水位上昇により回収できていません。



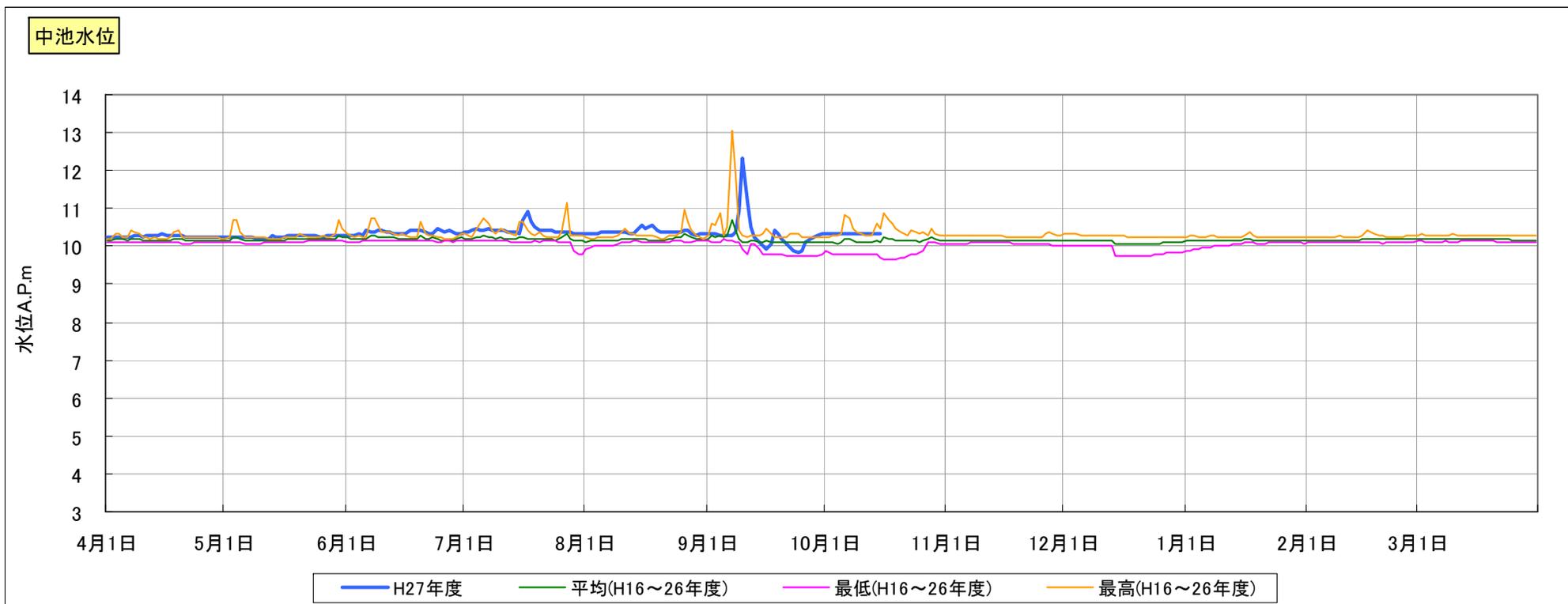
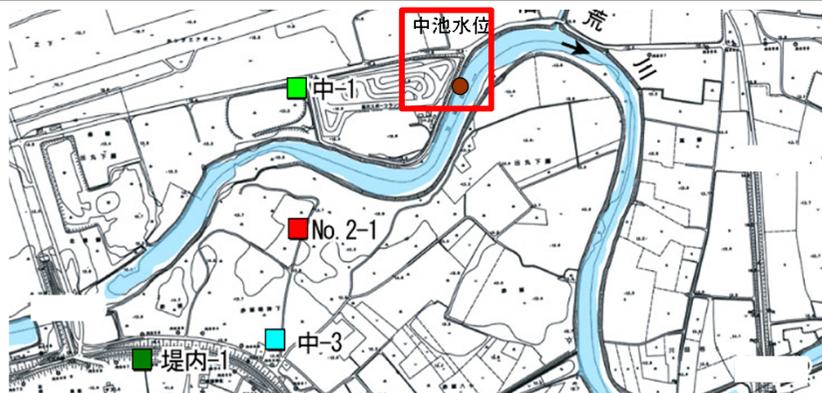
3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ②旧流路水位 中池

●おおむね最大値付近で推移しています。

* 最新データは、水位上昇により回収できていません。



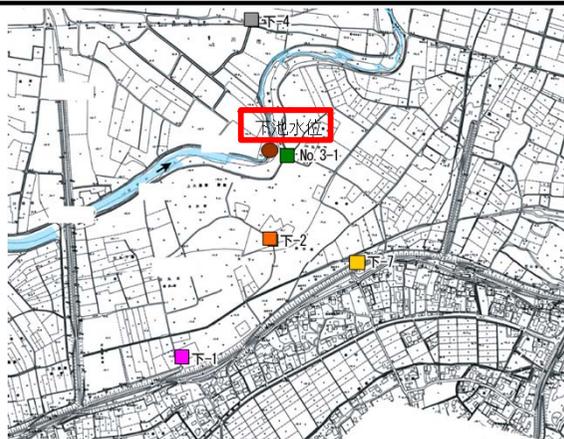
3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

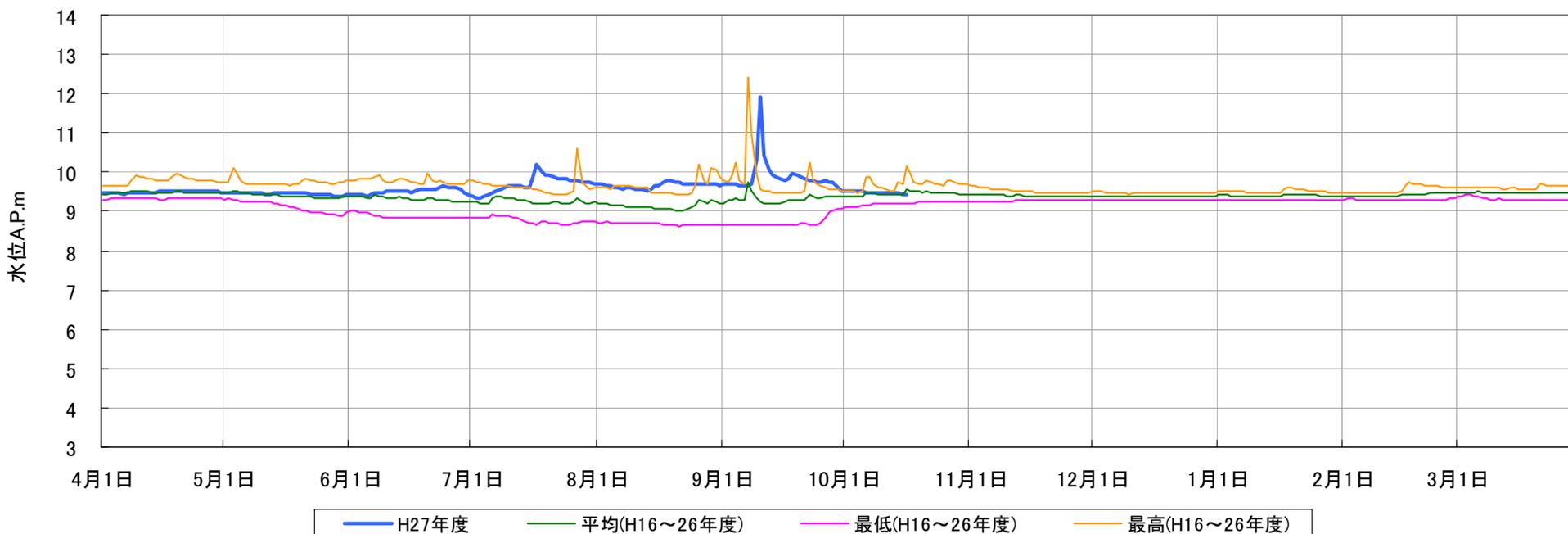
1) 水位・地下水位 ②旧流路水位 下池

●7月に最大値付近に上昇し、以後継続して推移しています。

* 最新データは、水位上昇により回収できていません。



下池水位

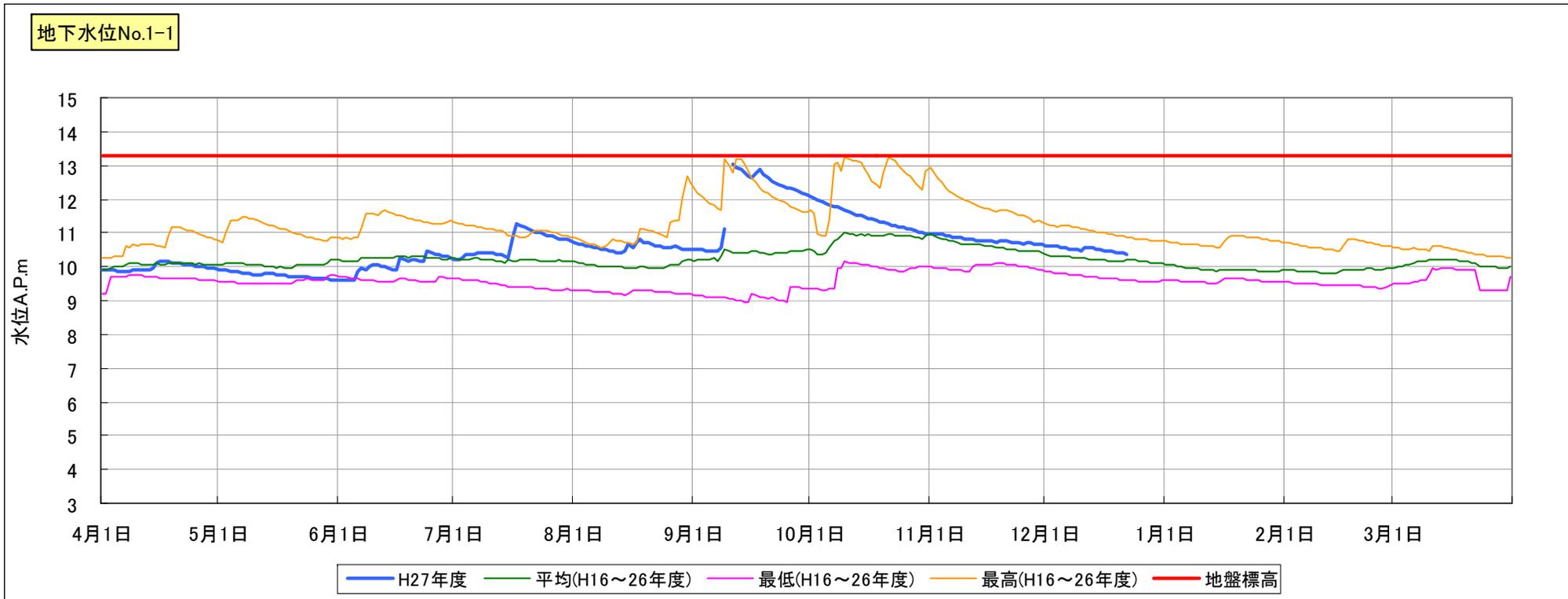
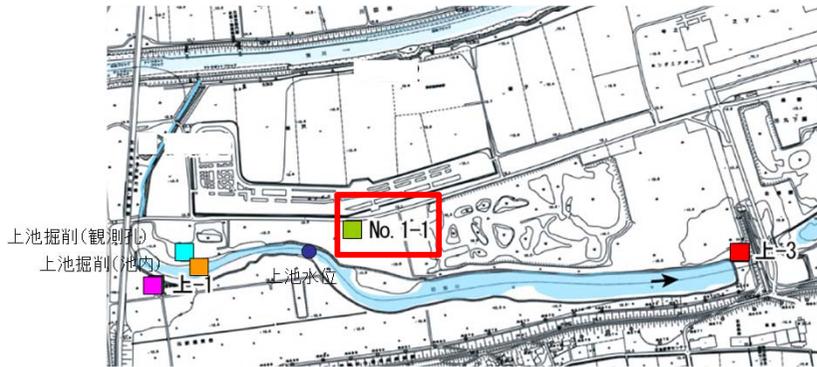


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 No.1-1

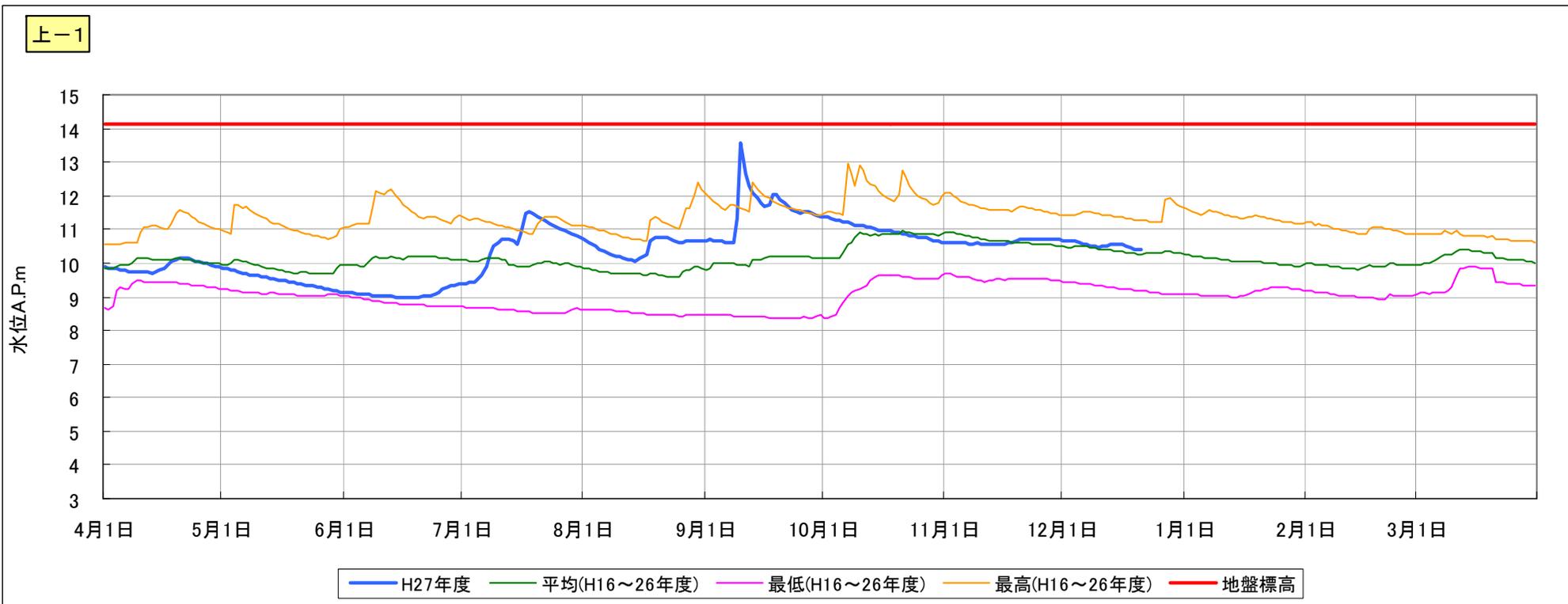
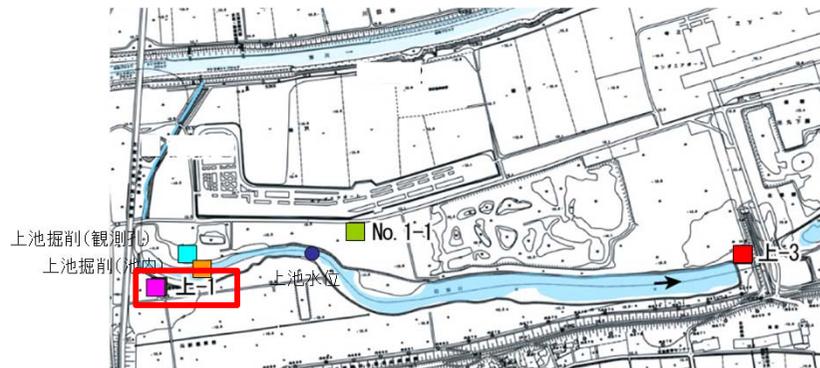
●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上-1

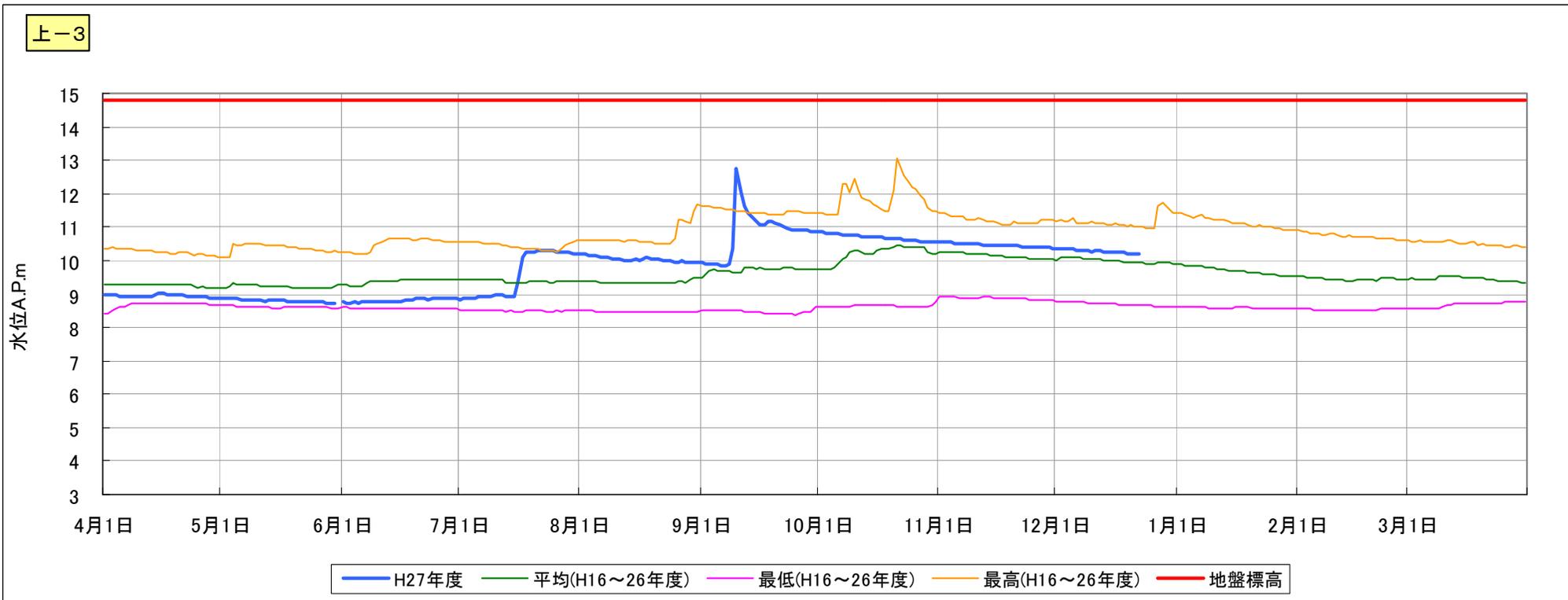
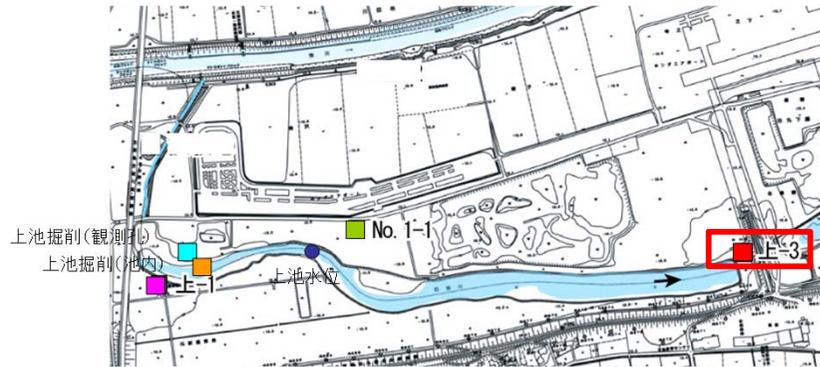
●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上-3

●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。

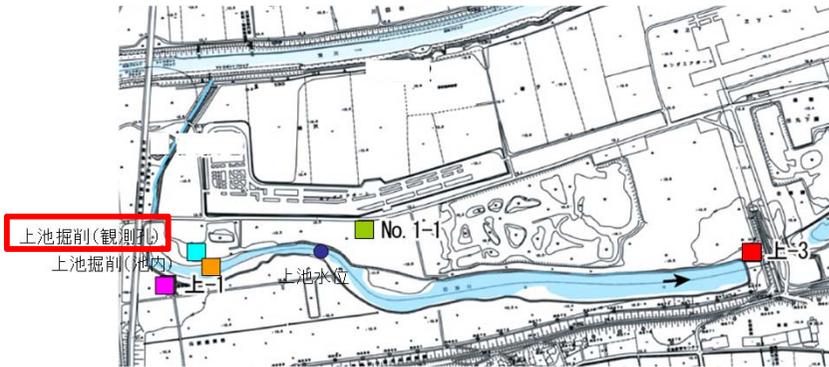


3. 太郎右衛門地区全体の調査

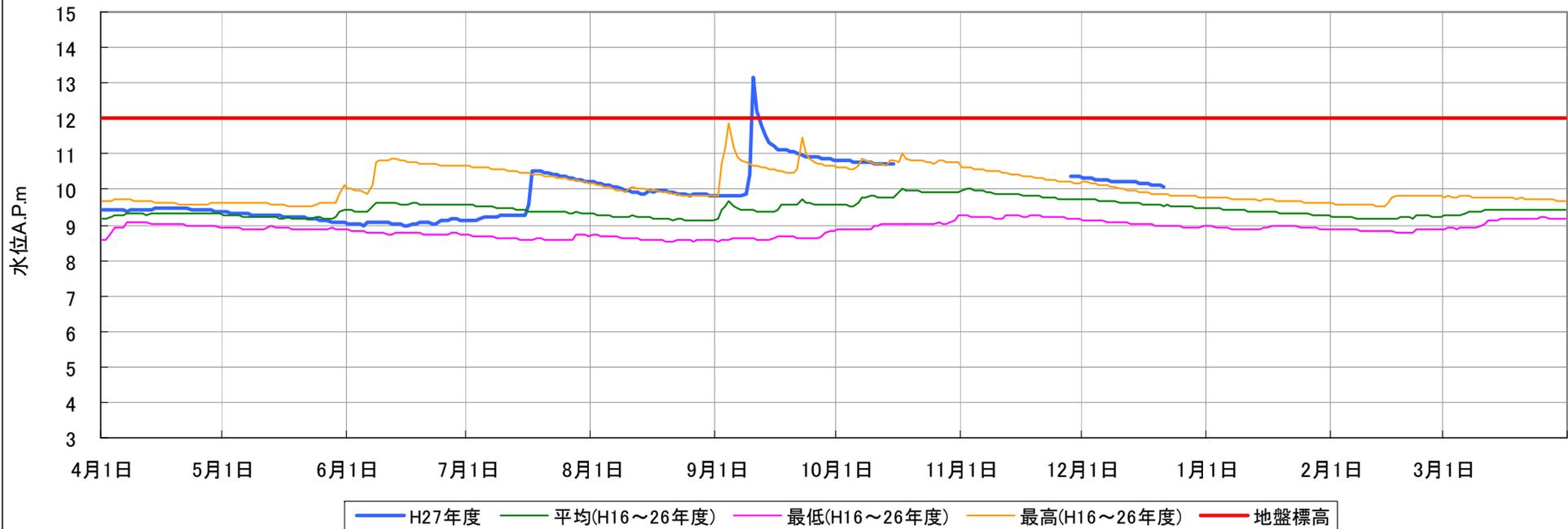
今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上池掘削（観測孔）

●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、以後継続しています。



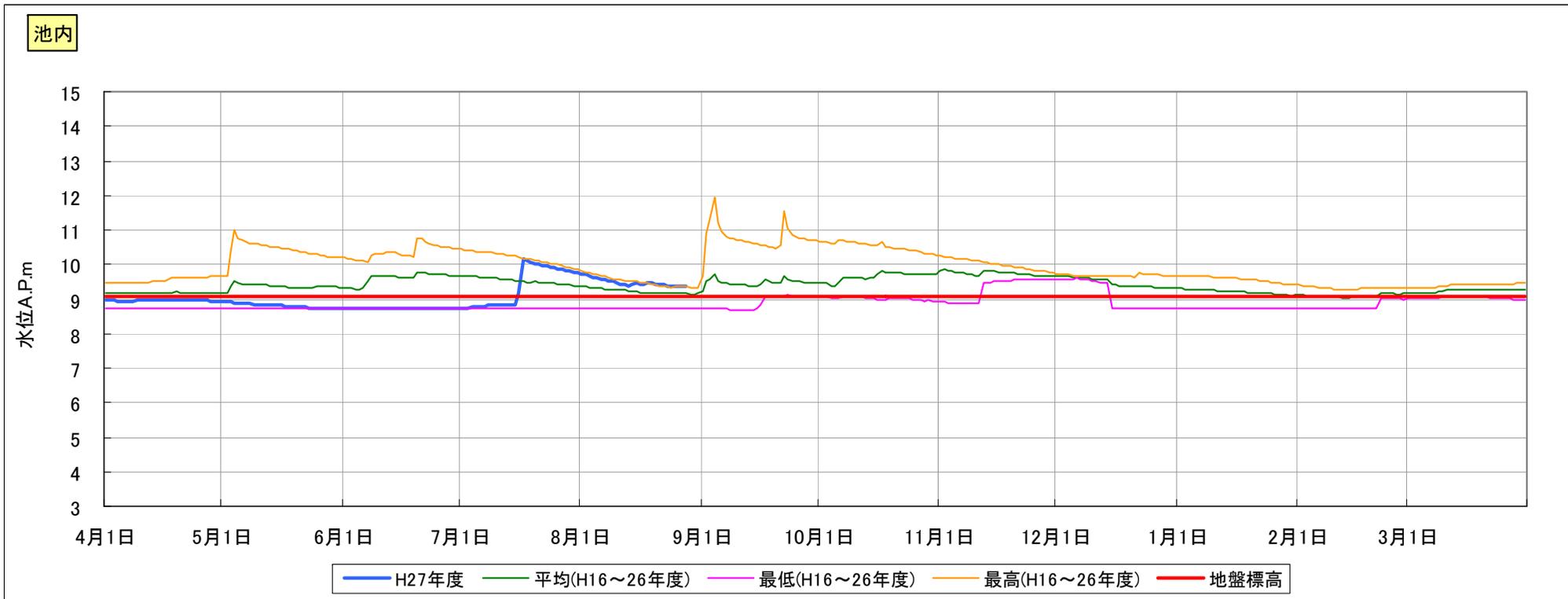
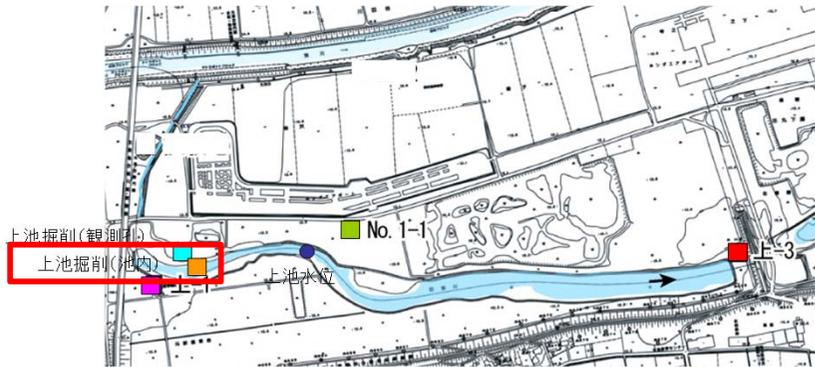
上池掘削地面観測孔



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上池掘削（池内）

●7月に最大値付近に上昇し、以後継続しています。
* 最新データは、水位上昇により回収できていません。

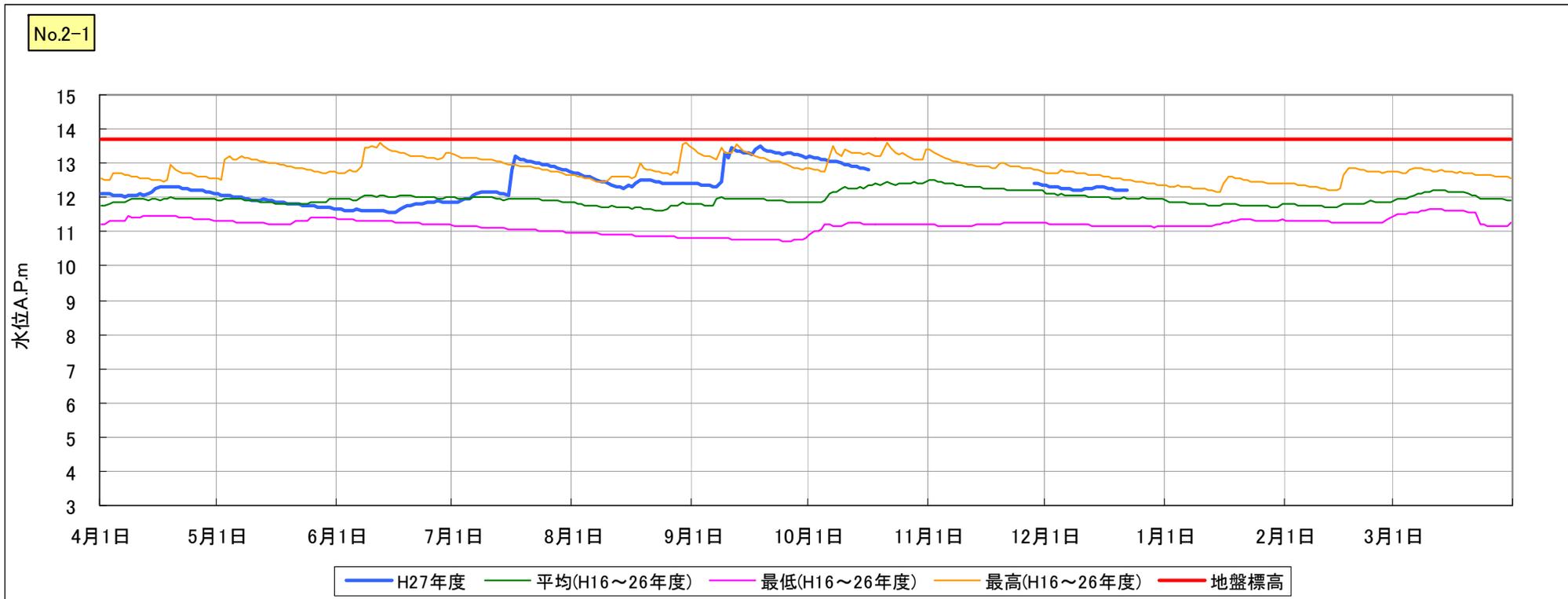
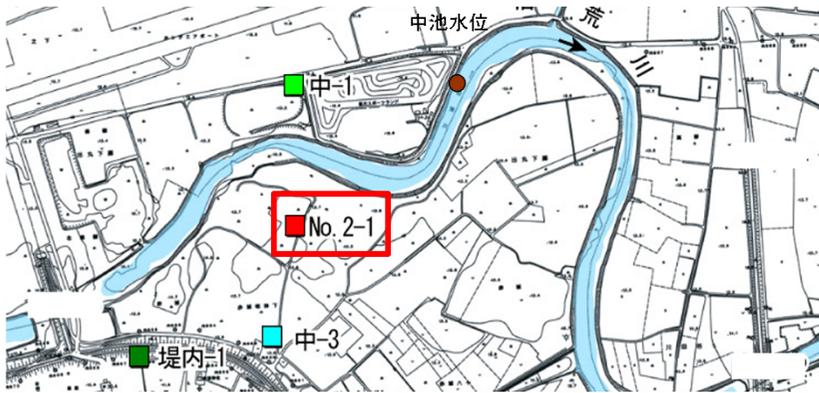


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 No.2-1

●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、12月以降おおむね平均値付近を示しています。

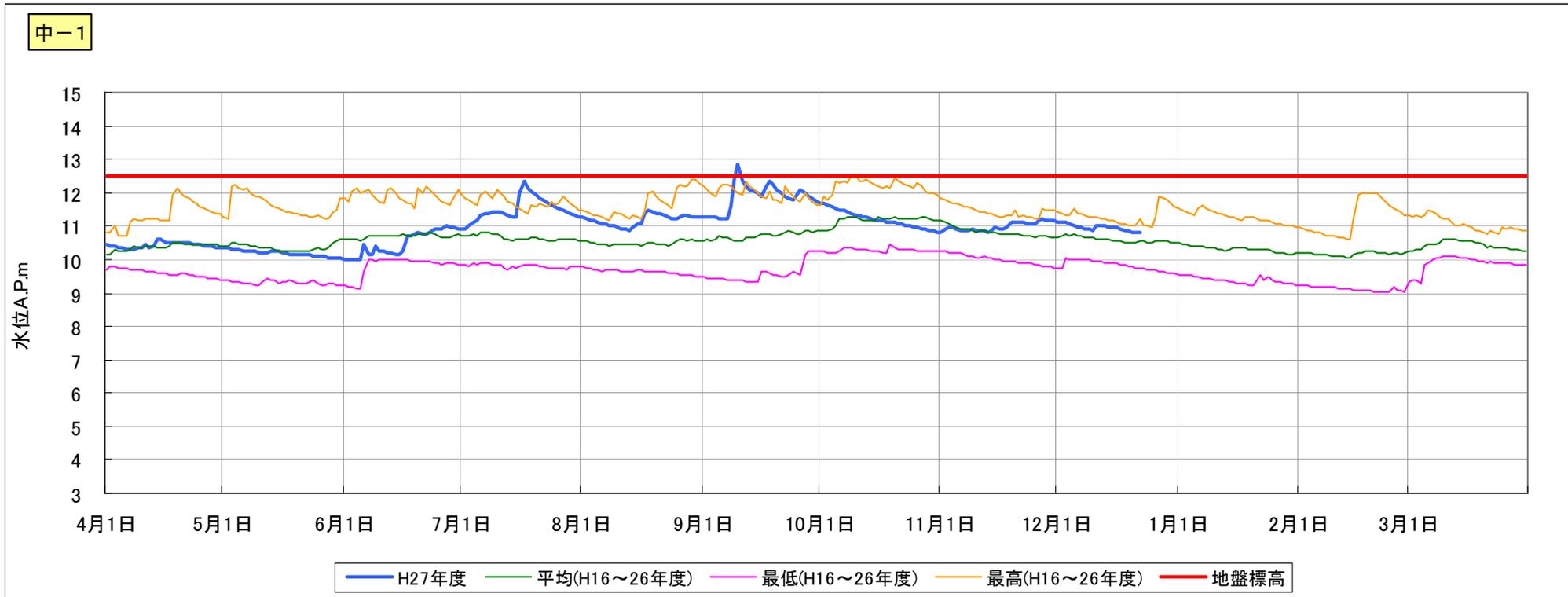
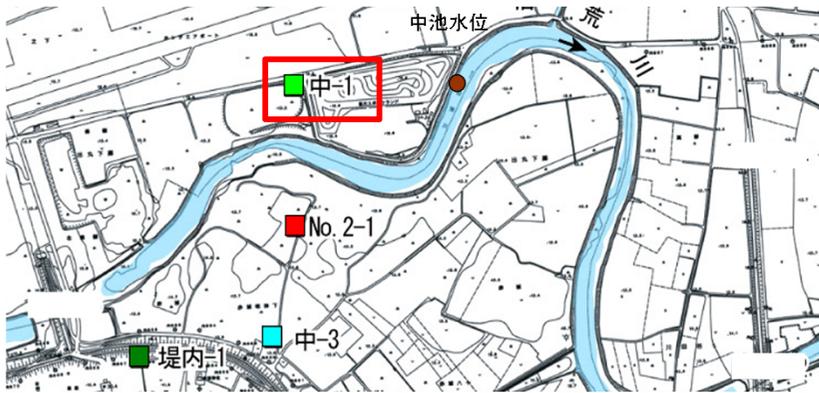


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 中-1

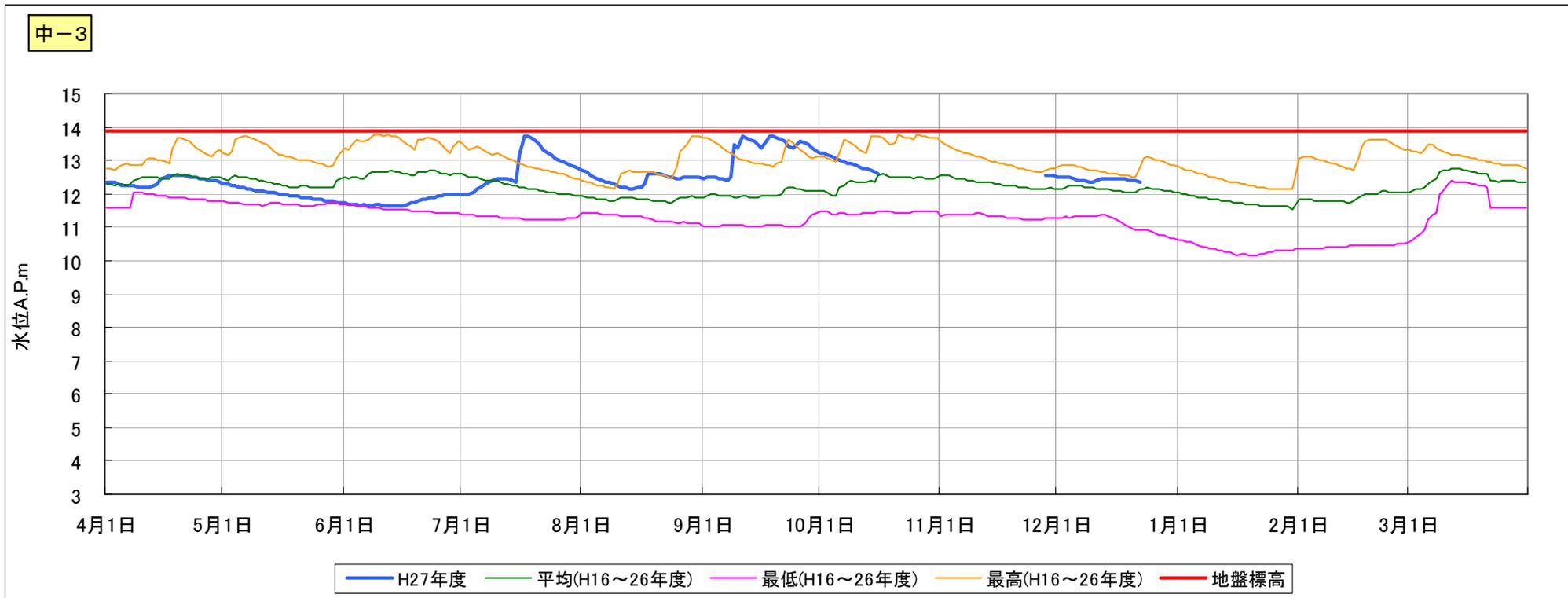
●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 中-3

●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。

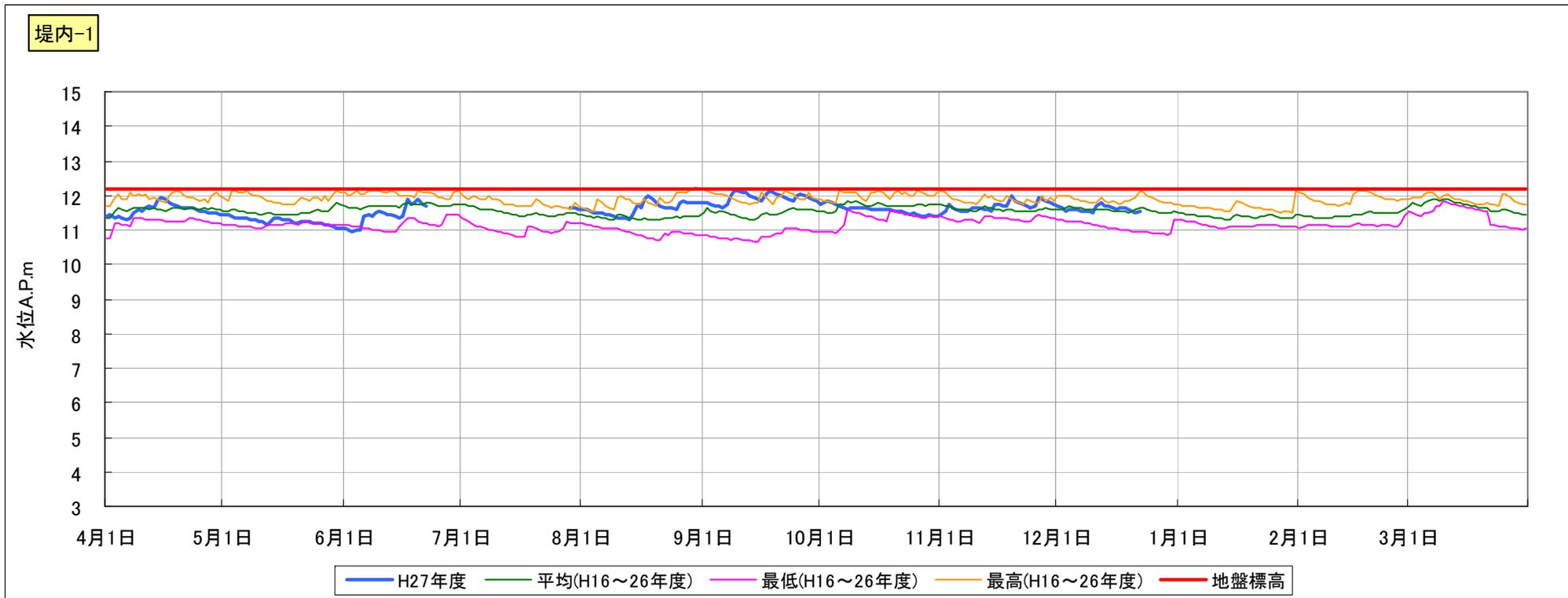


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 堤内-1

●8-9月にやや高い値でしたが、おおむね平均値付近を示し、変動の少ない水位で推移しています。

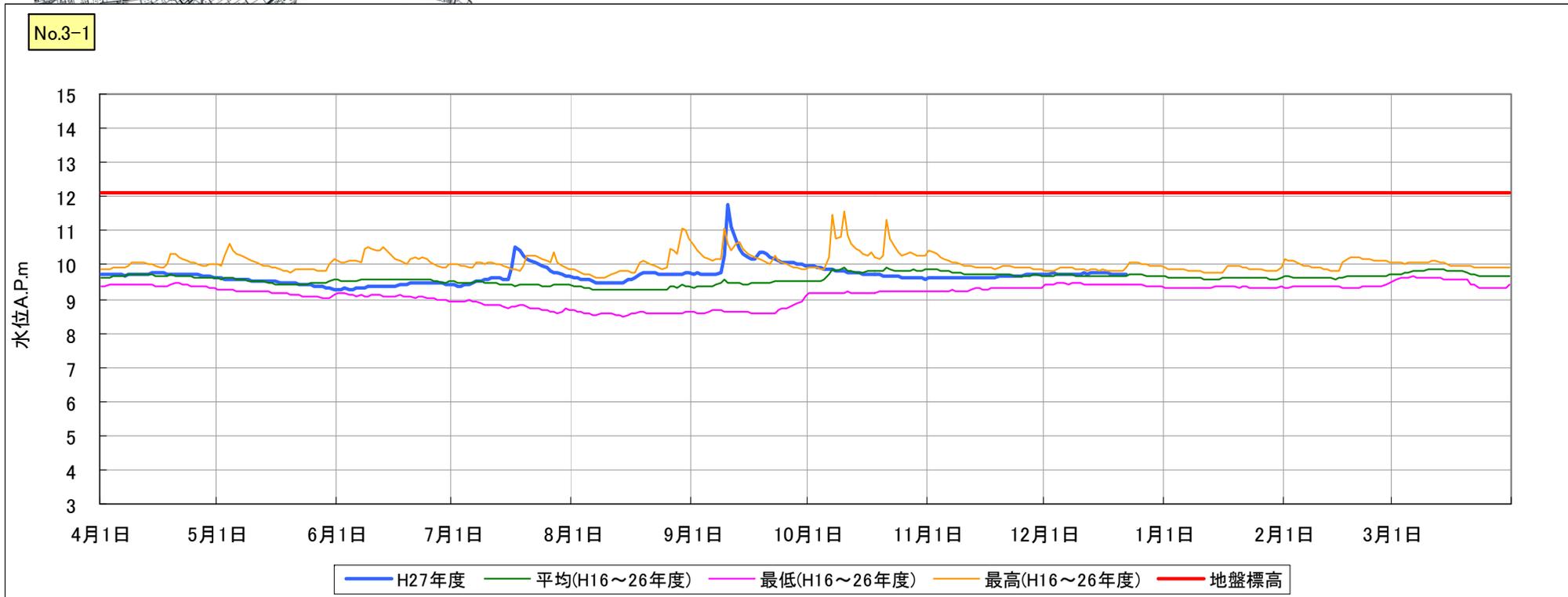
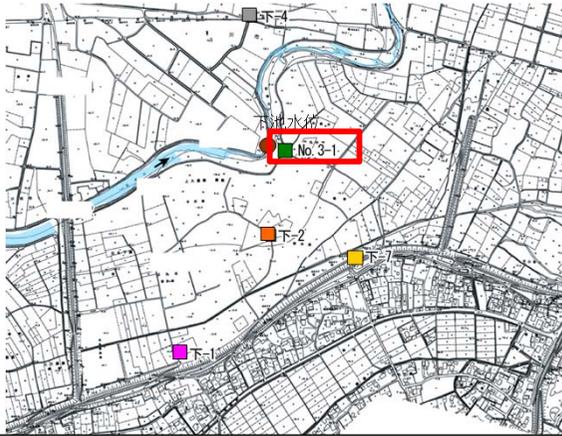


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 No.3-1

●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。

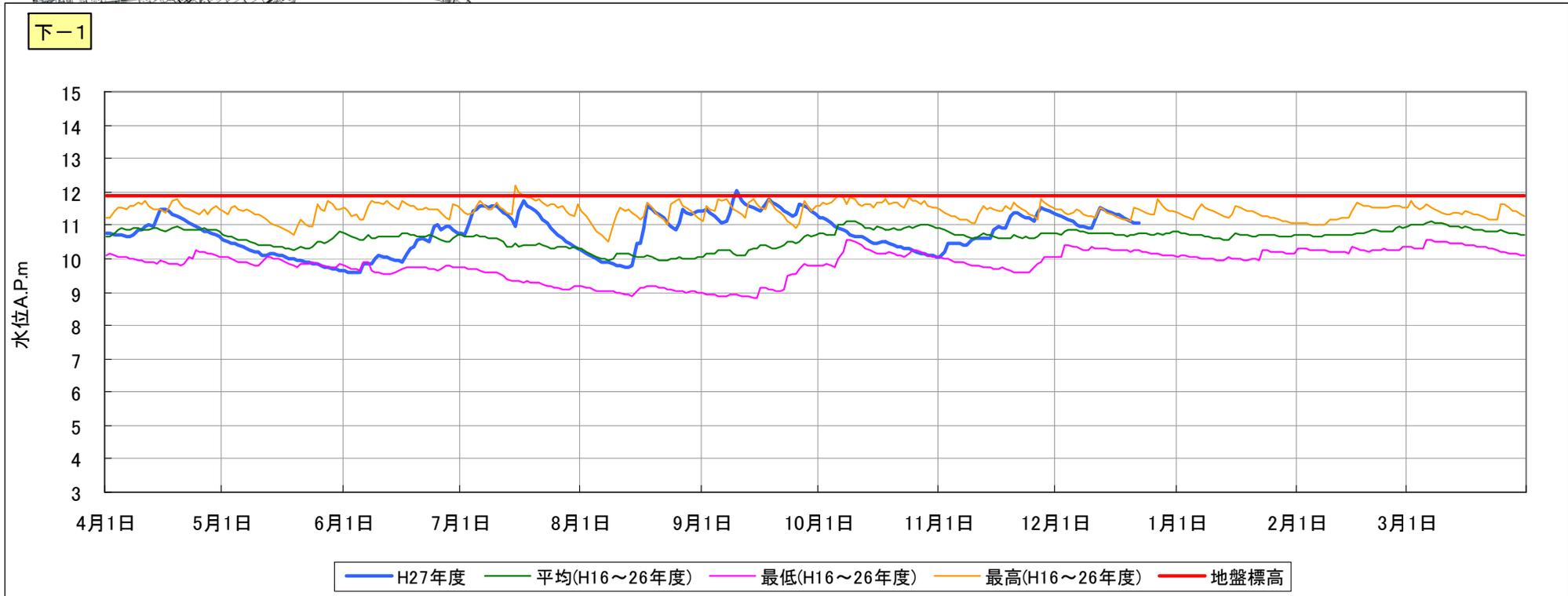
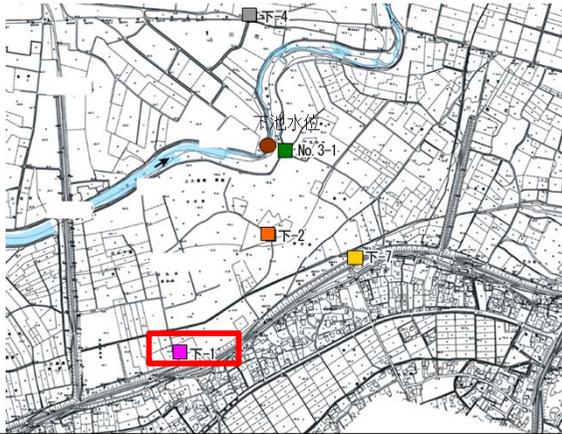


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-1

●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月に低下した後再び最大値付近を示しています。

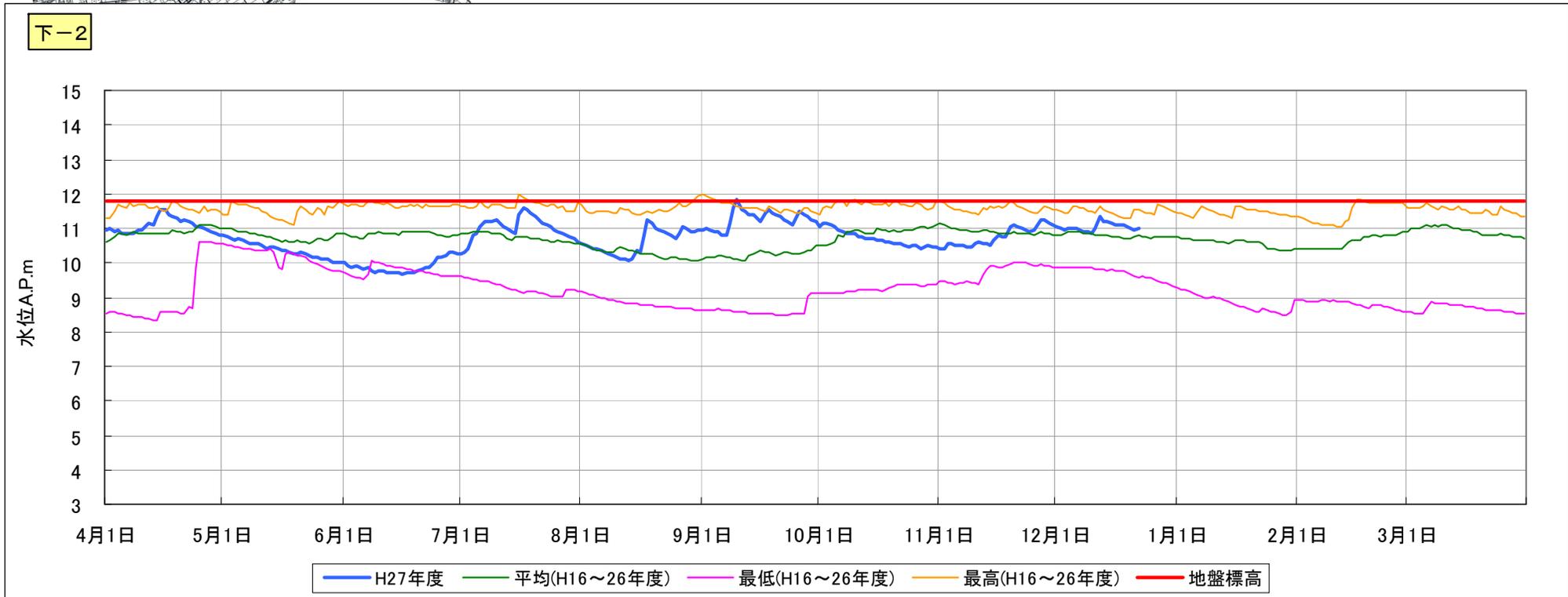
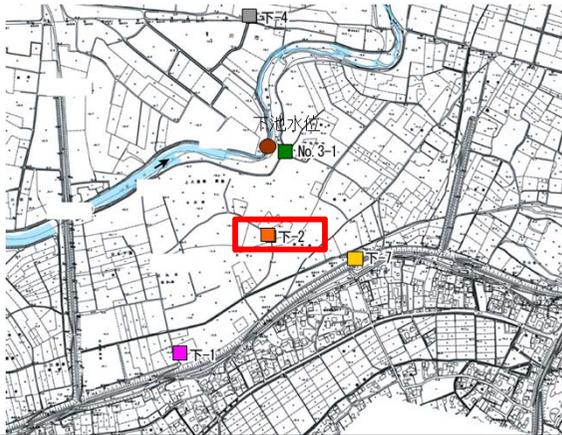


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-2

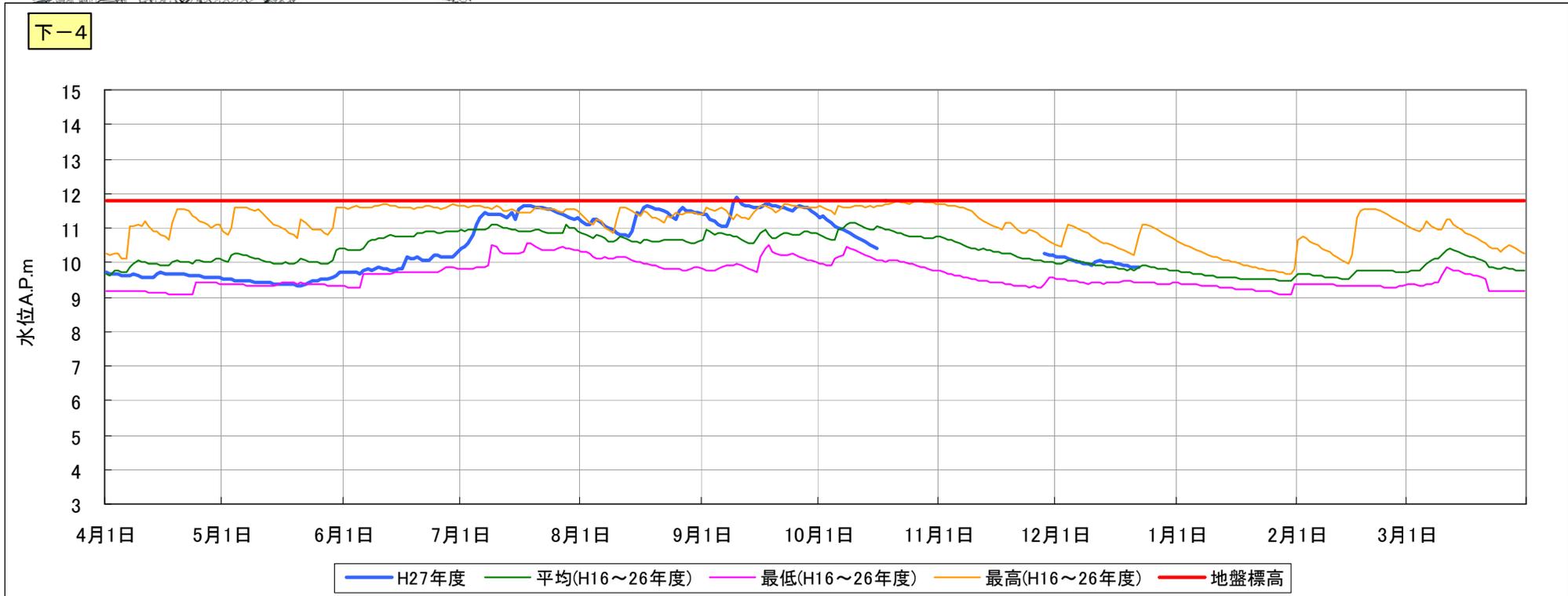
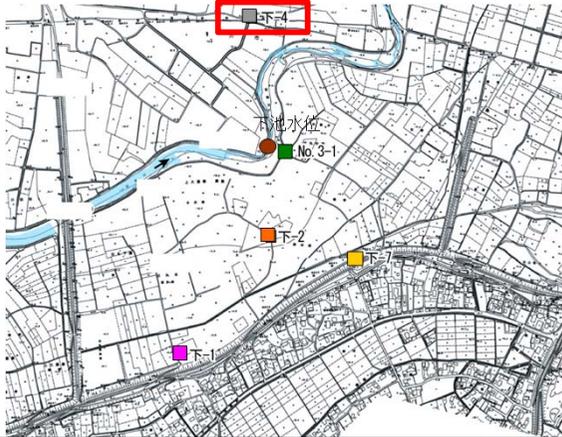
●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-4

●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。

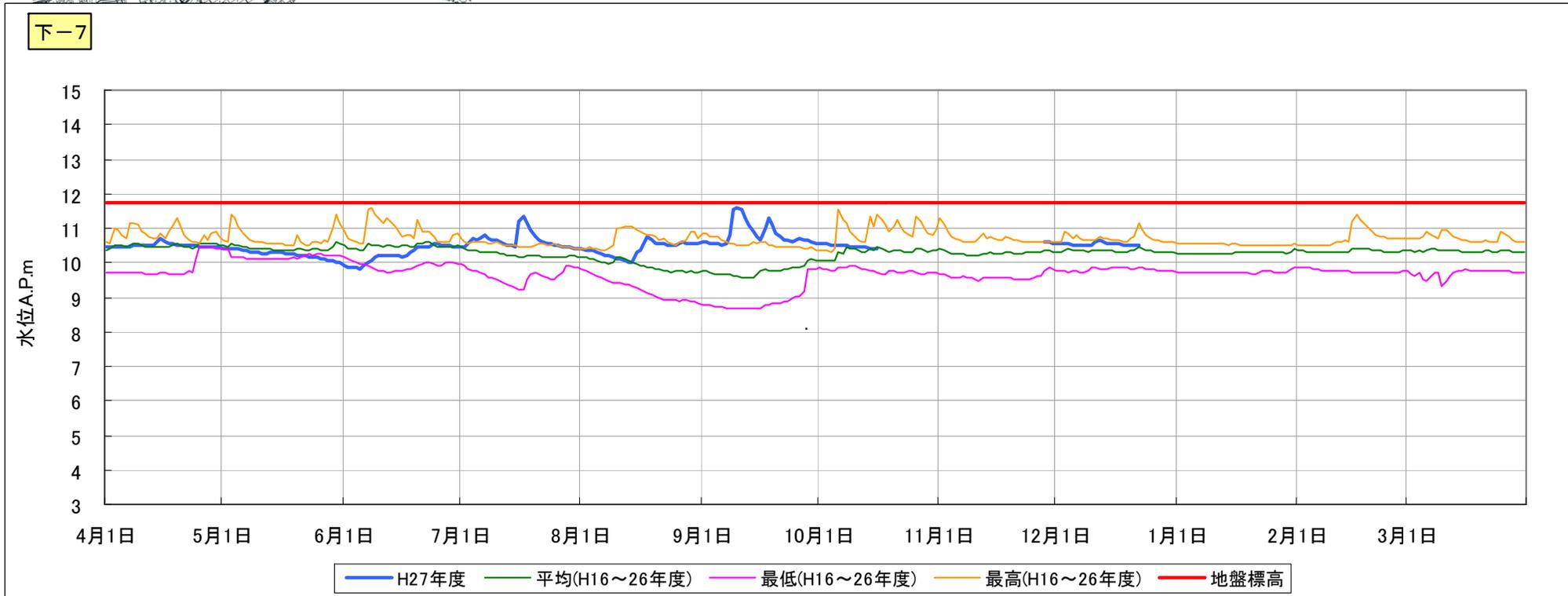
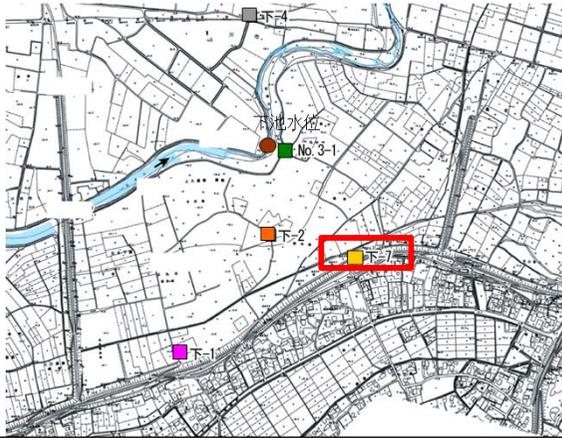


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-7

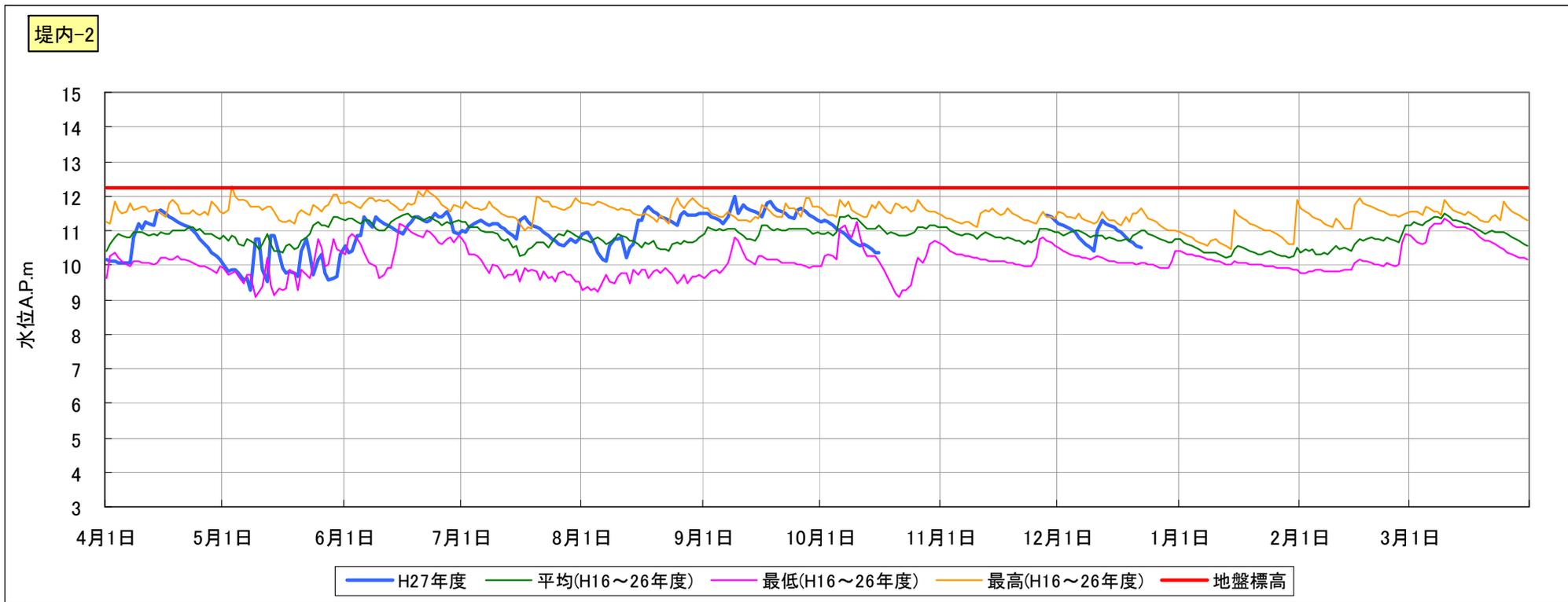
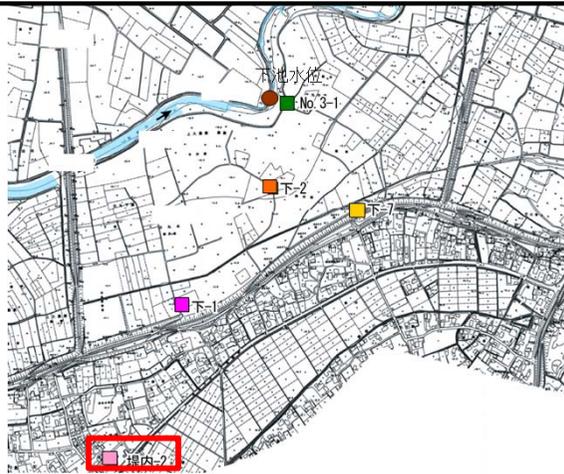
●7月に最大値付近に上昇し、一旦低下した後9月に再び上昇し、10月以降おおむね平均値付近を示しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 堤内-2

●8-9月にやや高い値でしたが、おおむね平均値付近を示しています。

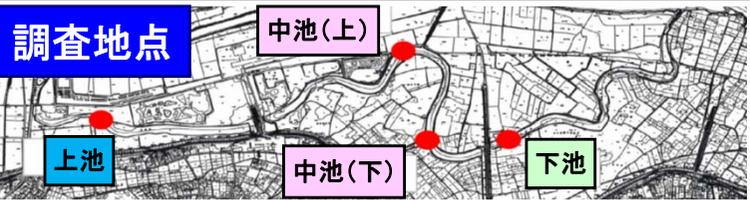


3. 太郎右衛門地区全体の調査

2) 水質

- COD・DO・pHとも、10月・12月は過年度と同様の濃度と経月変化傾向を示していました。
- CODは、比較的低い中池で10月は5.3mg/L、12月は3.6mg/Lを示しましたが、その他は8.5mg/L以上であり、富栄養の状態にあります。
- DOは、上池で10月は2.7mg/L、12月は4.0mg/Lを示しましたが、各池とも概ね5mg/L以上を示しました。
- pHは、10月、12月は各池とも概ね7.0から8.0を示しました。

調査地点

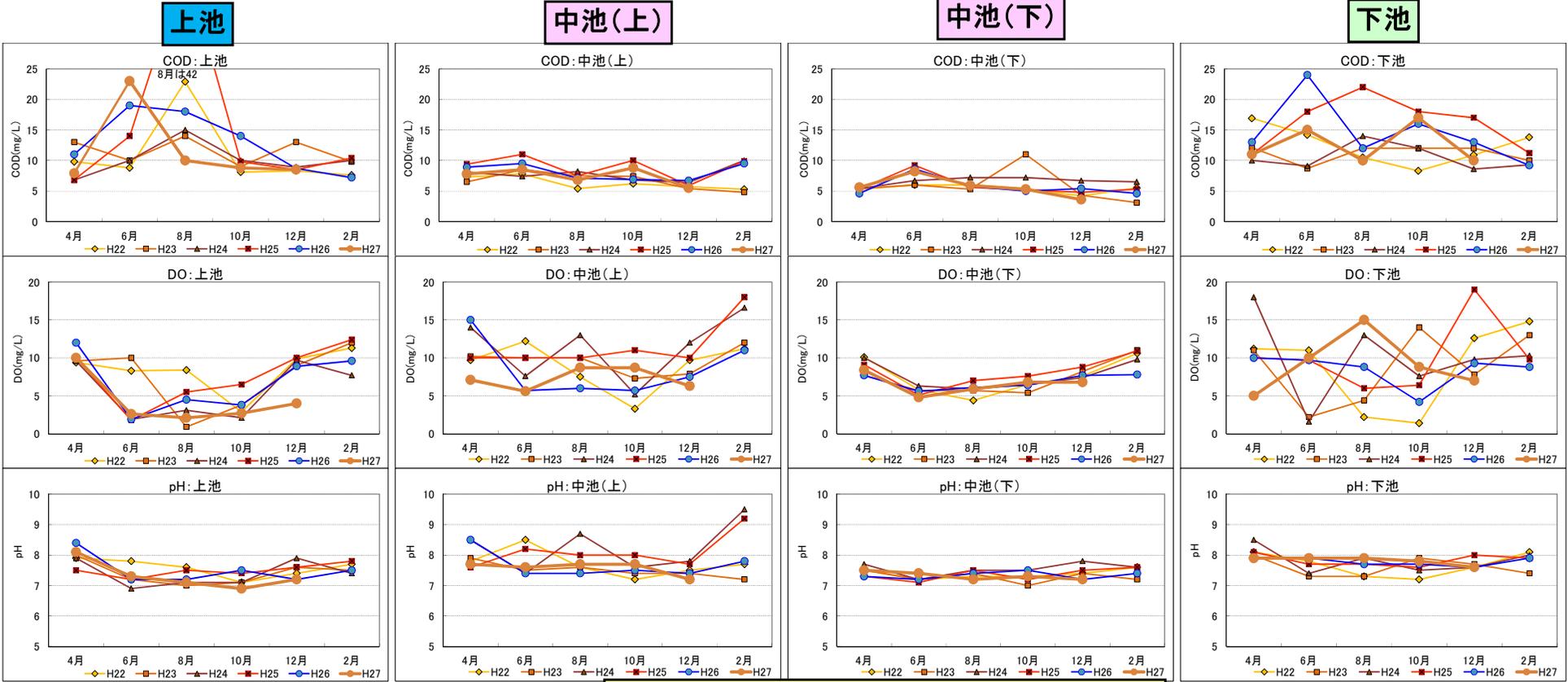


①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
 ②分析方法は、CODは過マンガン酸カリウム酸性法、DOはウインクラーアジ化ナトリウム変法、pHはガラス電極法です。

CODの経時変化

DOの経時変化

pHの経時変化



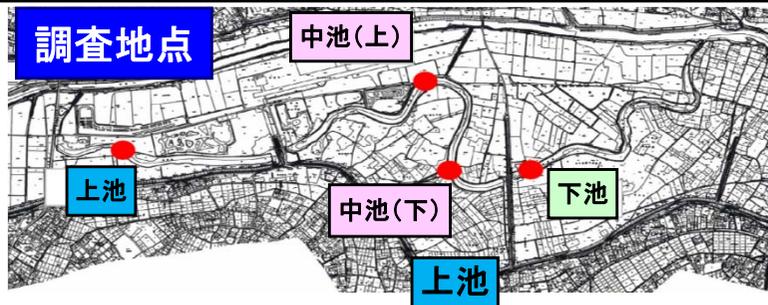
2月の調査結果はH28年度に報告予定です。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

2) 水質

- T-N・T-Pとも、10月・12月はおおむね過年度と同様の濃度と経月変化傾向でした。
- 各池とも、おおむねT-Nで1mg/L以上、T-Pで0.1mg/L付近かそれ以上であり、富栄養の状態にあります。
- 中池では、赤城樋管流入口付近の下流側地点(T2-2)の方の値が継続して高いため、流入水が負荷原になっている可能性が考えられます。

調査地点



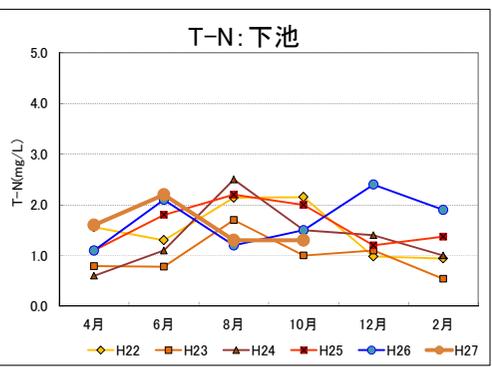
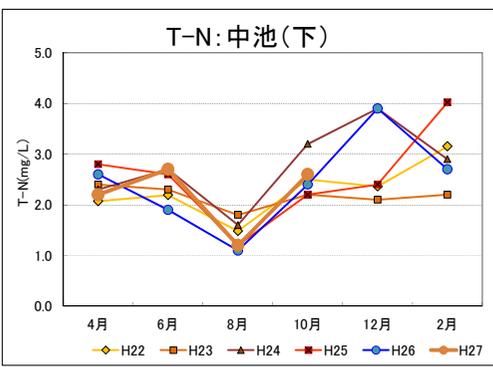
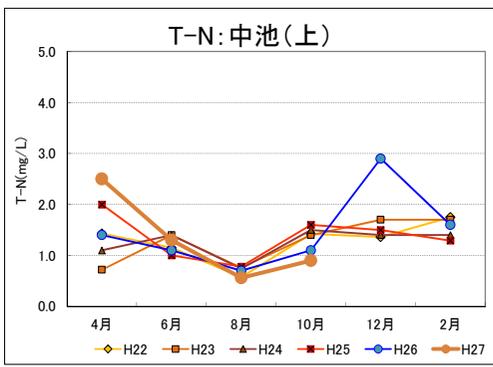
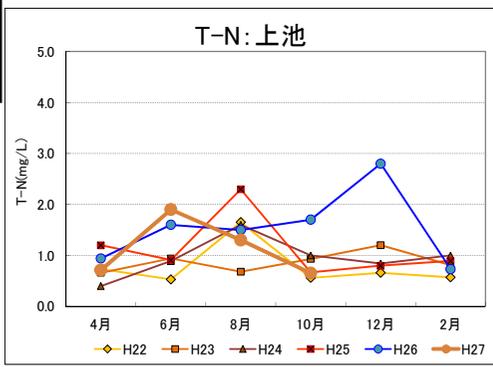
- ①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
- ②分析方法は、T-Nはペルオキシニ硫酸カリウム分解-紫外線吸光度法、T-Pはペルオキシニ硫酸カリウム分解-吸光度法です。

中池(上)

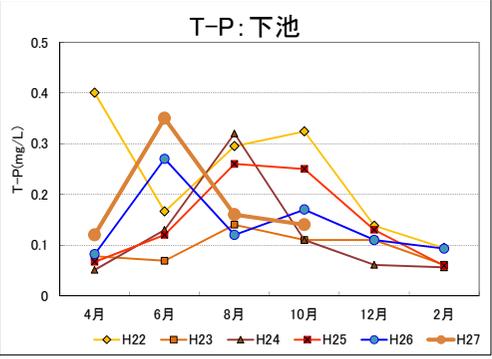
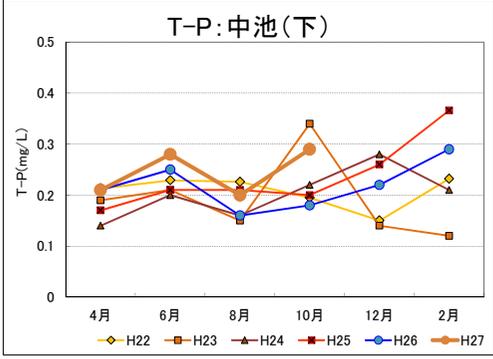
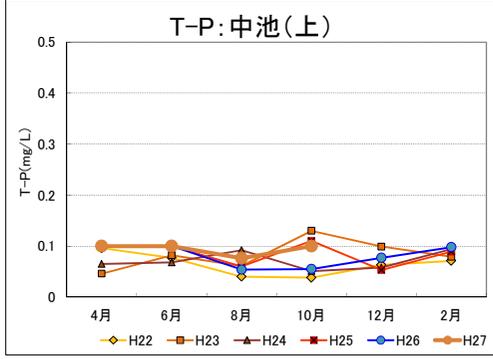
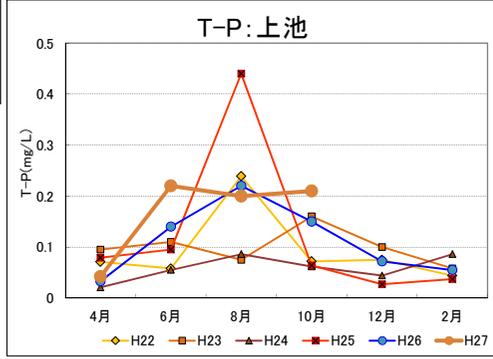
中池(下)

下池

T-Nの経時変化



T-Pの経時変化



2月の調査結果はH28年度の委員会で報告予定です。

2) 水質・底質

●10月8日、2月4日に以下の水質・底質計測を実施しました。

①DO・PHの日内変動を把握するため、25時間、2時間毎に計13回の機器測定を実施しました。

• DOの季節変動が大きく水深が深い「中池(上):T2-1」で表層(水面から10cm)と底層(河床から10cm)を計測しました。

• 当日の水深は、10月は86cm、2月は83cm。天候は10月、2月ともに晴れでした。

⇒ DOの表層は、日中は定期調査と同等の7-9mg/Lでしたが、夕方に10mg/L付近まで上昇し、朝方に低下しました。底層は表層より常に低い値でした。

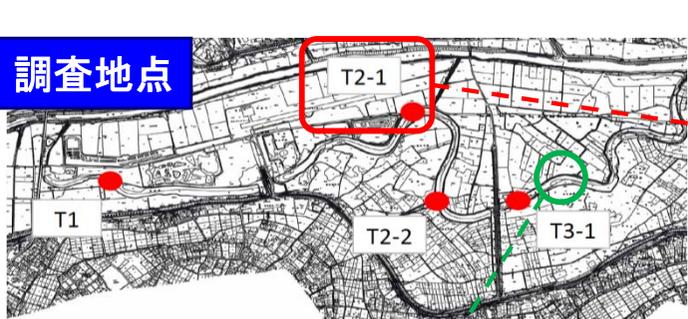
⇒ pH、DOともに同じ傾向の変動を示し、大きな日内変動があることが確認されました。

②底質の状態を確認するため、ORP(酸化還元電位)の機器測定を実施しました。

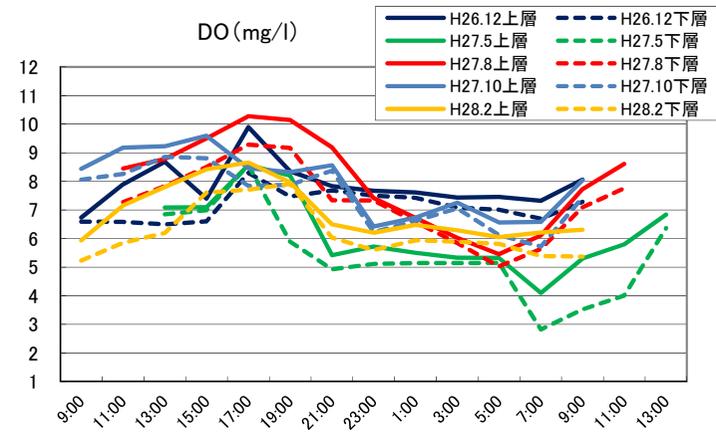
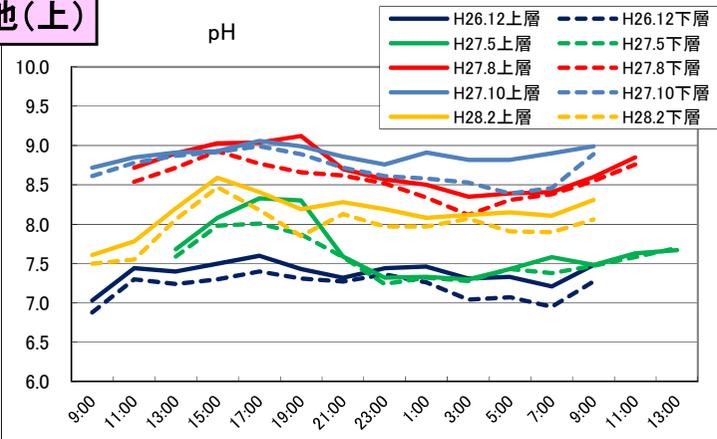
• 周辺農地からの排水の影響が懸念される「下池:T3-1」で実施しました。

• 抽水植物帯の中と外で計測しました。

⇒ ORPは植物帯の中外ともにマイナスで、還元状態にあることが確認されました。(植物帯内の方がより強い還元状態でした)



中池(上)



抽水植物帯外

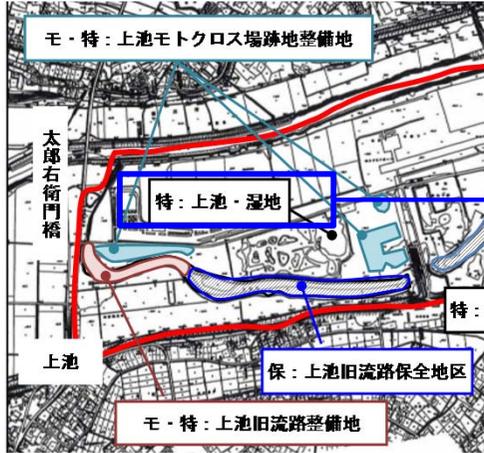
抽水植物帯内



項目	抽水植物帯の内部					抽水植物帯の外				
	H26.12	H27.5	H27.8	H27.10	H28.2	H26.12	H27.5	H27.8	H27.10	H28.2
ORP	-328	-410	-395	-217	-194	-313	-250	-292	-170	-183
泥温	8.2°C	22.0°C	27.4°C	20.0°C	9.3°C	9.5°C	21.5°C	26.8°C	19.4°C	9.8°C
色、臭い	黒色、弱硫化水素臭	暗黒色、弱硫化水素臭	暗黒色、弱硫化水素臭	暗黒色、弱硫化水素臭	暗黒色、弱硫化水素臭	黒色、弱硫化水素臭	暗黒色、弱硫化水素臭	暗黒色、弱硫化水素臭	暗黒色、弱硫化水素臭	暗灰色、弱硫化水素臭

3) 「特定の場所」の調査：上池・湿地（モトクロス場跡地C）写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示しました。



上池④

4月24日



6月24日



8月21日



10月26日



12月25日



2月25日



ヤナギ類がこれまでどおり湿地沿いに分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

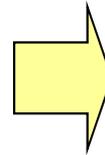
前回報告

3) 「特定の場所」の調査：上池・湿地（モトクロス場跡地C）植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

H27.5の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

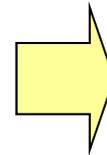
3) 「特定の場所」の調査：上池・湿地（モトクロス場跡地C）植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

非公開



3) 「特定の場所」の調査：上池・湿地（モトクロス場跡地C）植物 植物相【春・秋季】

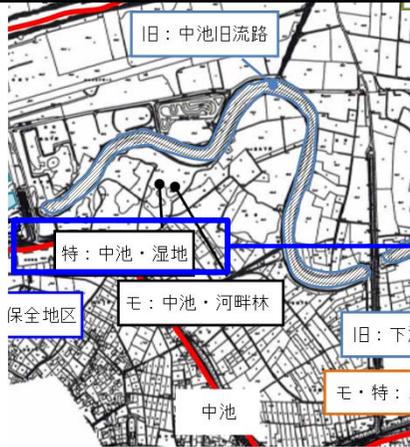
非公開

植物相

非公開

3) 「特定の場所」の調査：中池・湿地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



中池①

4月24日



6月24日



8月21日



10月26日



12月25日



2月25日



抽水植物が生育し、湿地は維持されている。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

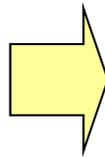
前回報告

3) 「特定の場所」の調査：中池・湿地 植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

H27.5の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

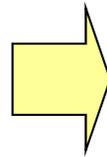
今回報告

3) 「特定の場所」の調査：中池・湿地 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

3) 「特定の場所」の調査：中池・湿地 植物 植物相【春・秋季】

非公開

植物相

非公開

3) 「特定の場所」の調査：中池・河畔林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



調査項目	
写真撮影	2ヶ月に1回
植生図	—
植物相	—
群落組成	—

中池②

4月24日



6月24日



8月21日



10月26日



12月25日



2月25日



河畔林は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



下池②

4月24日



6月24日



8月21日



10月26日



12月25日



2月25日



樹林は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

H27.5の結果

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

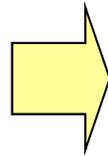
今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 植物 植物相【春・秋季】

非公開

植物相

非公開

3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 植物 群落組成と構造

非公開

群落構造
(断面模式)

H26.10



H27.10

非公開

3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 植物 群落組成と構造

群落組成

H27.10

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



下池③

4月24日



12月25日



6月24日



2月25日



8月21日



10月26日



ハンノキおよび林床の湿生草本類は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

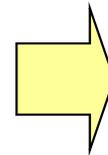
前回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

H27.5の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

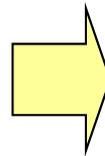
今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 植物 植物相【春・秋季】

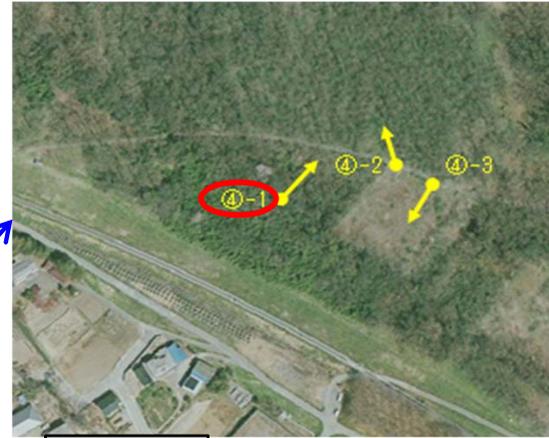
非公開

植物相

非公開

3) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



下池④-1

4月24日

6月24日

8月21日

10月26日



12月25日

2月25日



河畔林は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

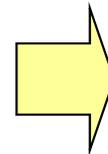
前回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

H27.5の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

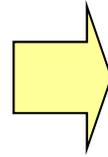
今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.秋季の結果



非公開

3) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 植物 植物相【春・秋季】

非公開

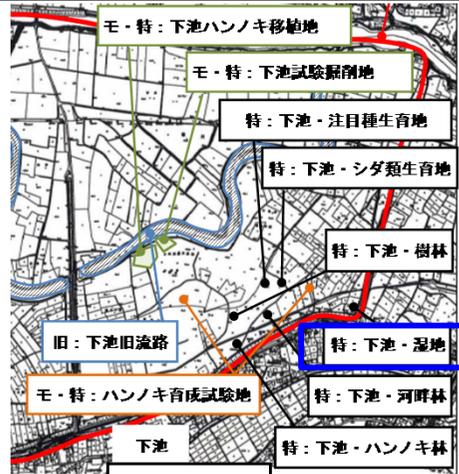
植物相

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・湿地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



下池⑤-1-A

4月24日



6月24日



8月21日



10月26日



12月25日



2月25日



湿地は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・湿地 植物 植物相【春・秋季】

非公開

植物相

非公開

※ここは「民地」であるため、堤防上やあぜ道から確認できる範囲の情報を記録しました。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

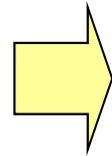
今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・湿地 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.秋季の結果



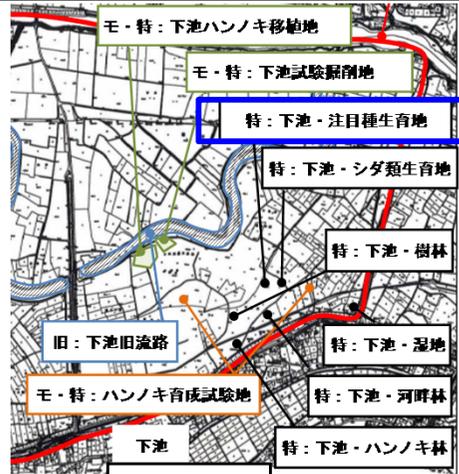
非公開

※ここは「民地」であるため、堤防上やあぜ道から確認できる範囲の情報を記録しました。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



下池⑥
4月24日



6月24日



8月21日



10月26日



12月25日



2月25日



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

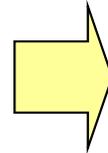
前回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

H27.5の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

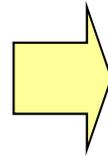
今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 植物 植物相【春・秋季】

非公開

植物相

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・シダ類生育地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



調査項目	
写真撮影	2ヶ月に1回
植生図	—
植物相	—
群落組成	—

下池⑦

4月24日



12月25日



6月24日



2月25日



8月21日



10月26日



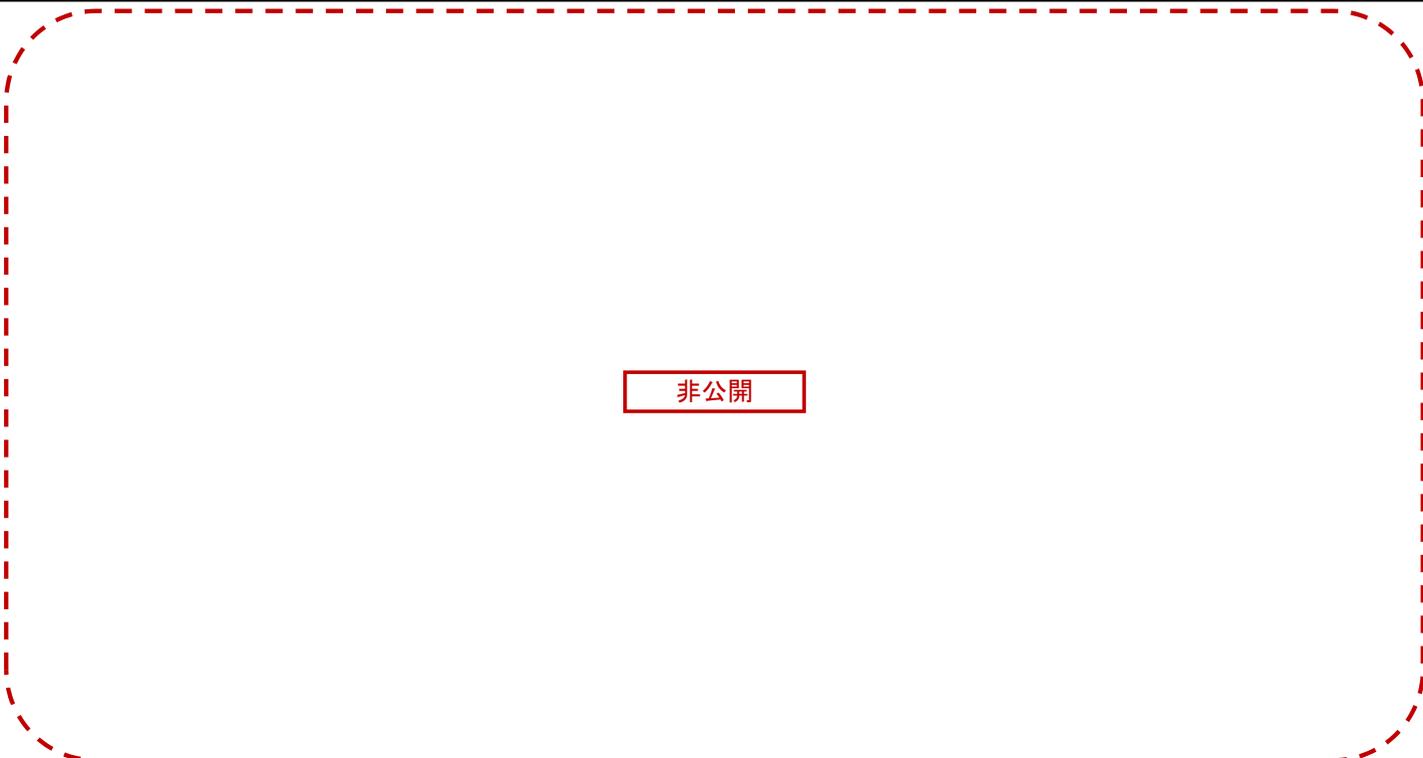
シダ類が継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

4) 鳥類調査：確認種・重要種・特定外来種 【繁殖期】

- 重要種はアオサギ、オオタカ、ウグイス、ホオジロが確認されています。
- ⇒ 全体構想の「目標種」はオオタカが確認されています。
- 水辺の鳥類で水面を利用するカイツブリ、カワウ、アオサギ、カルガモが確認されています。
- 特定外来種はガビチョウが確認されています。

目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ			
ペリカン	ウ	カワウ			
コウノトリ	サギ	ゴイサギ			
		アオサギ		DD(繁殖鳥)	
カモ	カモ	カルガモ			
タカ	タカ	オオタカ	○	国内、NT、VU(繁殖鳥・越冬鳥)	
キジ	キジ	コジュケイ			○
		キジ			
チドリ	チドリ	コチドリ			
ハト	ハト	ドバト			
		キジバト			
カッコウ	カッコウ	カッコウ			
		ホトトギス			
キツツキ	キツツキ	コガラ			
スズメ	ヒバリ	ヒバリ			
	ツバメ	ツバメ			
	セキレイ	ハクセキレイ			
		セグロセキレイ			
	ヒヨドリ	ヒヨドリ			
	モズ	モズ			
	チメドリ	ガビチョウ			特定・総合(重点)
	ウグイス	ウグイス		RT(繁殖鳥)	
		オオヨシキリ			
		セッカ			
	シジュウカラ	シジュウカラ			
	ホオジロ	ホオジロ		RT(繁殖鳥)	
	アトリ	カワラヒワ			
	ハタオリドリ	スズメ			
	ムクドリ	ムクドリ			
	カラス	ハシボソガラス			
		ハシブトガラス			
11目	23科	31種	1種	4種	2種



非公開

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省)
 ※ 種名の色はそれぞれ水辺、草地、樹林、裸地の生息環境を示す。

【重要種凡例】国：2012、県：2011
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧I類(CR+EN)、絶滅危惧II類(CR)、絶滅危惧I B類(EN)、絶滅危惧II類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】
 外来生物法：2004 特定外来種(特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015
 「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種) その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)
 外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他：家禽



3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種・重要種・特定外来種 【初夏季・夏季】

- 非公開 ではありません。では目標種と同じ科に属するギンヤンマ、アメンボ、ヒメアメンボなどの水辺の昆虫が確認されています。
 - 非公開 ではありません。では、目標種と同じ科に属するエンマコオロギ、ベニシジミなどの草地の昆虫が確認されています。
 - 非公開 ではありません。では目標種のミドリシジミや目標種と同じ科に属するムラサキシジミ、ウラギンシジミなどの樹林の昆虫が確認されています。
- ⇒ 全体構想の「目標種」ではミドリシジミが確認されています。

全体構想の「目標種」と同じ科に属する種

No.	目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
1	トンボ	ヤンマ	ギンヤンマ			
2	バッタ	コオロギ	エンマコオロギ			
3	カメムシ	アメンボ	アメンボ			
4			ヒメアメンボ			
5	チョウ	シジミチョウ	ムラサキシジミ			
6			ルリシジミ			
7			ウラギンシジミ			
8			ツバメシジミ			
9			ベニシジミ			
10			ミドリシジミ	○	県NT1	
11			ゴイシジミ			
12			ヤマトシジミ本土亜種			
13	コウチュウ	ホタル	オバボタル			
	5目	5科	13種	1種	1種	0種

非公開

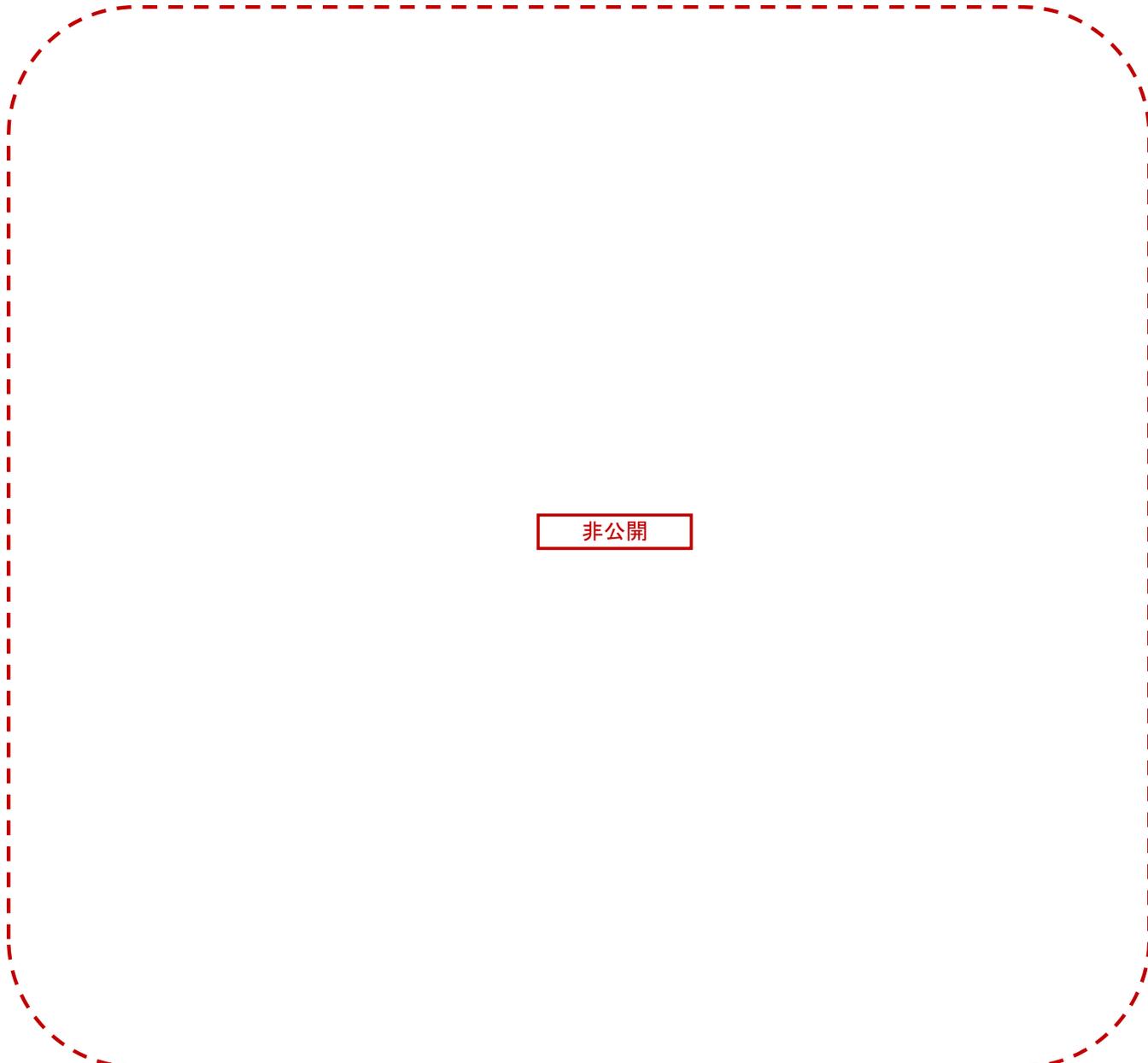
【重要種凡例】国：2012、県：2011
 準絶滅危惧 (NT、NT1、NT2)

【外来種凡例】
 外来生物法：2004 特定外来種 (特定)、我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、
 「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、
 外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 1/9

確認種						
No.	目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
1	トンボ	アオイトトンボ	アオイトトンボ			
2			オオアオイトトンボ			
3		イトトンボ	アジアイトトンボ			
4			クロイトトンボ			
5		カワトンボ	ハグロトンボ			
6		ヤンマ	ギンヤンマ			
7		エゾトンボ	タカネトンボ			
8		トンボ	ショウジョウトンボ			
9			コフキトンボ			
10			ハラビロトンボ			
11			シオカラトンボ			
12			ウスバキトンボ			
13			コシアキトンボ			
14			チョウトンボ			
15			コノシメトンボ			
16			ナツアカネ			
17			アキアカネ			
18			ノシメトンボ			
19			マイコアカネ			
20	ゴキブリ	ゴキブリ	ヤマトゴキブリ			
21	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ			
22			オオカマキリ			
23	ハサミムシ	マルムネハサミムシ	キアシハサミムシ			
24		クギヌキハサミムシ	クギヌキハサミムシ科			
25	バッタ	コロギス	ハネナシコロギス			
26		ツユムシ	サトクダマキモドキ			
27			ツユムシ			
28		キリギリス	コバネヒメギス			
29			ウスイロササキリ			
30			ヒメギス			
31			ハヤシノウマオイ			
32			クサキリ			
33			ヤブキリ			
			Tettigonia属			
34		マツムシ	ヒロバネカシタン			
35			カシタン			
36			アオマツムシ			○
37		コオロギ	エンマコオロギ			
38		ヒバリモドキ	マダラスズ			
39			ウスグモスズ			
40			シバズ			
41			ヤチスズ			
42			クサヒバリ			
43			キアシヒバリモドキ			
44		バッタ	ショウリョウバッタ			
45			トノサマバッタ			
46			クルマバッタモドキ			
47		イナゴ	コバネイナゴ			
48			ツチイナゴ			
49		オンブバッタ	オンブバッタ			
50		ヒシバッタ	トゲヒシバッタ			
51			ハネナガヒシバッタ			
52			ハラヒシバッタ			
53		ノミバッタ	ノミバッタ			
54	ナナフシ	ナナフシ	ナナフシ			
55	アザミウマ	クダアザミウマ	クダアザミウマ科			
56	チャタテムシ	ホソチャタテ	ホソチャタテ			
57		チャタテ	チャタテ科			
58	カメムシ	ヒシウカ	ヒシウカ			
			Pentastiridius属			



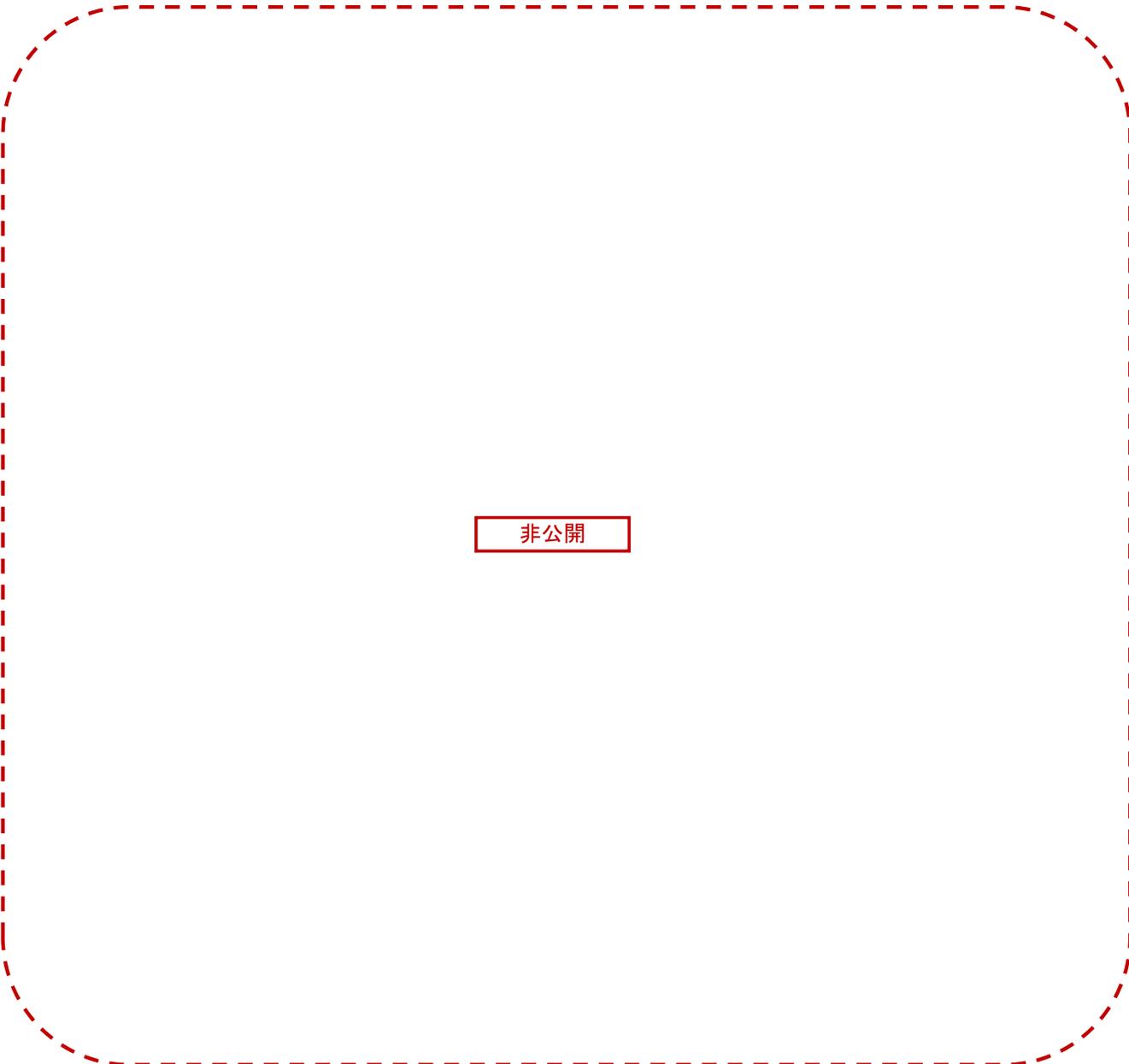
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT, NT1, NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法:2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 2/9

確認種						
No.	目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
59	カメムシ	ウンカ	Garaga属			
60			ヒメトビウンカ			
61			ホオグロウンカ			
62			ホソミドリウンカ			
63			テラウチウンカ			
64			Terauchiana属			
			コブウンカ			
			ウンカ科			
65		ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ			
66		アオバハゴロモ	アオバハゴロモ			
67			トビイロハゴロモ			
68		シマウンカ	シマウンカ			
69		ハゴロモ	スケバハゴロモ			
70			ベッコウハゴロモ			
71		グンバイウンカ	Kallitaxila属			
72			ヒラタグンバイウンカ			
			グンバイウンカ科			
73		セミ	アブラゼミ			
74			ミンミンゼミ			
75			ツクツクボウシ			
76			ニイニイゼミ			
77		アワフキムシ	シロオビアワフキ			
78			ハマバアワフキ			
79			マルアワフキ			
80		コガシラアワフキムシ	コガシラアワフキ			
81		ヨコバイ	トバヨコバイ			
82			アオズキンヨコバイ			
83			オオヨコバイ			
84			オオトガリヨコバイ			
85			ヨツモンヒメヨコバイ			
86			フタスジトガリヨコバイ			
87			ヒシモンヨコバイ			
88			マエジロオオヨコバイ			
89			Macropsis属			
90			ツマグロヨコバイ			
91			リンゴマダラヨコバイ			
92			Pagaronia属			
93			ヒトツメヨコバイ			
94			ズキンヨコバイ			
95			イネマダラヨコバイ			
96			シラホシスカンヨコバイ			
			ヨコバイ科			
97		キジラミ	ベニキジラミ			
98		グンバイムシ	アワダチソウグンバイ			○
99		ハナカメムシ	Orius属			
100		カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ			
101			ヒメセダカカスミカメ			
102			モンキクロカスミカメ			
103			ヨモギヒョウタンカスミカメ			
104			クロヒョウタンカスミカメ			
105			ヒメヨモギカスミカメ			
106			フタトゲムギカスミカメ			
107			アカスジカスミカメ			
108			イネホソミドリカスミカメ			
			カスミカメムシ科			
109		マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ			
110		オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ			
111		ホソヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ			
112		ヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ			
113			ハリカメムシ			



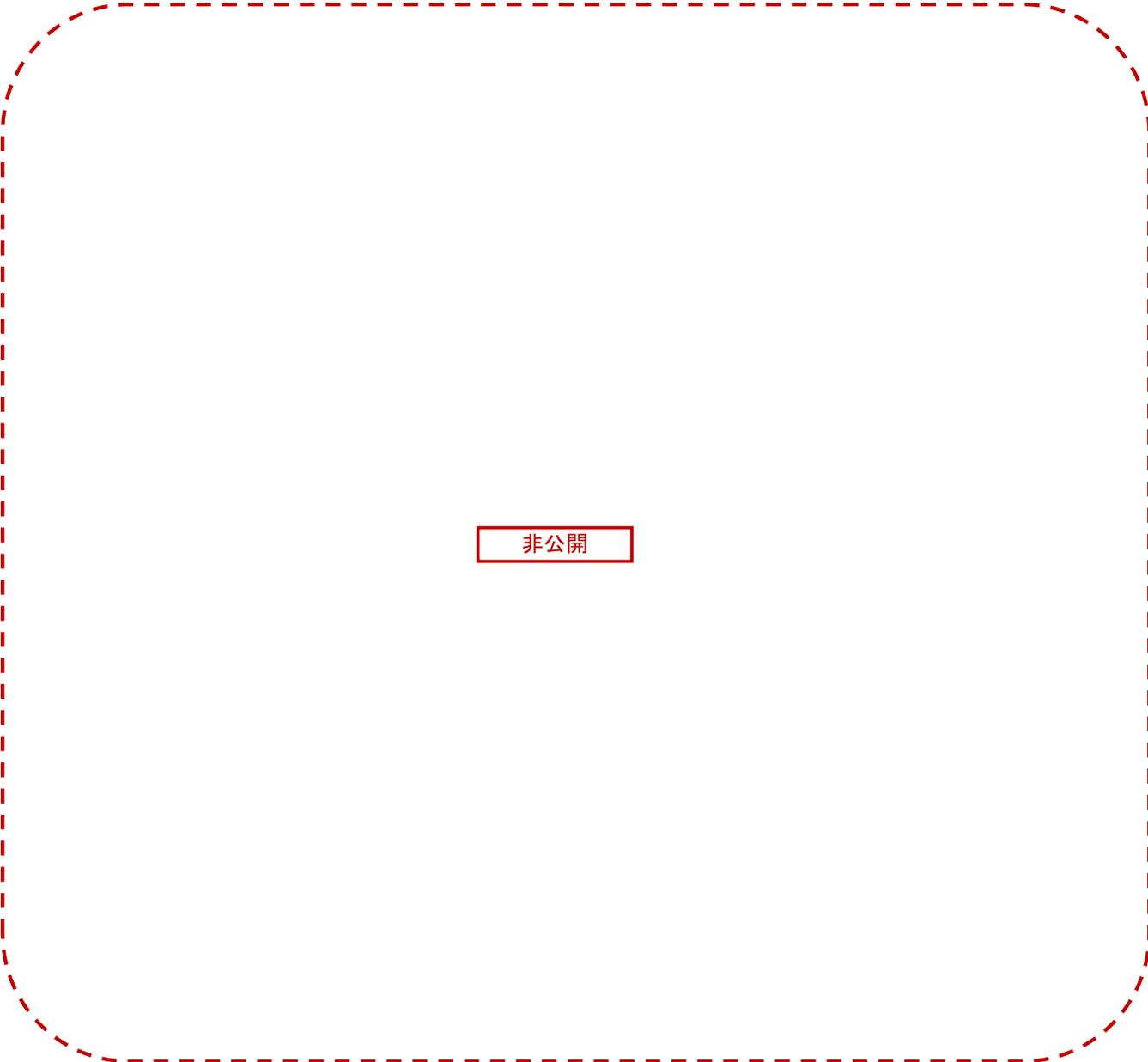
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT, NT1, NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法：2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 3/9

確認種		科名	種名	目標種	重要種	外来種
No.	目名					
114	カメムシ	ヘリカメムシ	ホシハラビロヘリカメムシ			
115			ツマキヘリカメムシ			
116		ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ			
117			コブチヒメヘリカメムシ			
			Stictopleurus属			
118		ナガカメムシ	コバネナガカメムシ			
119			ヒメオオメナガカメムシ			
120			オオメナガカメムシ			
121			チャイロナガカメムシ			
122			ホソメダカナガカメムシ			
123			Nysius属			
124			ヒゲナガカメムシ			
125			コバネヒョウタンナガカメムシ			
126			ヒメジュウジナガカメムシ			
127		メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ			
128		ツチカメムシ	ミツボシツチカメムシ			
129		ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ			
130		カメムシ	ウズラカメムシ			
131			ブチヒゲカメムシ			
132			ハナダカカメムシ			
133			ヒメナガメ		県NT2	
134			ナガメ			
135			シラホシカメムシ			
136			アオクサカメムシ			
137			イチモンジカメムシ			
138			チャバネアオカメムシ			
139		マルカメムシ	マルカメムシ			
140		キンカメムシ	アカスジキンカメムシ			
141		アメンボ	アメンボ			
142			ヒメアメンボ			
143	アミメカゲロウ	クサカゲロウ	ヨツボシクサカゲロウ			
144			ヤマトクサカゲロウ			
145			ムモンクサカゲロウ			
146			セスジクサカゲロウ			
			クサカゲロウ科			
147	チョウ	セセリチョウ	ダイミョウセセリ			
148			ギンイチモンジセセリ		NT、県NT2	
149			イチモンジセセリ			
150			チャバネセセリ			
151			キマダラセセリ			
152			コチャバネセセリ			
153		シジミチョウ	ムラサキシジミ			
154			ルリシジミ			
155			ウラギンシジミ			
156			ツバメシジミ			
157			ベニシジミ			
158			ミドリシジミ	○	県NT1	
159			ゴイシシジミ			
160			ヤマトシジミ本土亜種			
161		タテハチョウ	コムラサキ		県NT1	
162			ツマグロヒョウモン			
163			アカボシゴマダラ			総合(重点)
164			ゴマダラチョウ本土亜種			
165			イチモンジチョウ			
166			アサマイチモンジ		県NT2	
167			コムシジ			
168			キタテハ			
169			ヒメアカタテハ			
170		アゲハチョウ	アオスジアゲハ			
171			カラスアゲハ本土亜種			



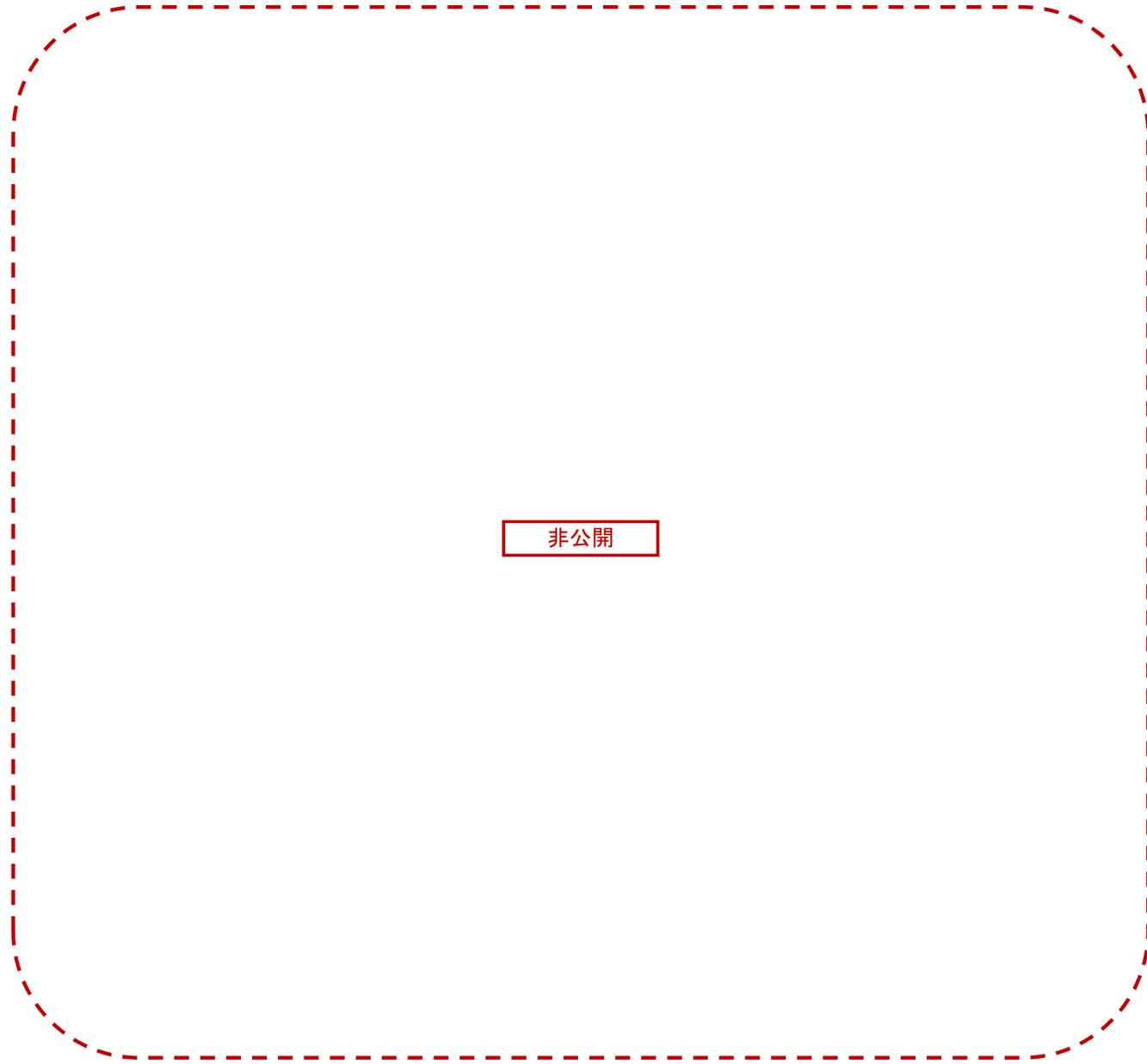
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT、NT1、NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法：2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合(重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 4/9

確認種						
No.	目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
172	チョウ	アゲハチョウ	キアゲハ			
173		シロチョウ	モンキチョウ			
174			キチョウ			
175			キタキチョウ			
176			スジグロシロチョウ			
177			モンシロチョウ			
178		ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ			
179			ヒメジャノメ			
180			サトキマダラヒカゲ			
181			ヒメウラナミジャノメ			
182		ツトガ	シロオビノメイガ			
183			ヨツボシノメイガ			
184		スズメガ	オオスカシバ			
185			シモフリスズメ			
186		ヒトリガ	シロヒトリ			
187			ヨツボシホソバ			
188			キハラゴマダラヒトリ			
189		カノコガ	カノコガ			
190		ヤガ	ツメクサガ			
191	ハエ	ガガンボ	Epiphragma属			
192			キイロホソガガンボ			
193			キリウジガガンボ			
194		チョウバエ	チョウバエ科			
195		ヌカカ	ヌカカ科			
196		ユスリカ	ヒシモンユスリカ			
			ユスリカ科			
197		カ	ヒトスジシマカ			
			Aedes属			
198		タマバエ	タマバエ科			
199		キノコバエ	キノコバエ科			
200		クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科			
201		ミズアブ	アメリカミズアブ			○
202			ハラキンミズアブ			
203			コガタミズアブ			
204			コウカアブ			
205			Sargus metallinus			
206			ミズアブ			
207		アブ	フタスジアブ			
208			ヤマトアブ			
209			ウシアブ			
210		ムシヒキアブ	アオメアブ			
211			チヤイロムシヒキ			
212			Neotamus属			
213			シロズヒメムシヒキ			
214			シオヤアブ			
215			サキグロムシヒキ			
216		ツリアブ	ヤマシロツリアブ			
217			クロバネツリアブ			
218		アシナガバエ	Chrysotus属			
219			Condylostylus属			
220			Dolichopus属			
221		オドリバエ	Rhamphomyia属			
222		ハナアブ	マダラコシボソハナアブ			
223			Cheilosia属			
224			ホソヒラタアブ			
225			ホシメハナアブ			
226			シマハナアブ			
227			ナミハナアブ			
228			マドヒラタアブ			



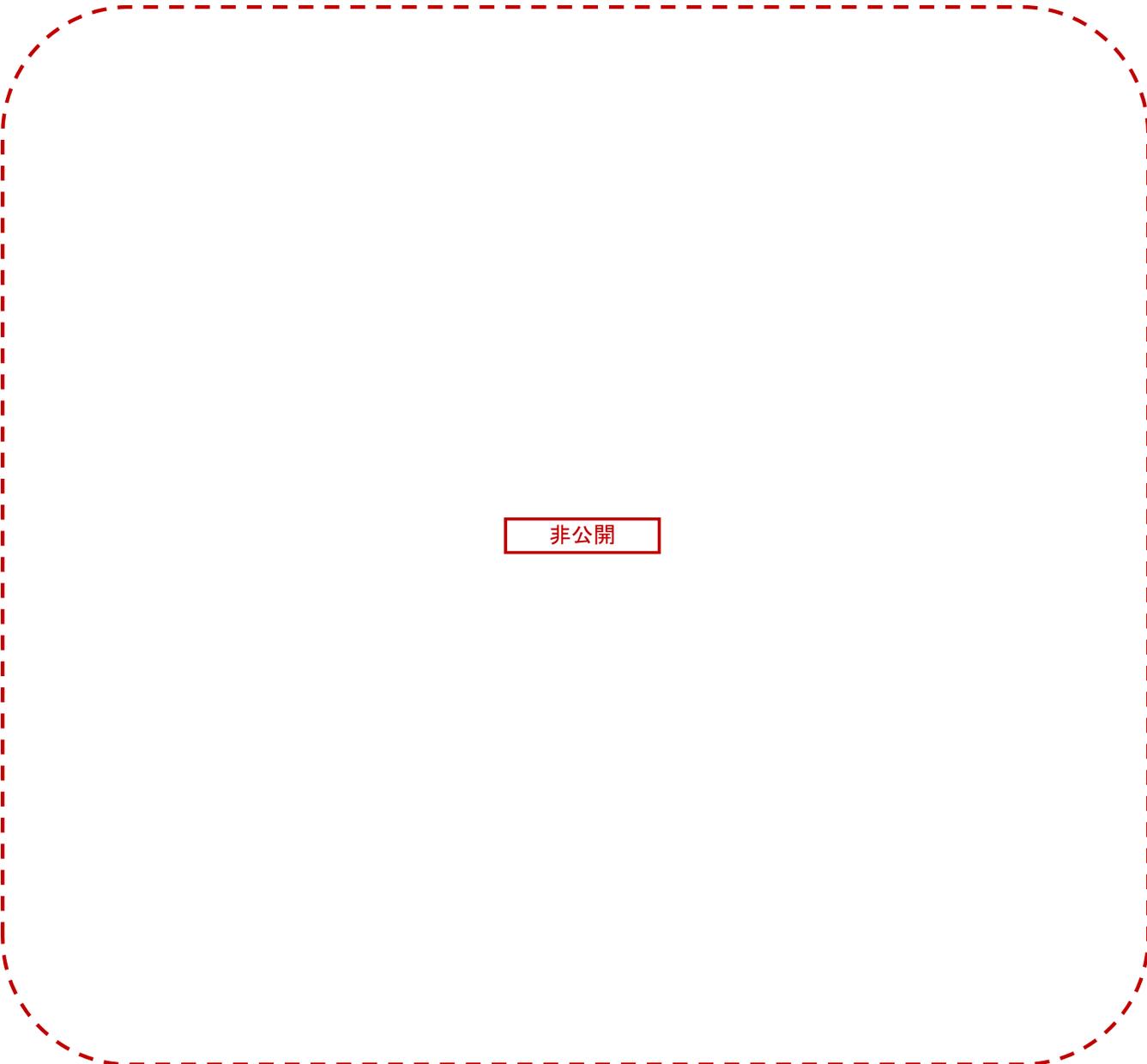
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT, NT1, NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法：2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 5/9

確認種		科名	種名	目標種	重要種	外来種
No.	目名					
229	ハエ	ハナアブ	フタホシヒラタアブ			
230			Melanostoma属			
231			シマアシトハナアブ			
232			シママメヒラタアブ			
233			キアシママヒラタアブ			
234			ノヒラママヒラタアブ			
235			オオハナアブ			
236			ルリハナアブ			
237			ホソヒメヒラタアブ			
238			キタヒメヒラタアブ			
239			モモフトチビハナアブ			
240			ナミルリイロハナアブ			
241		ハモグリバエ	ムギキイロハモグリバエ			
242			ハモグリバエ科			
243		キモグリバエ	ナミネアブラキモグリバエ			
244			キモグリバエ科			
245		ショウジョウバエ	Amiota属			
246			Drosophila属			
247		ミギワバエ	Notiphila属			
248			Psilopa属			
249		シマバエ	Setacera breviventris			
250			シモフリシマバエ			
251			Homoneura属			
252			Minettia属			
253			Steganopsis属			
254		ナガズヤセバエ	Trigonometopus frontalis			
255		ハネフリバエ	ホシアシナガヤセバエ			
256			ルリバエ			
257		ヒロクチバエ	ダイズコンリュウバエ			
258			Rivellia属			
259		ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ			
260		ツヤホソバエ	ヒトテンツヤホソバエ			
261			オスアカツヤホソバエ			
262		フンコバエ	Leptocera属			
263		ミバエ	チャイロハススジハマダラミバエ			
264			ヒラヤマアミメケバカミバエ			
265		ハナバエ	タネバエ			
266			ハナバエ科			
267		クロバエ	ホホクロオビキンバエ			
268			トウキョウキンバエ			
269			キンバエ			
270			ミヤマキンバエ			
271			Lucilia属			
272			コチビクロバエ			
273			ヒメチビクロバエ			
274			ツマグロキンバエ			
275		イエバエ	イネクキイエバエ			
276			Caricea属			
277			アシマダラハナレメイバエ			
278			Coenosia属			
279			カガハナダバエ			
			Dichaetomyia属			
			セマダライバエ			
			Hydrotaea属			
			Limnophora属			
			シナホソカトリバエ			
			Lispe属			
			イエバエ			
			モモグロオオイエバエ			
			オオイエバエ			



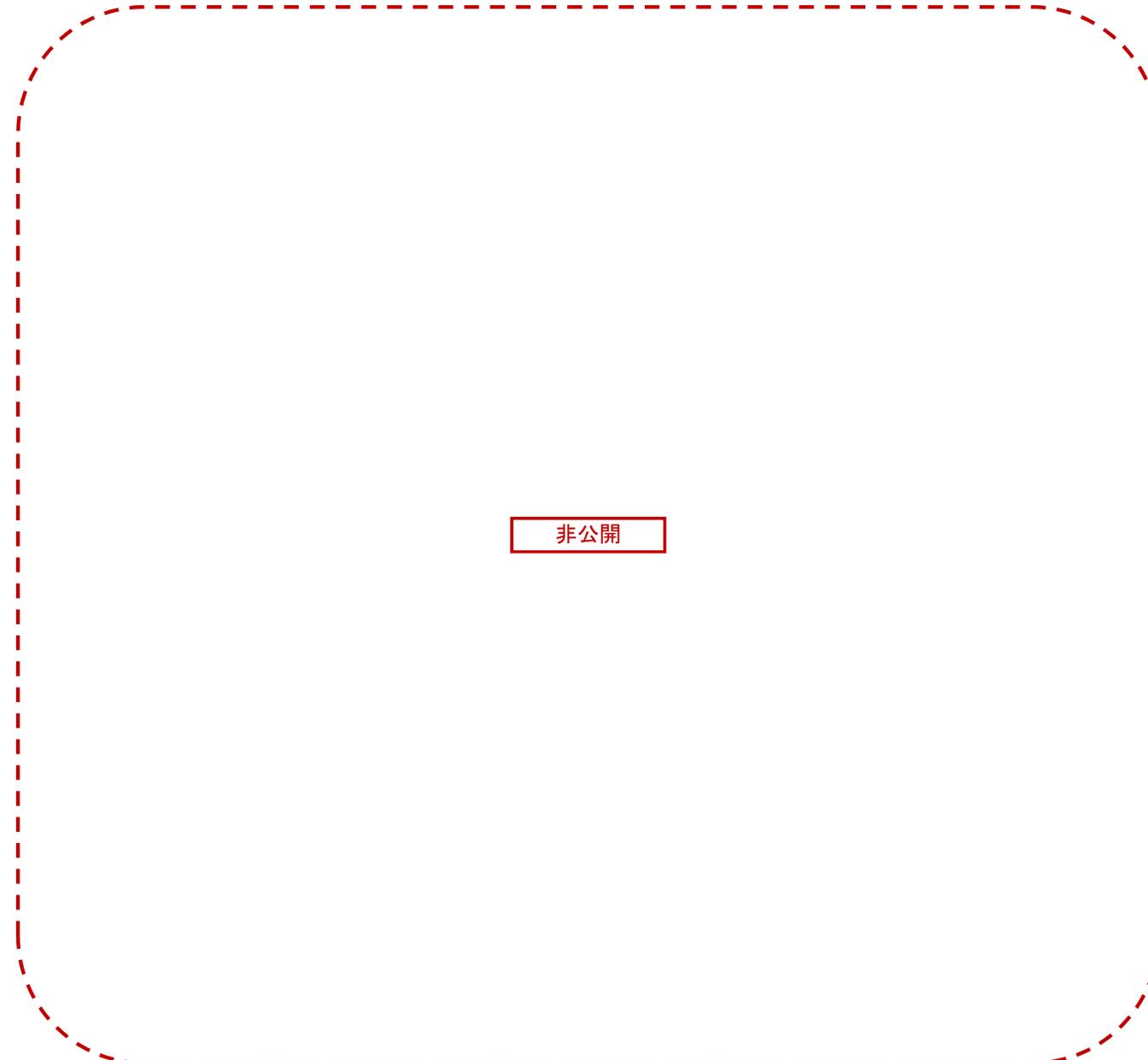
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT, NT1, NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法：2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 6/9

確認種		No.	目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
	ハエ	280	イエバエ		ウスホシマキバイエバエ			
		281			ヘリグロハナレメイエバエ			
					イエバエ科			
		282	ニクバエ		ホリニクバエ			
		283			カワユニクバエ			
		284			シリグロニクバエ			
		285			ナミニクバエ			
		286			コニクバエ			
		287			トラツメニクバエ			
					ニクバエ科			
		288	ヤドリバエ		Actia属			
		289			Blepharipa属			
		290			Cylindromyia属			
		291			Exorista属			
		292			Gonia属			
		293			Trigonospila属			
					ヤドリバエ科			
	コウチュウ	294	オサムシ		ニセマルガタゴミムシ			
		295			ホシボシゴミムシ			
		296			アオゴミムシ			
		297			キボシアオゴミムシ			
		298			ミズギワアトキリゴミムシ			
		299			Drschirius属			
		300			コルリアトキリゴミムシ			○
		301			ヨツモンコムズギワゴミムシ			
		302	ハンミョウ		コニワハンミョウ			
		303			エリザハンミョウ			
		304			トウキョウヒメハンミョウ			
		305			コハンミョウ			
		306	ゲンゴロウ		ハイイロゲンゴロウ			
		307	シデムシ		オオヒラタシデムシ			
		308	ハネカクシ		アオバリアガタハネカクシ			
		309	マルハナノミ		トビイロマルハナノミ			
		310	コガネムシ		コイチャコガネ			
		311			ドウガネブイブイ			
		312			セマダラコガネ			
		313			コアオハナムグリ			
		314			コフキコガネ			
		315			コガネムシ			
		316			マメコガネ			
		317			シロテンハナムグリ			
		318			カナブン			
		319			クロカナブン			
		320			カブトムシ			
		321	タマムシ		タマムシ			
		322			ホソツツタマムシ			
		323			コウゾチビタマムシ			
		324			ナミガタチビタマムシ			
		325			ズミチビタマムシ			
		326			ダンダラチビタマムシ			
		327	コメツキムシ		サビキコリ			
		328			オオハナコメツキ			
		329	ホタル		オバボタル			
		330	ベニボタル		Melaneros属			
		331	カッコウムシ		ヤマトヒメメダカッコウムシ			
		332			イガラシカッコウムシ			
		333	ジョウカイモドキ		ヒロオビジョウカイモドキ			
		334			キアシオビジョウカイモドキ			
		335	テントウムシ		ヒメアカホシテントウ			
		336			アカホシテントウ			



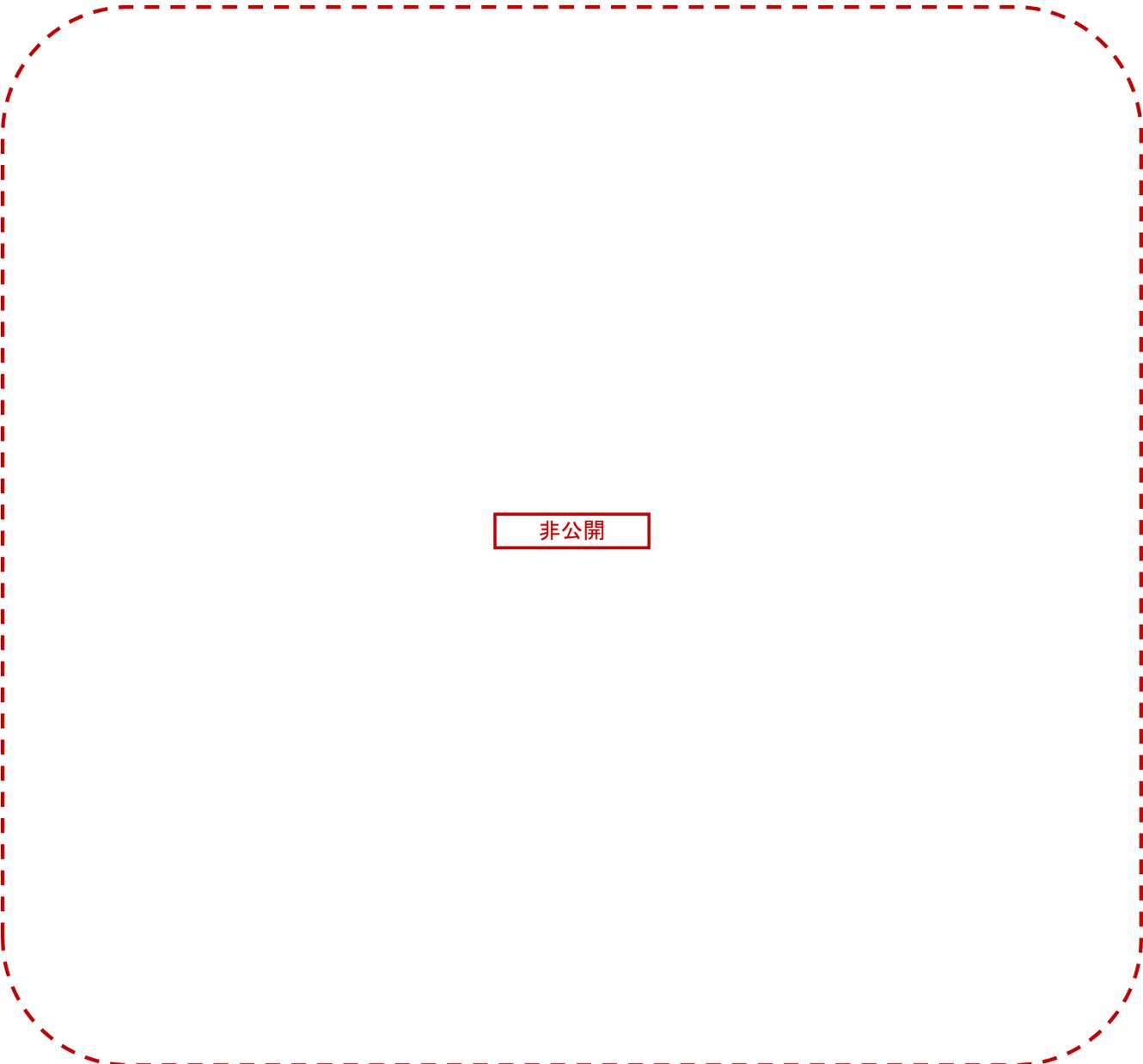
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT, NT1, NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法：2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 7/9

確認種						
No.	目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
337	コウチュウ	テントウムシ	ナナホシテントウ			
338			マクガタテントウ			
339			トホシテントウ			
340			ナミテントウ			
341			オオニジュウヤホシテントウ			
342			ジウサンホシテントウ			
343			セズジメテントウ			
344			ヨツボシテントウ			
345			ヒメカメノコテントウ			
346			アカイロテントウ			
347			ババヒメテントウ			
348			カグヤヒメテントウ			
349			カワムラヒメテントウ			
350			コクロヒメテントウ			
351			クロテントウ			
352			シロホシテントウ			
353		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ			
354		ヒメマキムシ	ウスチャケシマキムシ			
355		ケシキスイ	クロハナケシキスイ			
356			ヨツボシケシキスイ			
357		ヒメハナムシ	エムモンチビヒメハナムシ			
358		アリモドキ	ホソクビアリモドキ			
359			キアシクビボソムシ			
360			ヨツボシホソアリモドキ			
361		ツチハンミョウ	マメハンミョウ			
362		ハナノミ	クロヒメハナノミ			
363		ゴミムシダマシ	トビイロクチキムシ			
364			ハムシダマシ			
365			チビキノコゴミムシダマシ			
366		カミキリムシ	ピロウドカミキリ			
367			ゴマダラカミキリ			
368			ニイジマチビカミキリ			
369			ミワヒメハナカミキリ			
370			キボシカミキリ			
371			アトジロサビカミキリ			
372		ハムシ	タマツツハムシ			
373			ハンノキハムシ			
374			アカバナカミナリハムシ			
			Altica属			
375			スキバジシガサハムシ			
376			ウリハムシモドキ			
377			ウリハムシ			
378			クロウリハムシ			
379			アオバネサルハムシ			
380			ムネアカサルハムシ			
381			アズキメゾウムシ			
382			カメノコハムシ			
383			ヒメカメノコハムシ			
384			ヒサゴトビハムシ			
			Chaetocnema属			
385			イモサルハムシ			
386			ミドリトビハムシ			
387			カサハラハムシ			
388			クワハムシ			
389			クルミハムシ			
390			クロトグハムシ			
391			アカクビボソハムシ			
392			ヤマイモハムシ			
393			ヨモギトビハムシ			
			Longitarsus属			



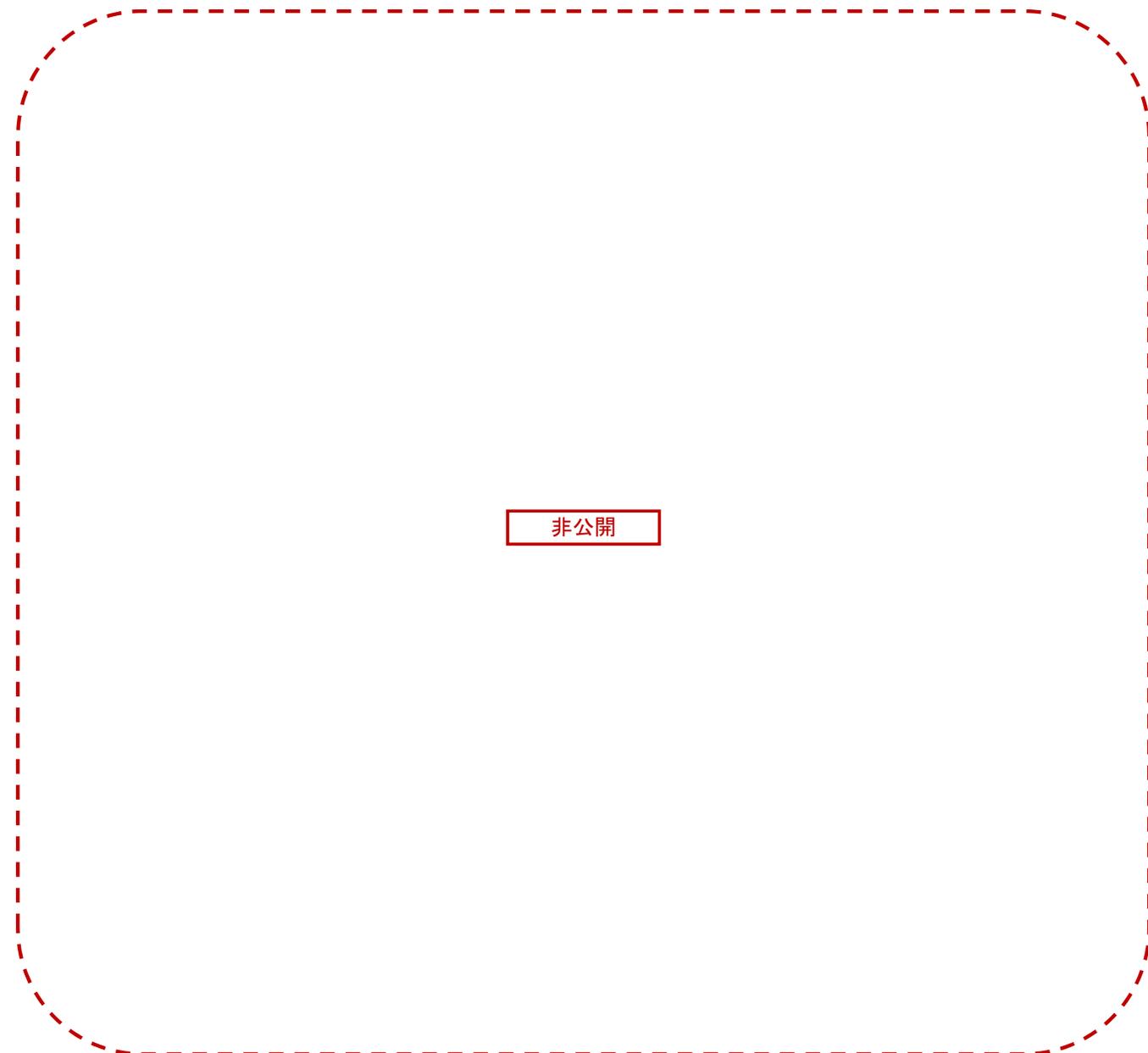
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT, NT1, NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法：2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 8/9

確認種					
No.	目名	科名	種名	目標種	重要種
394	コウチュウ	ハムシ	クワノミハムシ		
395			コフキサルハムシ		
396			フタスジヒメハムシ		
397			ホタルハムシ		
398			ドウガネツヤハムシ		
399			ブタクサハムシ		○
400			キアシクビボソハムシ		
401			ムネアカキバネサルハムシ		
402			マルキバネサルハムシ		
403			キスジノミハムシ		
404			ヤナギルリハムシ		
405			ナトビハムシ		
406			Psylliodes属		
407			サンゴジュハムシ		
408			ニレハムシ		
409			ドウガネサルハムシ		
410			キボシルリハムシ		
411		ホソクチゾウムシ	ギシギシホソクチゾウムシ		
412			ヒゲナガホソクチゾウムシ		
413		オトシブミ	ヒメクロオトシブミ		
414			クロケシツブチョッキリ		
415			カシルリオトシブミ		
416		ゾウムシ	チビデゾウムシ		
417			イチゴハナゾウムシ		
418			チビメナガゾウムシ		
419			Calomycterus属		
420			ツツゾウムシ		
421			オオアオゾウムシ		
422			クヌギギゾウムシ		
423			コフキノウムシ		
424			ハスジカツオゾウムシ		
425			カツオゾウムシ		
426			クワヒメゾウムシ		
427			カシワクチブトゾウムシ		
428			Myliocerus属		
429			Orochlesis属		
430			Rhynchaenus属		
431	ハチ	ミフシハバチ	アカスジチュウレンジ		
432			ニホンチュウレンジ		
433		ハバチ	ハグロハバチ		
434			セグロカブラハバチ		
435			ニホンカブラハバチ		
436			カブラハバチ		
437		コマユバチ	コマユバチ科		
438		ヒメバチ	Coccygomimus属		
439			エゾオナガバチ		
440			Pterocormus属		
441			ヒメバチ科		
442		タマゴクロバチ	タマゴクロバチ科		
443		アシトコバチ	イシイツヤアシトコバチ		
444			Antrocephalus属		
445			チビアシトコバチ		
446			キアシトコバチ		
447		カタビロコバチ	カタビロコバチ科		
448			コガネコバチ		
449			コガネコバチ科		
450		オナガコバチ	オナガコバチ科		
451		セイボウ	オオセイボウ		DD
452		アリ	ナフヨツボシオアリ		
453			ウメマツオアリ		
454			Camponotus属		



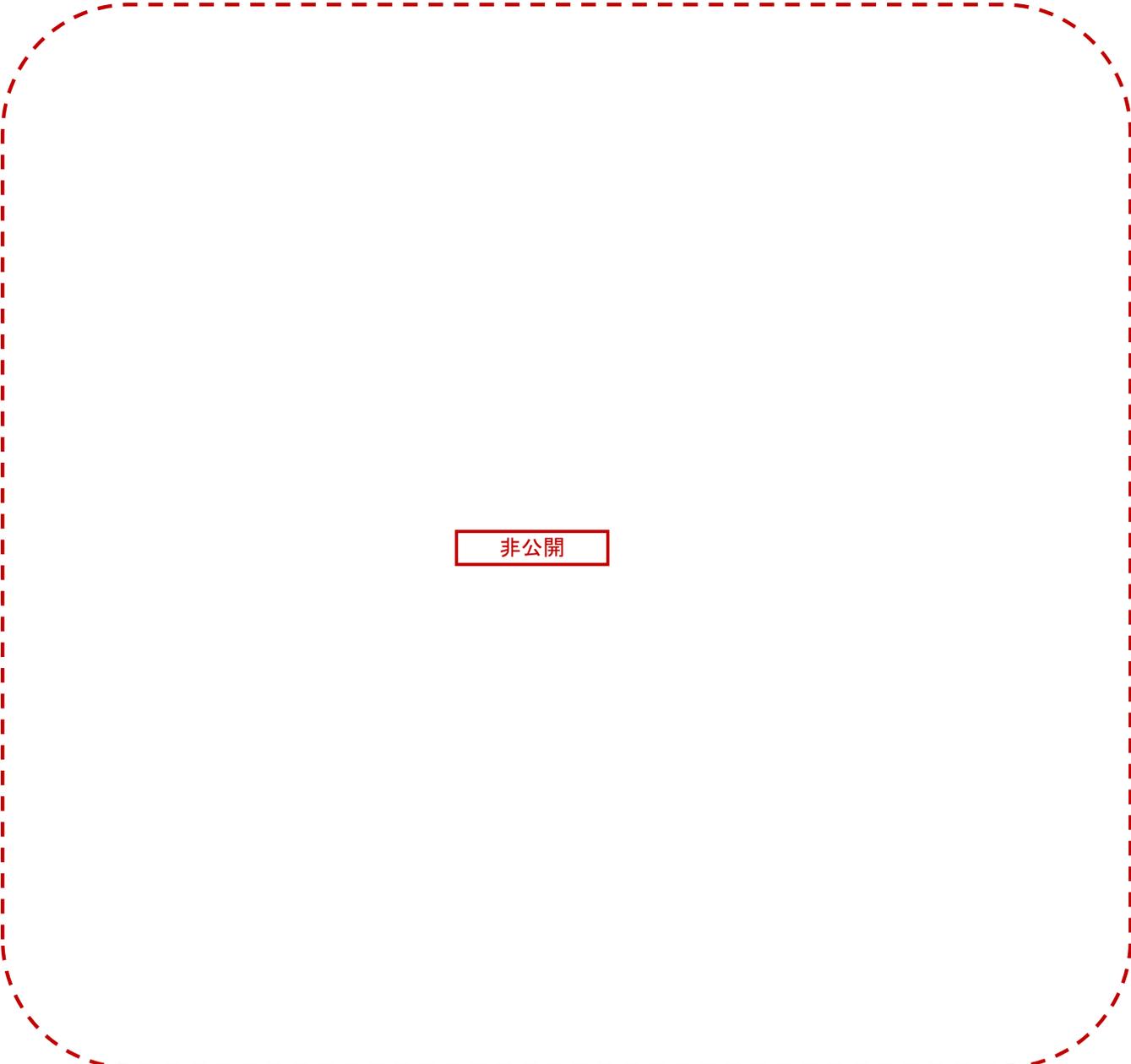
非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT, NT1, NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法：2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 昆虫類調査：確認種 【初夏季・夏季】 9/9

確認種						
No.	目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種
448	ハチ	アリ	ハリトシリアゲアリ			
449			テラニシリアゲアリ			
450			シベリアカタアリ			
451			クロヤマアリ			
452			クロクサアリ			
453			ハヤシケアリ			
454			トビイロケアリ			
455			クサアリモドキ			
456			ヒメアリ			
457			アメイロアリ			
458			アミメアリ			
459			ムネボソアリ			
460			トビイロシワアリ			
461		ドロバチ	アトボシキタドロバチ			
462			オオフタオビドロバチ			
463			ハグロフタオビドロバチ			
464			ヤマトフタスジズバチ			
465			ミカドトックリバチ			
466			キアシトックリバチ			
467			スズバチ			
468			カタグロチビドロバチ			
469			フトカギチビドロバチ			
470		スズメバチ	ムモンホソアシナガバチ			
471			フタモンアシナガバチ			
472			セグロアシナガバチ			
473			キアシナガバチ			
474			コアシナガバチ			
475			コガタスズメバチ			
476			モンズズメバチ		DD	
477		ベッコウバチ	オオモンクロベッコウ			
478			キバネオオベッコウ			
479		クモバチ	ベッコウクモバチ			
480		アリバチ	ヤマトアリバチモドキ			
481			フタホシアリバチ			
482		コツチバチ	Tiphia属			
483		ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ			
484			キオビツチバチ			
485		ギングチバチ	クララギングチ			
486			ヤマトコトガタバチ			
487		フシダカバチ	アカアシツチスガリ			
			Cerceris属			
488		アナバチ	サトジガバチ			
489			クロアナバチ			
490			クロアナバチ			
491		ミツバチ	セイヨウミツバチ			○
492			エサキツキハナバチ			
493			キオビツキハナバチ			
494			シロスジヒゲナガハナバチ			
495			Nomada属			
496			キムネクマバチ			
497		ムカシハナバチ	マツラムシハナバチ			
			Hylaeus属			
498		コハナバチ	アカガネコハナバチ			
499			サビイロカタコハナバチ			
500			シロスジカタコハナバチ			
501			フタモンカタコハナバチ			
			Lasioglossum属			
502			Sphecodes属			
503		ハキリバチ	トモンハナバチ			
504			ツルガハキリバチ			
	14目	149科	504種	1種	7種	7種



非公開

【重要種凡例】国：2012、県：2011 準絶滅危惧 (NT、NT1、NT2)、情報不足 (DD)
 【外来種凡例】外来生物法:2004 特定外来種 (特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015、「総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)」重点対策外来種 (総合 (重点))、外来種ハンドブック：2002 指定種 (○)

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

6) 両生類・爬虫類・哺乳類調査（試行）：確認種・重要種・特定外来種【初夏季・初春季】

- シュレーゲルアオガエル：6月に地区内の水田利用地付近などを踏査しましたが、姿・鳴き声とも確認されませんでした。
- 哺乳類：6月中旬～8月上旬にかけて、昨年度にアライグマの利用が確認された下池において、5箇所自動撮影カメラを設置しました。結果、アライグマだけでなく、タヌキ、イタチ、ノウサギが確認されました。
- ニホンアカガエル：平成28年2月22日に地区内の産卵に利用可能な水路・たまり・水田利用地付近などを踏査しましたが、卵塊は確認されませんでした。



アライグマ



タヌキ

目標種であるニホンアカガエルの卵塊は確認されませんでした。



イタチ



ノウサギ

3. 太郎右衛門地区全体の調査

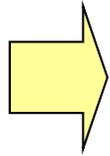
今回報告

7) 「下池野火跡地」の調査：下池・野火跡地 植物 重要種・特定外来種【春・秋季】

非公開

H27.5の結果

H27.10の結果



非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

7) 「下池野火跡地」の調査：下池・野火跡地 植物 植物相【春・秋季】

非公開

植物相

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

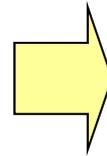
7) 「下池野火跡地」の調査：下池・野火跡地 植物 植物図【秋季】

非公開

植生図

H25.10の結果

H27.10の結果



非公開

7) 「下池野火跡地」の調査：下池・野火跡地 植物 群落組成位置

H27コードラート位置図

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

7) 「下池野火跡地」の調査：下池・野火跡地 植物 群落組成位置

H27.10

H27.10

非公開

H27.10

H27.10

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

7) 「下池野火跡地」の調査：下池・野火跡地 植物 群落組成位置

H27.10

H27.10

非公開

H27.10

H27.10

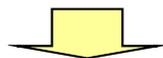
1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H25.5の結果

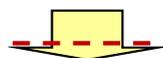


非公開



*ここは「整備地」
(別途調査)

H26.5の結果



1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H27.5の結果

*ここは「整備地」
(別途調査)

非公開

1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H25.8の結果

*ここは「整備地」
(別途調査)

非公開

H26夏季は湛水のため調査実施はありませんでした。

H27夏季(～秋季)は湛水のため調査は実施できませんでした。

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 植物相【春季】

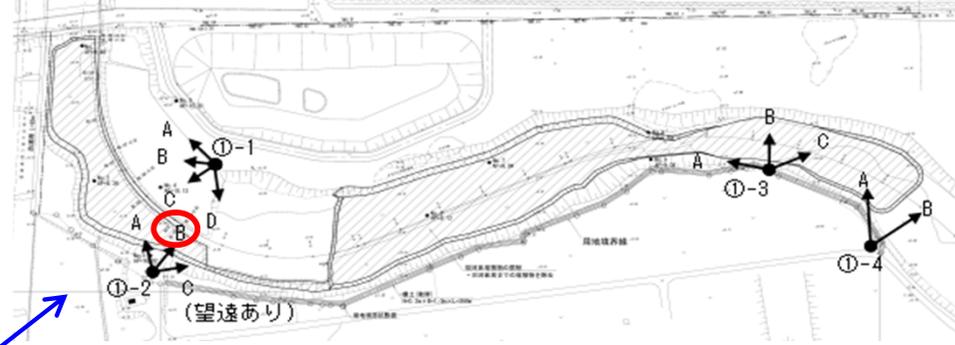
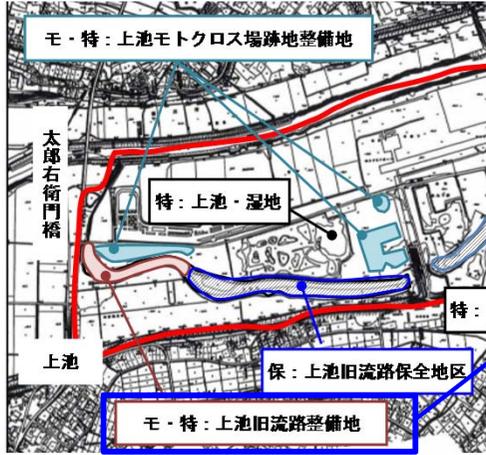
非公開

植物相

非公開

2) 上池・旧流路整備地：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



4月24日



上池①-2-B

5月22日



6月24日



7月24日



8月21日



9月24日



10月26日



11月27日



12月25日



1月22日



2月25日



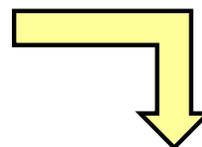
水面は維持されている。

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

●旧流路整備地は、開放水面の形成を目的として掘削された場所です。

H25.5の結果

非公開



H26.5の結果

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H27.5の結果

非公開

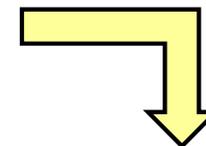
2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

●旧流路整備地は、開放水面の形成を目的として掘削された場所です。

H25.8の結果

非公開

H26.8の結果



2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H27.8の結果

非公開

2) 上池・旧流路整備地：植物 確認種【春・夏・秋季】

非公開

植物相

非公開

2) 上池・旧流路整備地：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

非公開

H27.10の結果

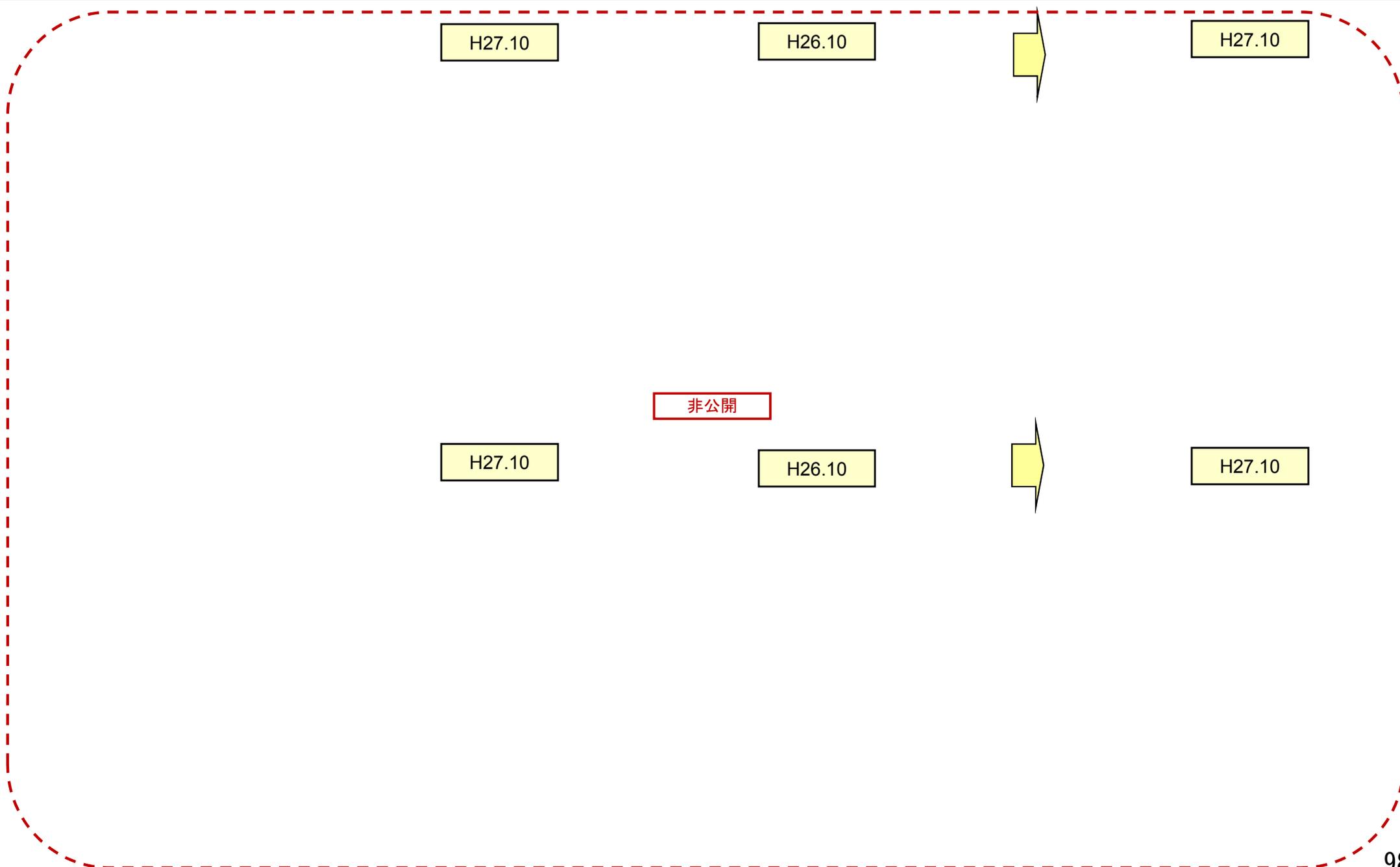
2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成位置

●分布している群落は昨年度とほぼ同様で、その構造も特に大きな変化はありませんでした。

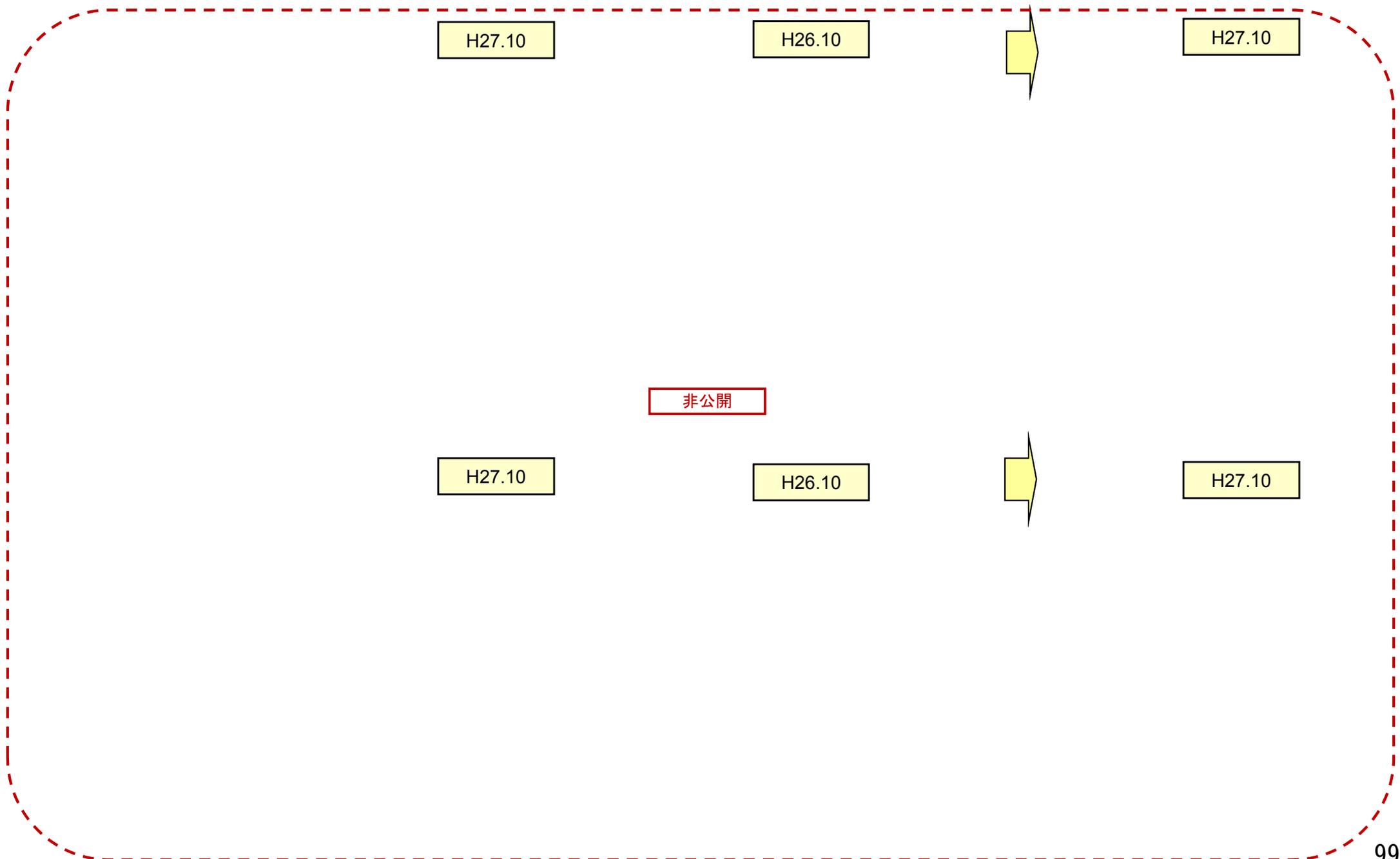
H27コドラート位置図

非公開

2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造



2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造



2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

H27.10

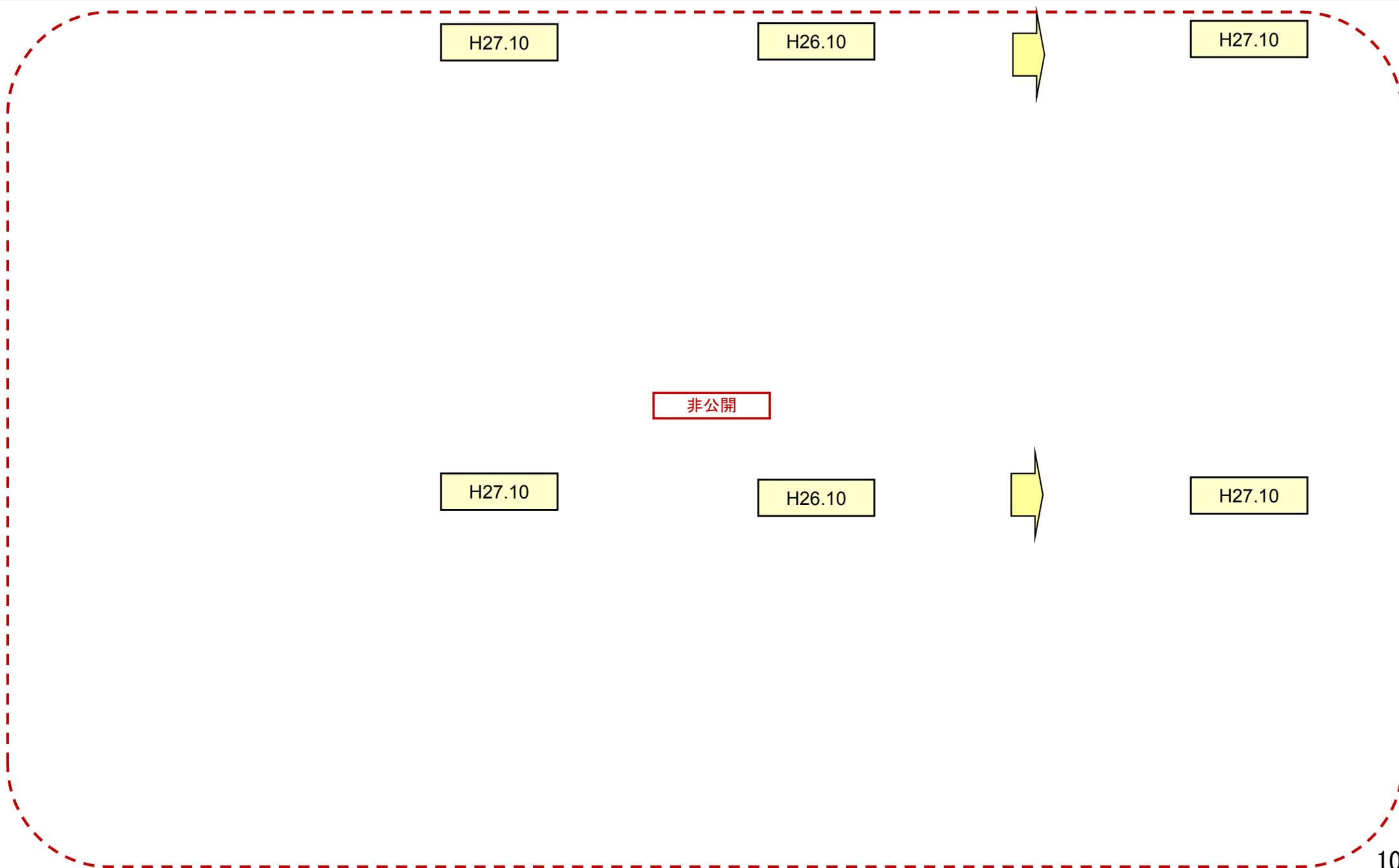
非公開

H26.10



H27.10

2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造



2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10

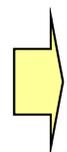


H27.10

非公開

H27.10

H26.10



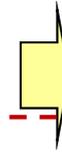
H27.10

2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10

H27.10

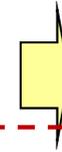


非公開

2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



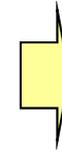
H27.10

非公開

2) 上池・旧流路整備地：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

2) 上池・旧流路整備地：鳥類 確認種

非公開

非公開

2) 上池・旧流路整備地：魚類 確認種

非公開

非公開

2) 上池・旧流路整備地：アカガエル類の産卵状況 【初春季】

- 平成28年2月22日に調査を実施しました。
- 産卵に利用可能な水際・周辺のたまりなどを踏査しましたが、卵塊は確認されませんでした。

卵塊は確認されませんでした。

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

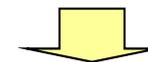
H25.5の結果

H26.5の結果



非公開

H27.5の結果

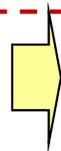


3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H25.8の結果

H26.8の結果



非公開

H27.8の結果



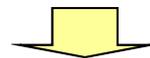
3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

非公開

H27.10の結果



3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 群落組成位置

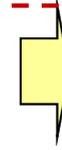
H27コードラート位置図

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

H27.10

H26.10



H27.10

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

H27.10

H26.10



H27.10

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 群落組成と構造

H27.10

非開 H26.10



H27.10

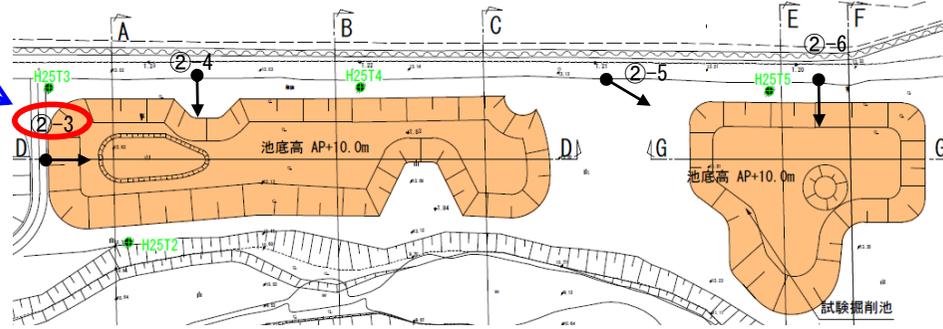
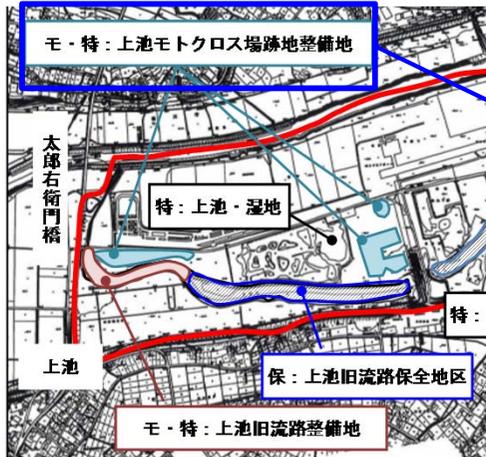
非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



4月24日



上池②-3

5月22日



6月24日



7月24日



8月21日



9月24日



10月26日



11月27日



12月25日



1月22日



2月25日



湿地が維持されている。(水面は縮小しつつある。) 117

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

非公開

H27.5の結果



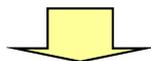
3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H26.8の結果

非公開

H27.8の結果



3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

非公開

H27.10の結果

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 群落組成位置

H27コードラート位置図

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

H27.10

H26.10



H27.10

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

H27.10

H26.10



H27.10

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

H27.10

H26.10



H27.10

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・25整備：植物 確認種【春・夏・秋季】

非公開

植物相

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・H25整備：鳥類 確認種

非公開

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

今回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・H25整備：アカガエル類の産卵状況

非公開

H23整備

非公開

H25整備

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・H25整備：アカガエル類の産卵状況

※ トピックス

非公開

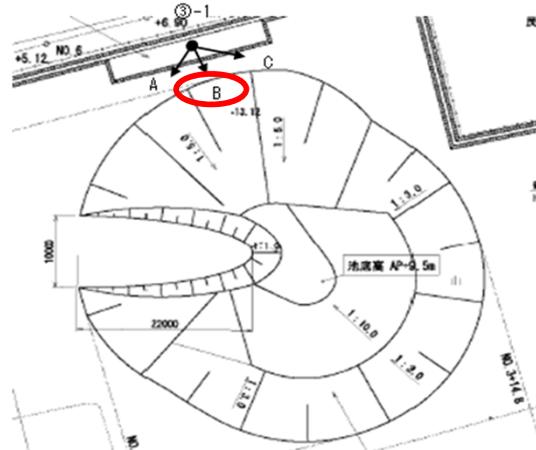
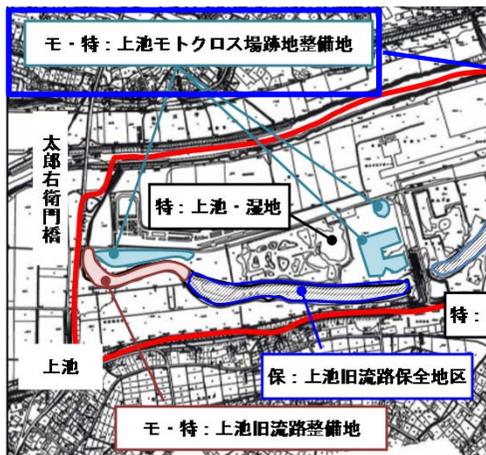
非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



4月24日



上池③-1-B

5月22日



6月24日



7月24日



8月21日



9月24日



10月26日



11月27日



12月25日



1月22日



2月25日



斜面部はオギ等、底面部はヨシ等が生育している。 130

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H25.5の結果

H26.5の結果

H27.5の結果

非公開

※ここは外来種除去の
管理を試行しています。

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H25.8の結果

H26.8の結果

H27.8の結果



非公開



4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

※ここは外来種除去の
管理を試行しています。

非公開

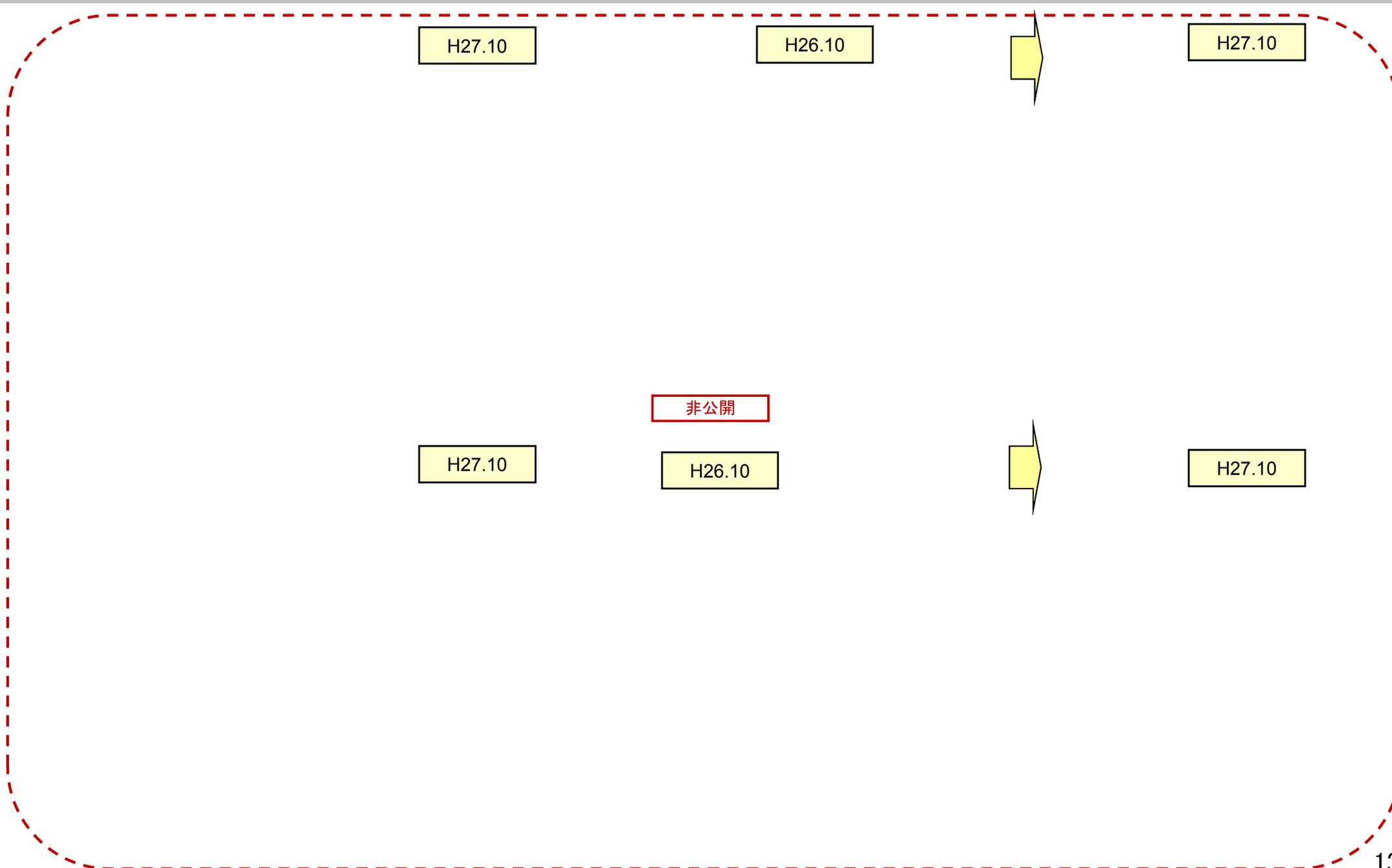


4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 群落組成位置

H27コードラート位置図

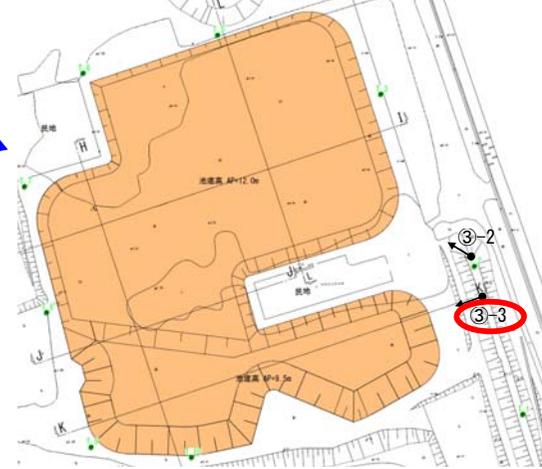
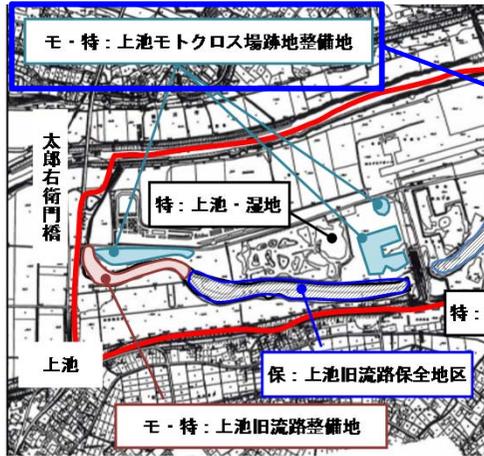
非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 群落組成と構造



4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-26整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



4月24日



上池③-3

5月22日



6月24日



7月24日



8月21日



9月24日



10月26日



11月27日



12月25日



1月22日



2月25日



斜面部はオギ等、底面部はおおむね裸地である(夏以降は水面下)。

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-26整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H26.5の結果

H27.5の結果

非公開



4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-26整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H26.8の結果

H27.8の結果

非公開



4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 群落組成位置

H27コドラート位置図

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10

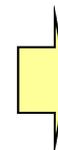


H27.10

非公開

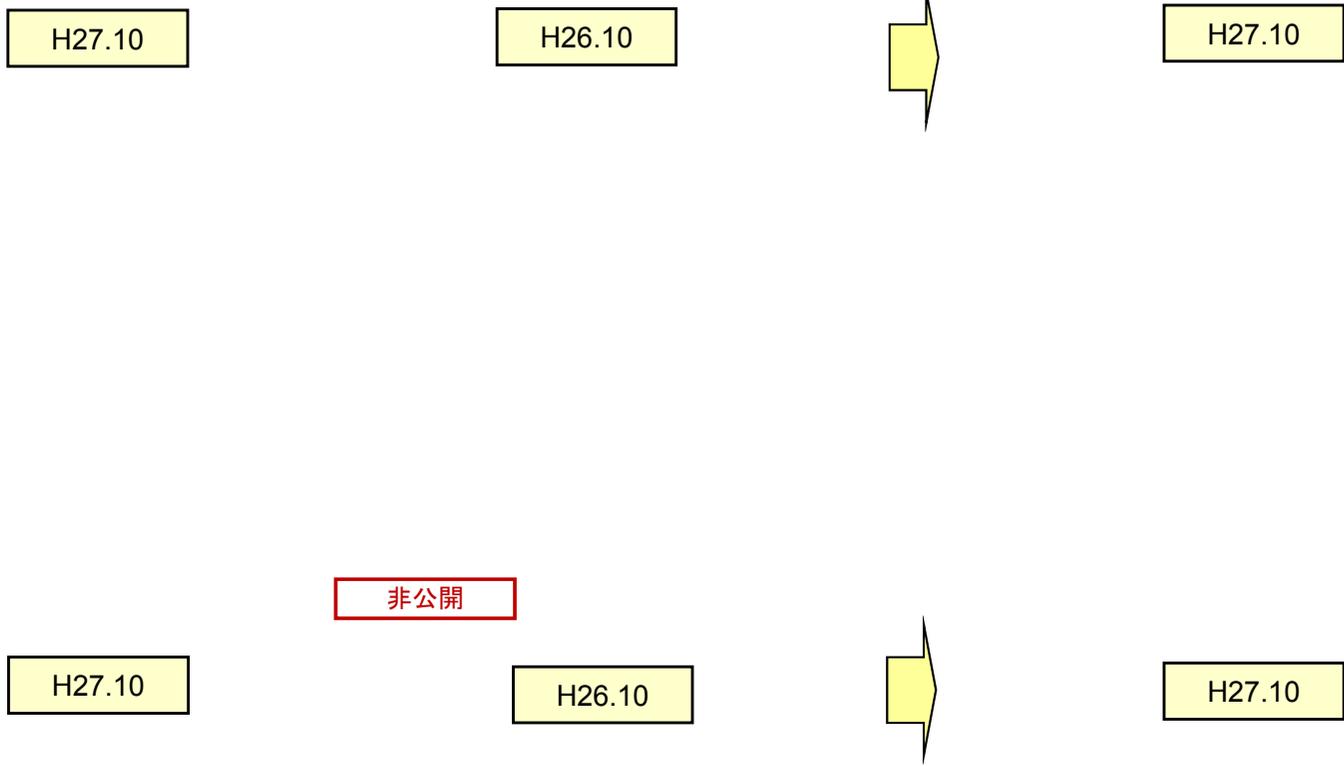
H27.10

H26.10

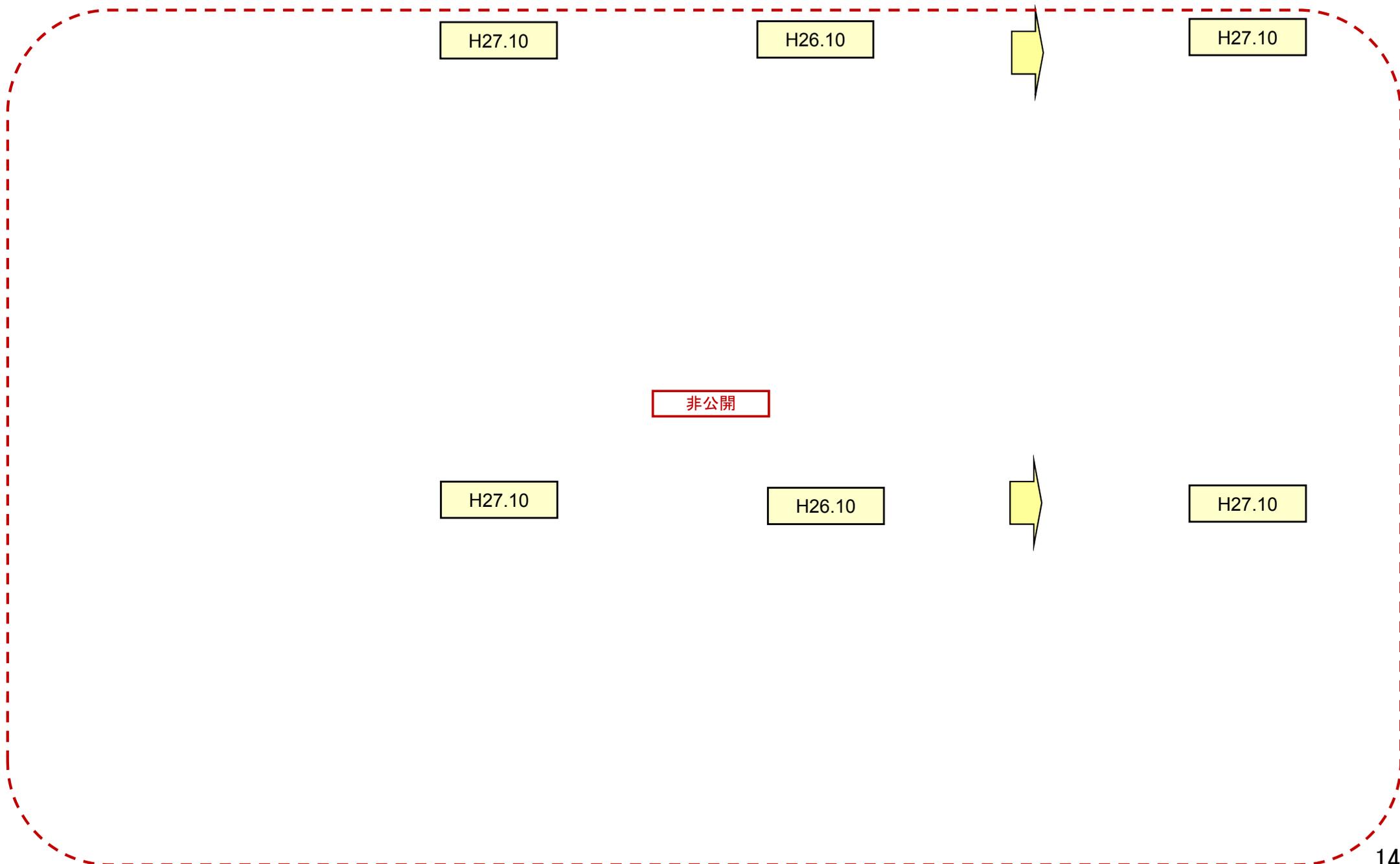


H27.10

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 群落組成と構造



4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 群落組成と構造



4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



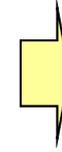
H27.10

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25整備：植物 群落組成と構造

H27.10

H26.10



H27.10

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・25-26整備：植物 確認種【春・夏・秋季】

非公開

植物相

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・H25整備：鳥類 確認種

非公開

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・H25整備：アカガエル類の産卵状況【初春季】

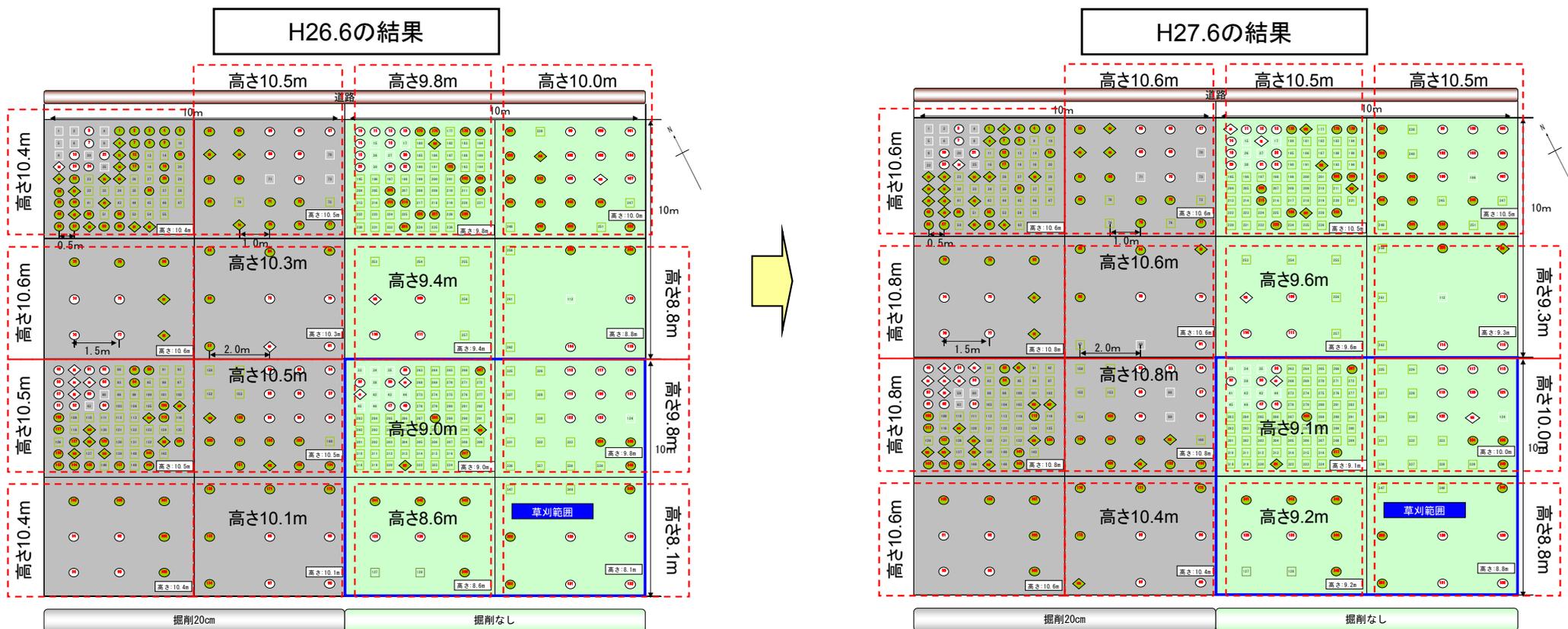
- 平成28年2月22日に調査を実施しました。
- 産卵に利用可能な水際・周辺のたまりなどを踏査しましたが、卵塊は確認されませんでした。

卵塊は確認されませんでした。

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 下池・ハンノキ育成試験地：試験地②のハンノキ・ミドリシジミ【春季】

- ハンノキはH26年6月からの生育状態については大きな変化は認められませんでした。
- 高さは掘削有りで0.2m程度、掘削無しで0.4m程度、全体で0.3m程度高くなっています。
- ミドリシジミ調査は、H27年6月18・19日に実施し、8個体確認されました。



【ミドリシジミ確認状況】

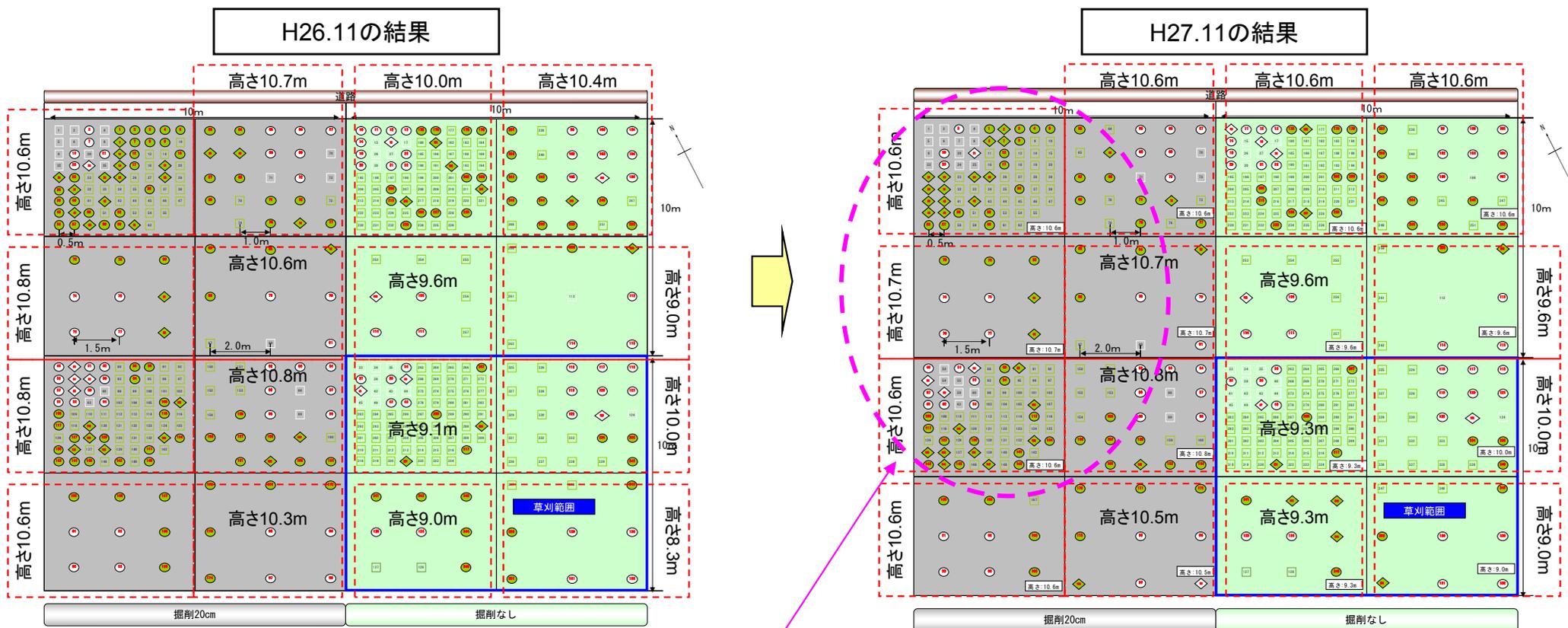
調査年	H24	H25	H26	H27
確認数	3	5	7	8

凡例	移植方法	白: 幼木移植	緑: 萌芽更新移植
	生育状態	●: 良、◆: 不良 □: 枯死	●: 良、◆: 不良 □: 枯死

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 下池・ハンノキ育成試験地：試験地②のハンノキ・ミドリシジミ【秋季】

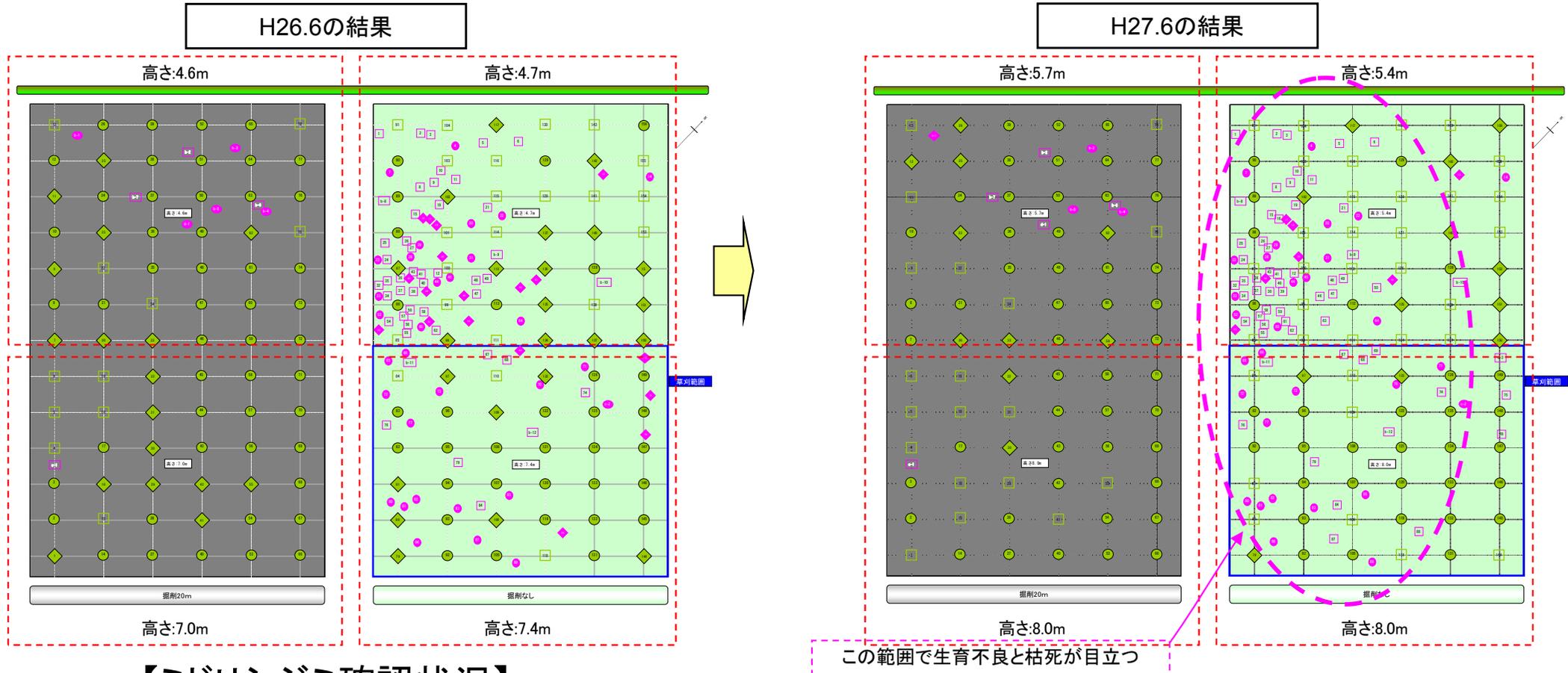
- ハンノキはH26年11月からの生育状態については枯死の増加が認められました。
- 高さは掘削有りで昨年と同程度で変わらず、掘削無しで0.3m程度、全体で0.2m程度高くなっています。



4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 下池・ハンノキ育成試験地：試験地③のハンノキ・ミドリシジミ【春季】

- ハンノキはH26年6月からの生育状態については枯死の増加が認められました。
- 高さは掘削有りで1m程度、掘削無しで0.6m程度、全体で0.9m程度高くなっています。
- ミドリシジミ調査は、H27年6月18・19日に実施し、3個体確認されました。



【ミドリシジミ確認状況】

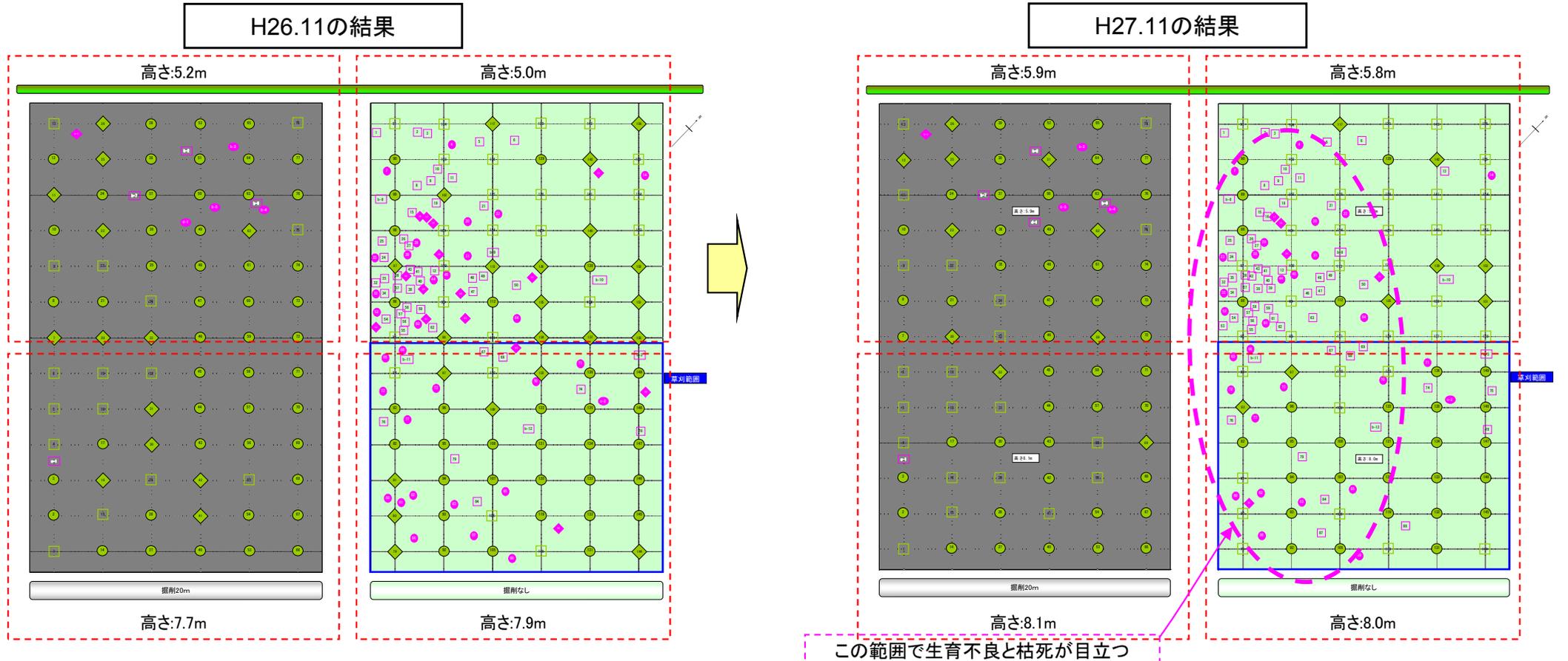
調査年	H24	H25	H26	H27
確認数	0	1	0	3

凡例	移植方法	白: 幼木移植	緑: 萌芽更新移植
	生育状態	●: 良、◆: 不良 □: 枯死	●: 良、◆: 不良 □: 枯死

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 下池・ハンノキ育成試験地：試験地③のハンノキ・ミドリシジミ【秋季】

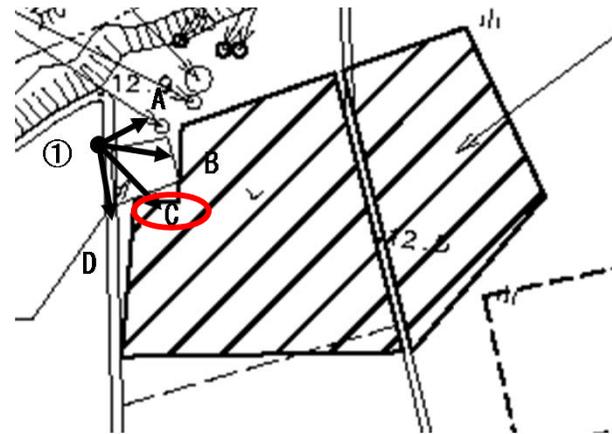
- ハンノキはH26年11月からの生育状態については枯死の増加が認められました。
- 高さは掘削有りで0.6m程度、掘削無しで0.5m程度、全体で0.5m程度高くなっています。



凡例	移植方法	白: 幼木移植	緑: 萌芽更新移植
	生育状態	●: 良、◆: 不良 □: 枯死	●: 良、◆: 不良 □: 枯死

6) 下池・移植地：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



4月24日



下池①-C

5月22日



6月24日



7月24日



8月21日



9月24日



10月26日



11月27日



12月25日



1月22日



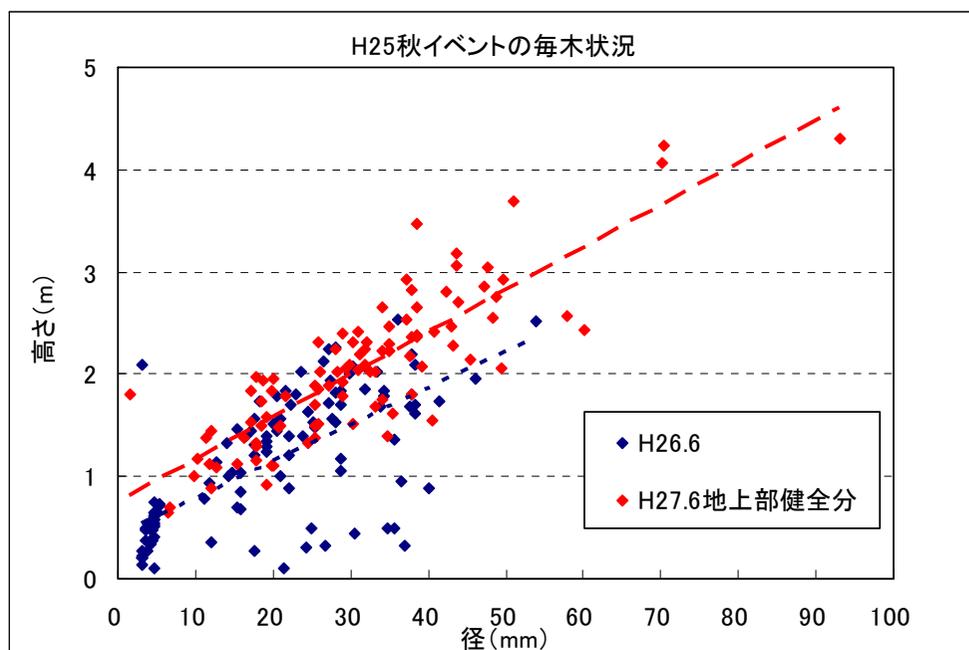
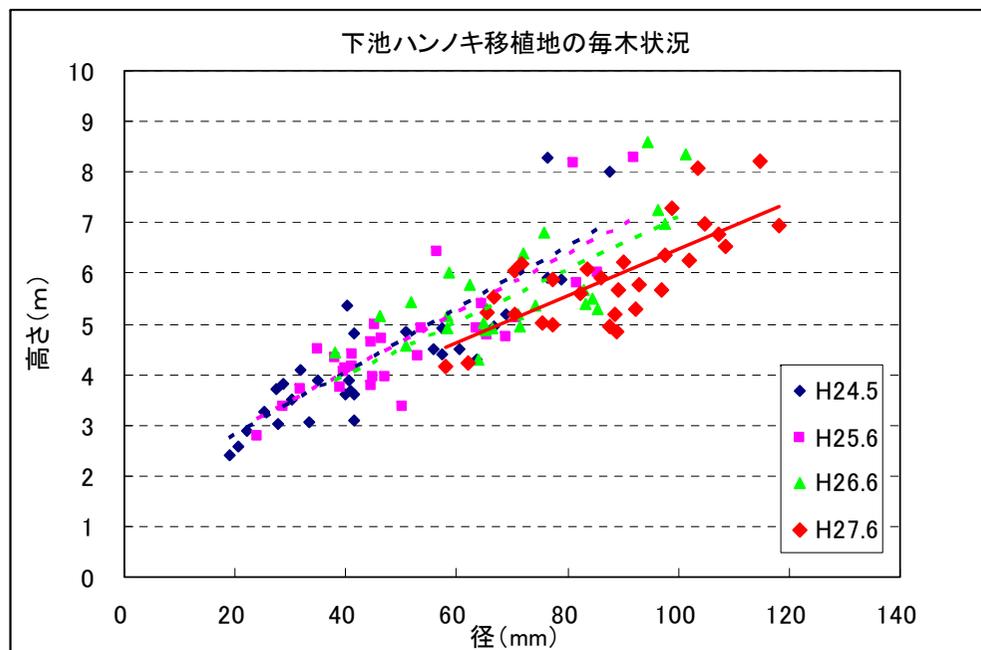
2月25日



移植したハンノキが順調に生育していた。周辺には外来種等の草本が繁茂しているが、ハンノキに悪影響を及ぼす状況は認められなかった。 154

6) 下池・移植地：ハンノキ・ミドリシジミ【春季】

- ハンノキ調査は、H27年6月15-16日に実施しました。
- 移植した33個体のうち、30個体は生育良好、3個体が枯死で、前回から変化はありません。
- 今回(H27.6)と昨年6月の全個体の平均値を比較すると高さで約0.4m、径で約18mm大きくなっています。
- H25秋イベントで移植した個体は、昨年6月より地上部が枯死した個体を除く平均値を比較すると、高さが約0.9m、径で約12mm大きくなっています。
- ミドリシジミ調査は、H27年6月18・19日に実施し、8個体確認されました。



【ミドリシジミ確認状況】

調査年	H24	H25	H26	H27
確認数	0	3	16	8*

* 中止となった7/1には、通路近くの範囲(全体の1/4ほど)で6個体程度を確認出来たため、この日は20個体前後は利用していたと推計されます。



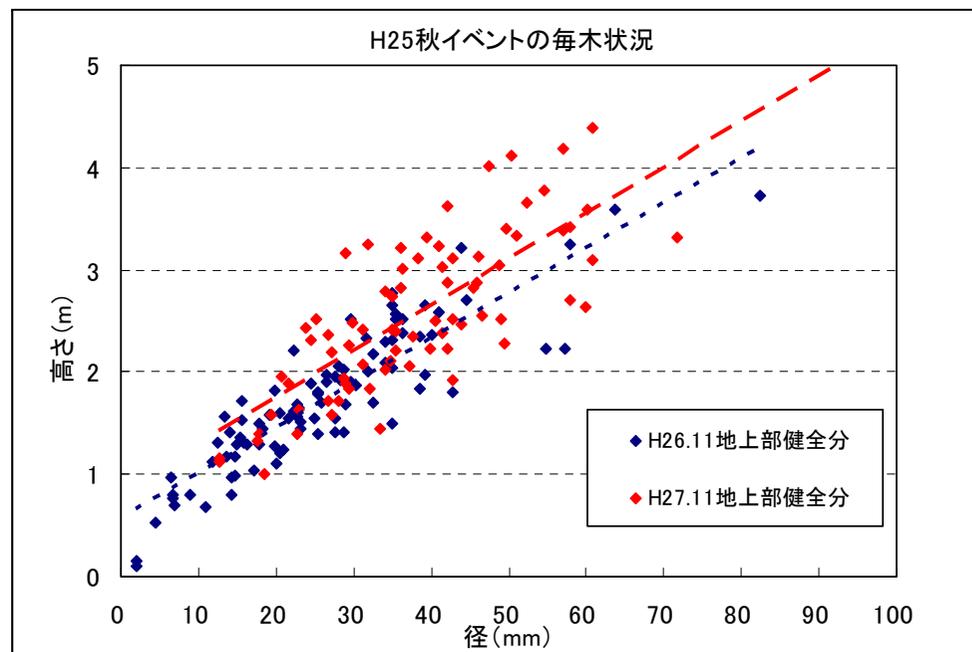
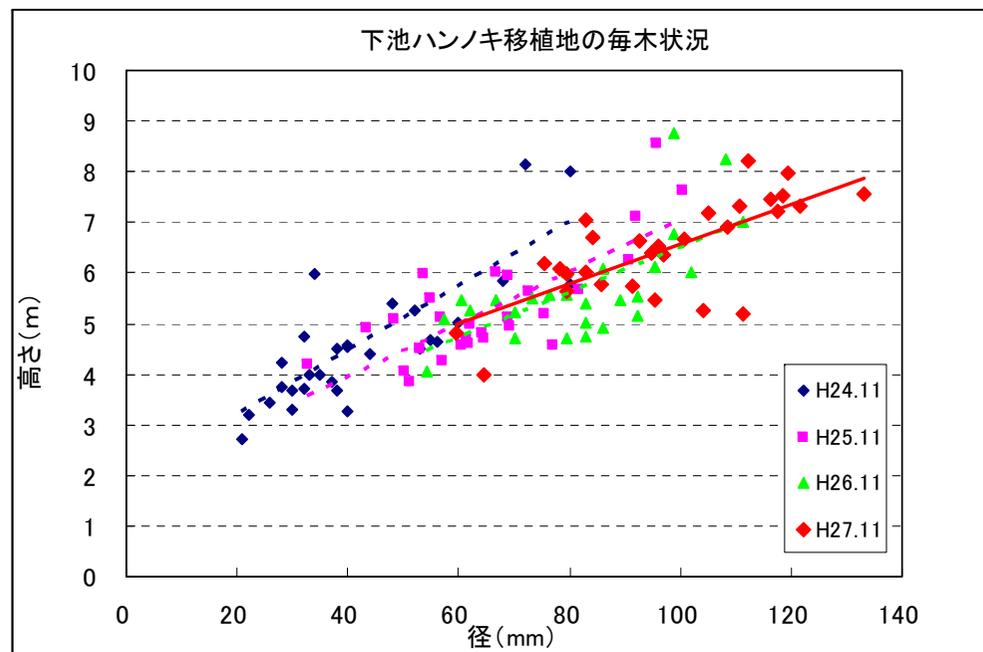
調査実施状況(中止となった7/1)



ハンノキ移植地の確認個体

6) 下池・移植地：ハンノキ【秋季】

- ハンノキ調査は、H27年11月18日に実施しました。
- 移植した33個体のうち、30個体は生育良好、3個体が枯死で、前回から変化はありません。
- 今回(H27.11)と昨年11月の全個体の平均値を比較すると高さで約0.8m、径で約16mm大きくなっています。
- H25秋イベントで移植した個体は、昨年11月より地上部が枯死した個体を除く平均値を比較すると、高さが約0.9m、径で約14mm大きくなっています。



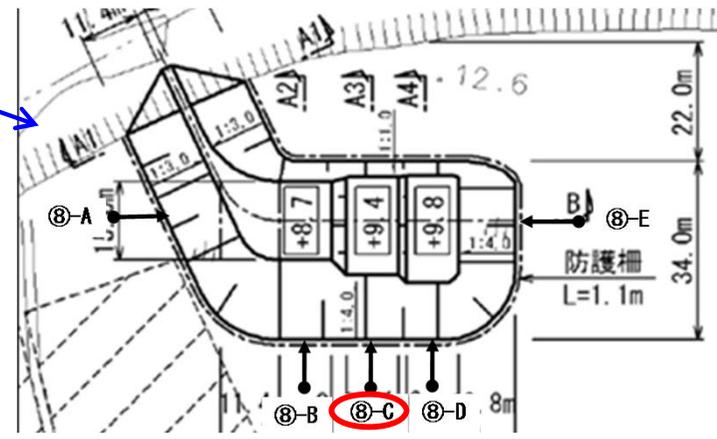
調査実施状況



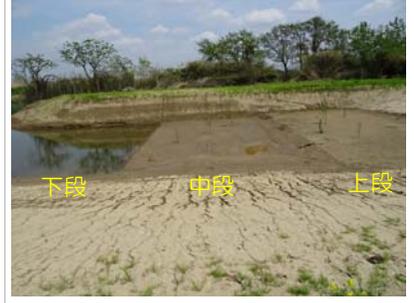
ハンノキ移植地の維持管理(外来種除去)

7) 下池・試験掘削地：写真撮影

●H26冬季整備により、植物の出現状況が不明であるため、適宜撮影し、各方向を示した。

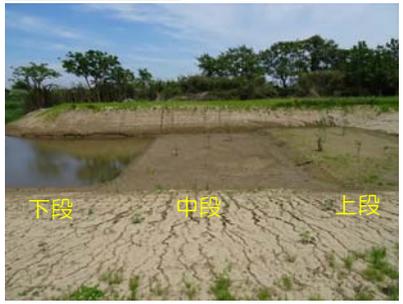


4月24日

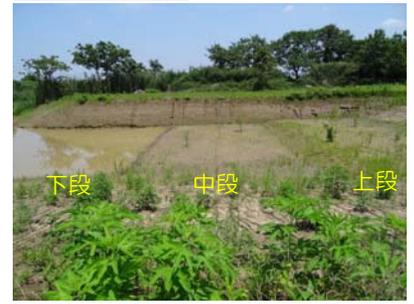


下池⑧-C

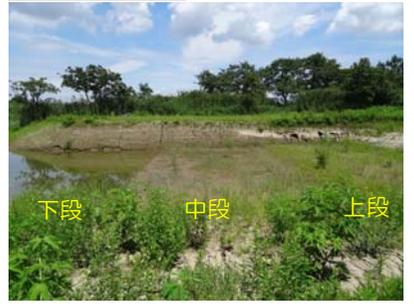
5月22日



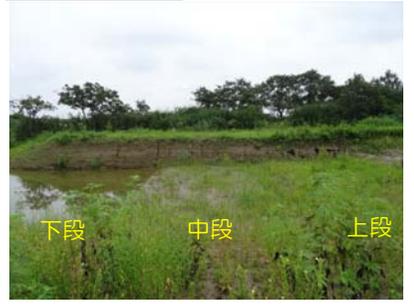
6月24日



7月24日



8月21日



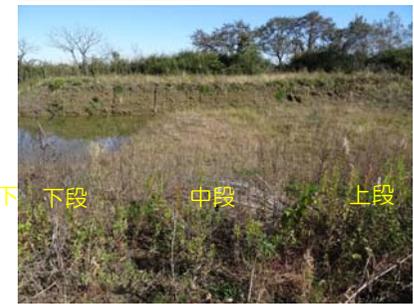
9月24日



10月26日



11月27日



12月25日



1月22日



2月25日



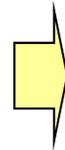
下段は水面が形成され、中～上段は湿地が維持されている。斜面部、上段は草本の生育が目立ちつつある。

7) 下池・試験掘削地：植物 重要種・特定外来種

非公開

H27.5の結果

H27.8の結果



非公開

7) 下池・試験掘削地：植物 確認種・土壌水分【春・夏・秋季】

非公開

植物相

非公開

7) 下池・試験掘削地：植物 植生図【秋季】

非公開

H27.10の結果

非公開